

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局



(43) 国際公開日  
2003年3月27日 (27.03.2003)

PCT

(10) 国際公開番号  
WO 03/024942 A1

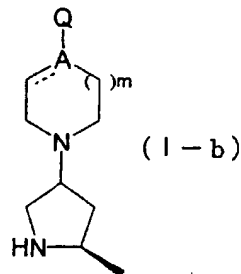
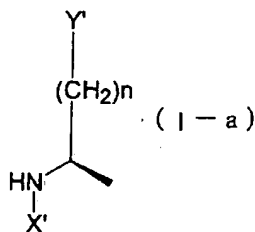
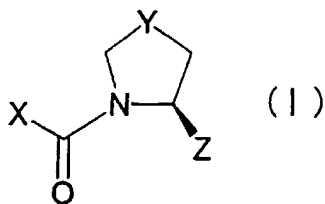
- (51) 国際特許分類<sup>7</sup>: C07D 277/04, 417/12, 417/14, A61K 31/4439, 31/496, 31/454, A61P 3/04, 3/10, 43/00
- (21) 国際出願番号: PCT/JP02/09419
- (22) 国際出願日: 2002年9月13日 (13.09.2002)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:  
特願2001-279084 2001年9月14日 (14.09.2001) JP  
特願2001-304650 2001年9月28日 (28.09.2001) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 三菱ウェルファーマ株式会社 (MITSUBISHI PHARMA CORPORATION) [JP/JP]; 〒541-0046 大阪府 大阪市 中央区平野町二丁目6番9号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 坂下 弘 (SAKASHITA, Hiroshi) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都

中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 吉田 知弘 (YOSHIDA, Tomohiro) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 北嶋 浩 (KITAJIMA, Hiroshi) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 竹内 昌弘 (TAKEUCHI, Masahiro) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 田中 善仁 (TANAKA, Yoshihito) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 芳村 琢也 (YOSHIMURA, Takuya) [JP/JP]; 〒631-0801 奈良県 奈良市 左京1丁目2-66 Nara (JP). 赤星 文彦 (AKAHOSHI, Fumihiko) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 林 義治 (HAYASHI, Yoshiharu) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP).

[続葉有]

(54) Title: THIAZOLIDINE DERIVATIVE AND MEDICINAL USE THEREOF

(54) 発明の名称: チアゾリジン誘導体およびその医薬用途



(57) Abstract: A thiazolidine derivative represented by the general formula (I) [wherein X represents a substituent represented by the formula (I-a) or (I-b) (wherein m is 1 or 2; n is an integer of 1 to 5; X' represents hydrogen, etc.; Y' represents arylamino, heterocycle, etc.; A represents carbon or nitrogen; and Q represents aryl, etc.); Y represents methylene, sulfur, etc.; and Z represents hydrogen or cyano] and a pharmaceutically acceptable salt of the derivative. They have potent DPP-IV inhibitory activity and can hence be provided as, e.g. a preventive/remedy for diabetes or preventive/remedy for obesity.

[続葉有]



(74) 代理人: 高島 一 (TAKASHIMA, Hajime); 〒541-0044  
大阪府 大阪市 中央区伏見町四丁目 2 番 1 4 号 藤村  
大和生命ビル Osaka (JP).

(84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW,  
MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許  
(AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ  
特許 (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR,  
GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, SK, TR), OAPI 特  
許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR,  
NE, SN, TD, TG).

(81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB,  
BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK,  
DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU,  
ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT,  
LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ,  
OM, PH, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM,  
TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM,  
ZW.

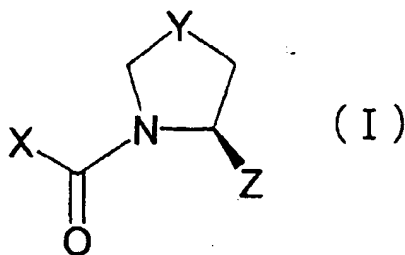
添付公開書類:

— 国際調査報告書

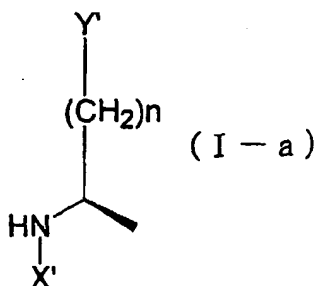
2文字コード及び他の略語については、定期発行される  
各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語  
のガイダンスノート」を参照。

(57) 要約:

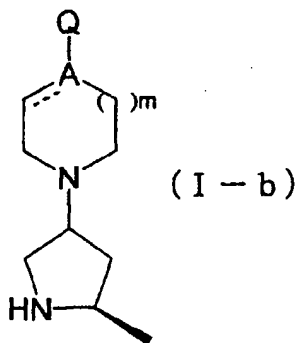
一般式 (I) :



〔式中、Xは下式



又は



〔式中、mは1又は2の整数を示し、nは1～5までの整数を示し、  
X'は水素原子等を示し、Y'はアリアル置換アミノ基、ヘテロサイク  
ル等を示し、Aは炭素原子又は窒素原子を示し、Qはアリアル等を示  
す〕から選ばれる置換基であり、

Yはメチレン、硫黄原子等を示し、Zは水素原子又はシアノを示す〕  
で表されるチアゾリジン誘導体およびその医薬上許容される塩は強力  
なDPP-IV阻害活性を示すことから、糖尿病の予防、治療剤また  
は肥満の予防、治療剤等として提供することができる。

## 明細書

## チアゾリジン誘導体およびその医薬用途

## 技術分野

- 本発明は、ジペプチジルペプチダーゼIV (DPP-IV) 阻害作用を示し、
- 5 DPP-IVが関与する疾患、特に、糖尿病又は肥満等の治療又は予防に有用なチアゾリジン誘導体又はその塩に関する。

## 背景技術

- DPP-IVはN末端から2番目にプロリン (アラニン、ヒドロキシプロリンでもよい) を有するアミノ酸配列を認識し、ジペプチドXaa-Proを産生する
- 10 セリンプロテアーゼである (Xaaは任意のアミノ酸、ProはL-プロリンを示す)。DPP-IVは、哺乳動物組織中に広く分布し、特に血液、腎臓、腸管上皮及び胎盤に存在することが知られている。

- 哺乳動物におけるDPP-IVの生理学的役割は完全には解明されていないが、神経ペプチドの分解 [ヘイマン (Heymann) 等、FEBSレターズ (FEBS Letters)、第91巻、360-364頁 (1978)]、T細胞の活性化 [ショーン (Schon) 等、バイオメディカ・バイオキミカ・アクタ (Biomedica Biochimica Acta)、第44巻、K9-K15頁 (1985)]、転移性腫瘍細胞の内皮への接着 [ジョンソン (Johnson) 等、ジャーナル・オブ・セル・バイオロジー (Journal of Cell Biology)、第121巻、1423-1432頁 (1993)]、HIVウイルスのリンパ球への侵入 [カレバウト (Callebaut) 等、サイエンス (Science)、第262巻、2045-2050頁 (1993)] 等の広範囲にわたる生体機能に関与することが明らかにされつつある。なかでも、強力なインスリン分泌能を有し、食後の血糖値調節を担う生体内物質グルカゴン様ペプチド (GLP-1) を不活性化する酵素としてのDPP
- 25 -IVの役割が注目されている [デアコン (Deacon) 等、ジャーナル・オブ・クリニカル・エンドクリノロジー・アンド・メタボリズム (Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism)、第80巻、952-957頁 (1995)]。

GLP-1は生体内においては数分で代謝されることが知られている。その中でも特にDPP-IVによる代謝は重要であり、GLP-1を速やかに切断して不活性型GLP-1を産生する〔デアコン (Deacon) 等、アメリカン・ジャーナル・オブ・フィジオロジー (American Journal of Physiology)、第271巻、E458-E464頁 (1996)〕。

5  Ph y s i o l o g y)、第271巻、E458-E464頁 (1996)〕。

  加えて、この不活性型GLP-1がGLP-1レセプターに対し拮抗作用することから、GLP-1の生理的作用がさらに減弱化すると考えられている〔ヌーゼン (Knudsen) 等、ヨーロッパ・ジャーナル・オブ・ファーマコロジー (European Journal of Pharmacology)、第

10  318巻、429-435頁 (1996)〕。したがって、DPP-IV阻害によりGLP-1の分解を抑制する方法はGLP-1作用増強のアプローチとして最良と考えられる。すなわち、DPP-IV阻害薬はインスリン非依存型糖尿病 (2型糖尿病) 患者にとって、遷延性低血糖などの副作用を伴わずに食後高血糖を是正するための優れた治療方法になり得るものと期待されている。

15  DPP-IV阻害薬に関する特許出願には以下のようなものがある。

  特表平9-509921号公報には1-[N-ε-(ヒドロキシスクシニル)-L-リジン]ピロリジンが開示されている。このL-リジン部分はアシル置換体に限定されている。

  特表平9-509921号公報には(S)-2-シアノ-1-L-プロリンピロリジン誘導体が開示されている。これにおいて開示された化合物のL-プロリン部分に相当するL-α-アミノ酸は疎水性側鎖を有する事の特徴とする。

20  ロリジン誘導体が開示されている。これにおいて開示された化合物のL-プロリン部分に相当するL-α-アミノ酸は疎水性側鎖を有する事の特徴とする。

  また、WO99/61431公報には天然アミノ酸とチアゾリジン又はピロリジンからなる化合物がDPP-IV阻害作用を示すことが記載されている。

  現在までに多くのDPP-IV阻害薬が報告されているが〔オウガスチンス (Augustyns) 等、カレント・メディシナル・ケミストリー (Current Medicinal Chemistry)、第6巻、311-327頁 (1999)〕、いずれの化合物も、阻害活性、生体内における安定性及び安全性が十分とは言えず、医薬品として満足出来るものではない。したがって、DPP-IV阻害作用による治療効果を有し、医薬品として満足できる化合物の開

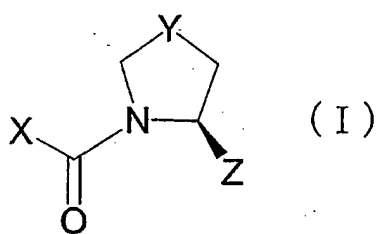
25  (Augustyns) 等、カレント・メディシナル・ケミストリー (Current Medicinal Chemistry)、第6巻、311-327頁 (1999)〕、いずれの化合物も、阻害活性、生体内における安定性及び安全性が十分とは言えず、医薬品として満足出来るものではない。したがって、DPP-IV阻害作用による治療効果を有し、医薬品として満足できる化合物の開

発が望まれている。

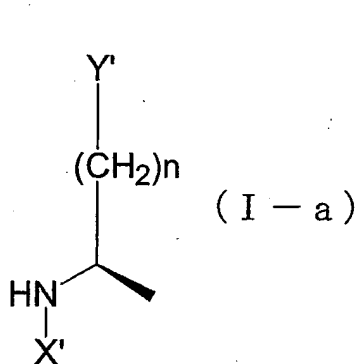
### 発明の開示

- 本発明者らは、上記の点に鑑み新規DPP-IV阻害薬の開発を目的とし鋭意検討を行った。その結果、本発明者らは、側鎖に親水性のアミノ基を導入したチアゾリジン誘導体およびプロリンの $\gamma$ 位に置換基を導入した誘導体が強力なDPP-IV阻害作用を有する事を見出し、さらに安定性を高めて本発明を完成した。
- すなわち、本発明は以下の化合物に関する。

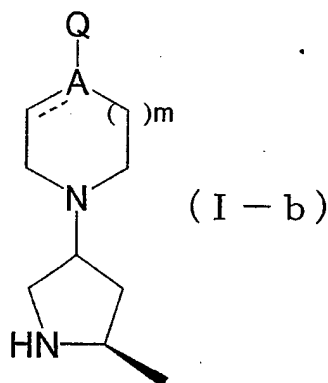
[1] 一般式 (I) :



[式中、Xは下式



又は



- 10 [式中、mは1又は2の整数を示し、

nは1～5までの整数を示し、

X' は水素原子又は置換基を有してもよいアルキルを示し、

Y' は $-NR^1R^2$  ( $R^1$ は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、 $R^2$ は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、

- 15 置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイク

ルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。)を示し、

-----

は、単結合又は二重結合を示し、

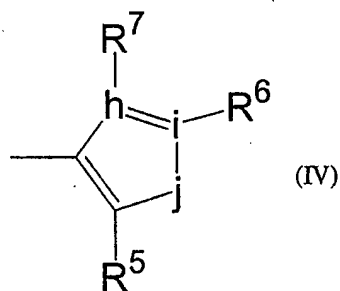
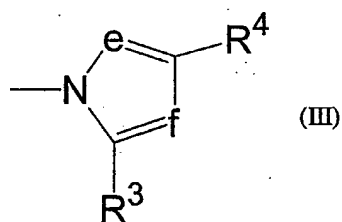
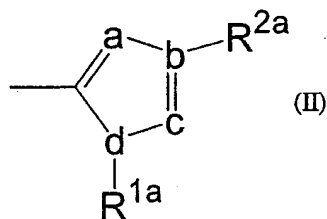
Aは炭素原子又は窒素原子を示し、

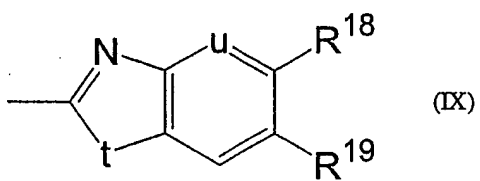
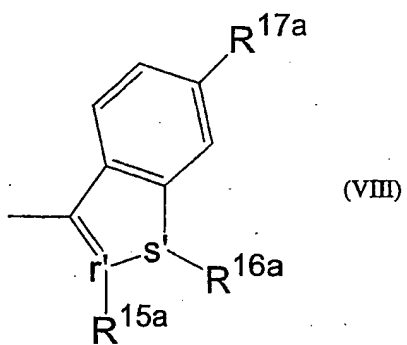
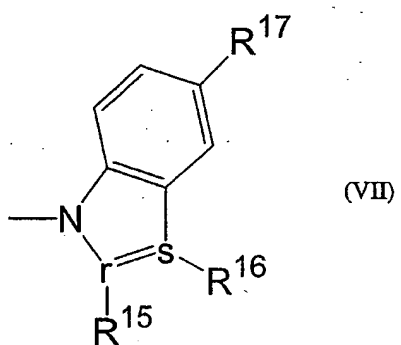
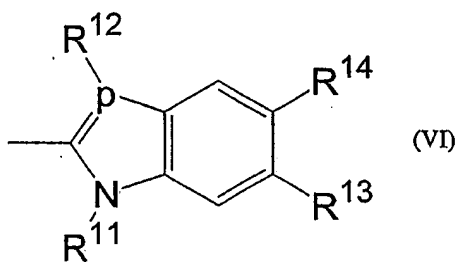
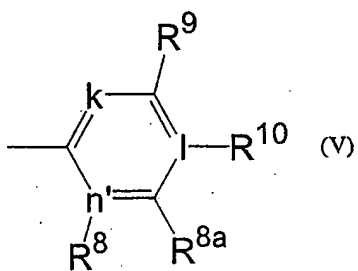
- 5 ただし、i) Aが炭素原子を示す場合、Aは水酸基、カルボキシ又はアルコキシカルボニルで置換されていてもよく、ii) Aが窒素原子を示す場合、

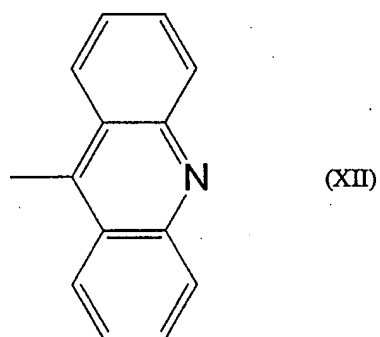
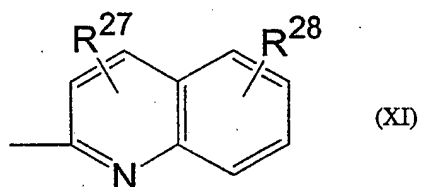
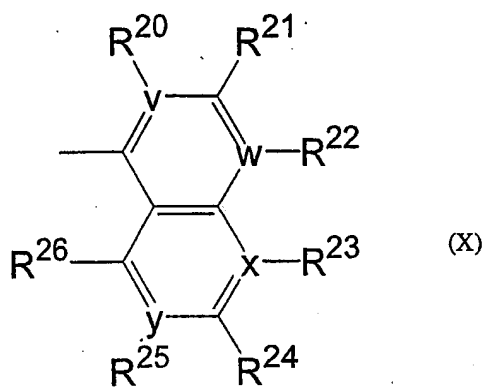
-----

は単結合を示し、

Qは下式 (I I) ~ (X I I) で表される化合物から選ばれるアリールまたはヘテロアリールである；







ただし、

- 5 (i) 式 (I I) 中、a、b、c 及び d は、1～3 個が窒素原子であり、かつ残りが炭素原子であるか、あるいはすべてが窒素原子であり、  
R<sup>1a</sup> は、アルキル、フェニル、ピリジル、ピリミジニル、イミダゾリルまたはオキサゾリルであり、これらの基はそれぞれ 1 または 2 以上のアルキル、アルコキシ、ハロゲンまたはシアノで置換されていてもよく、
- 10 R<sup>2a</sup> は水素原子、アルキルまたはハロアルキルであり、ただし、  
(i-1) b が窒素原子のときは R<sup>2a</sup> は存在せず、  
(i-2) c および d が共に窒素原子であり、a および b が共に炭素原子であり、  
R<sup>1a</sup> がフェニルであり、かつ R<sup>2a</sup> がアルキルであるときは、R<sup>1a</sup> は、上記の置換基を 1 または 2 以上有し、
- 15 (i-3) a および d が共に窒素原子であり、b および c が共に炭素原子であり、



かつ $R^{1a}$ が置換基を有しないフェニルであるときは、 $R^{2a}$ は、アルキルまたはハロアルキルであり、

- (i-4) a、b、c及びdがすべて窒素原子であり、かつ $R^{1a}$ がフェニルであるときは、①式(I-b)のAは炭素原子であり、かつ $R^{1a}$ は上記置換基を有しないか、あるいは② $R^{1a}$ はアルキルまたはハロゲンで1または2以上置換されるかのいずれかであり、

(ii) 式(III)中、e及びfは一方が窒素原子であり、他方が炭素原子であるか、あるいは共に炭素原子であり(「e、fは0~1個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である)、

- 10  $R^3$ 及び $R^4$ は、同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、アルキル、フェニルまたはピリジルであり、

(iii) 式(IV)中、jは硫黄原子、酸素原子または窒素原子であり、h及びiは、同じでも異なってもよく、それぞれ窒素原子又は炭素原子であり(「h、iは、0~2個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である)、

- 15  $R^5$ 及び $R^7$ は、同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、hが窒素原子のときは $R^7$ は存在しない)、

$R^6$ は、水素原子またはアルキルであり(ただし、iが窒素原子のときは $R^6$ は存在しない)、

- 20 (iv) 式(V)中、k、l及びn'は、同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは炭素原子であり(「k、l、n'は、0~2個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である)、 $R^8$ は、水素原子、フェニル、ピリジルまたはニトロであり(ただし、n'が窒素原子のときは $R^8$ は存在しない)、

- 25  $R^{8a}$ は水素原子またはフェニルであり、

$R^9$ は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

$R^{10}$ は、水素原子またはシアノであり(ただし、lが窒素原子のときは $R^{10}$ は存在しない)、ただし、

(iv-1) kおよびn'が共に窒素原子のときは、①式(I-b)のAは窒素原

子であり、かつ $R^{8a}$ 、 $R^9$ 及び $R^{10}$ はすべて水素原子であるか、または② $R^{8a}$ はフェニルであり、かつ $R^9$ はハロアルキルであるかのいずれかであり、

(iv-2)  $k$ 、 $l$ 及び $n'$ がすべて炭素原子であるときは、 $R^8$ はフェニルまたはピリジルであり、

- 5 (iv-3)  $k$ が窒素原子であり、かつ $l$ および $n'$ が共に炭素原子であるときは、① $R^8$ はフェニルまたはニトロであるか、あるいは② $R^9$ はシアノであるかのいずれかであり、

(iv-4)  $l$ が窒素原子であるときは、 $k$ または $n'$ のいずれか1個が窒素原子であり、

- 10 (v) 式(VI)中、 $p$ は、窒素原子または炭素原子であり、 $R^{11}$ は、水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、 $p$ が窒素原子であるとき、 $R^{11}$ はフェニルまたはピリジルである)、 $R^{12}$ は、水素原子またはアルキルであり(ただし、 $p$ が窒素原子のときは $R^{12}$ は存在しない)、

- 15  $R^{13}$ 及び $R^{14}$ は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか1個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、

(vi) 式(VII)中、 $r$ 及び $s$ は、1個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり、

- 20  $R^{15}$ は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、 $r$ が窒素原子のときは $R^{15}$ は存在しない)、

$R^{16}$ は、水素原子またはアルキルであり(ただし、 $s$ が窒素原子のときは $R^{16}$ は存在しない)、

$R^{17}$ は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

- 25 (vii) 式(VIII)中、 $r'$ 及び $s'$ は同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは窒素原子であり(「 $r'$ 、 $s'$ は1~2個が窒素原子であり残りが炭素原子であり」と同義である)、

$R^{15a}$ は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、 $r'$ が窒素原子のときは $R^{15a}$ は存在しない)、

$R^{16a}$ は、水素原子またはアルキルであり（ただし、 $r'$  および  $s'$  が共に窒素原子であるときは、 $R^{16a}$ は水素原子である）、

$R^{17a}$ は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(viii) 式 (IX) 中、 $t$  は、硫黄原子または酸素原子であり、

5  $u$  は、炭素原子または窒素原子であり、

$R^{18}$  および  $R^{19}$  は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか1個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、ただし、

(viii-1)  $u$  が炭素原子であるときは、 $R^{18}$  および  $R^{19}$  のいずれか1個は、シアノ、アルコキシまたはハロゲンであり（「 $R^{18}$  および  $R^{19}$  が共に水素原子であることはなく」と同義である）、

(viii-2)  $t$  が硫黄原子であるときは、式 (I-b) 中の  $A$  は炭素原子であり、 $R^{19}$  は水素原子であり、かつ  $R^{18}$  はメトキシまたはシアノであり、

(viii-3) 式 (I-b) 中の  $A$  が窒素原子であり、 $t$  が酸素原子であり、 $R^{19}$  が水素原子であり、かつ  $u$  が炭素原子であるときは、 $R^{18}$  はアルコキシまたはハロゲンであり、

(viii-4) 式 (I-b) 中の  $A$  が炭素原子であり、 $R^{19}$  が水素原子であり、 $u$  が炭素原子であり、かつ  $t$  が酸素原子のときは、 $R^{18}$  はハロゲンであり、

(ix) 式 (X) 中、 $v$ 、 $w$ 、 $x$  及び  $y$  は、同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくとも2つは炭素原子であり（「 $v$ 、 $w$ 、 $x$ 、 $y$  は、0～2個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である）、

$R^{20}$ 、 $R^{21}$ 、 $R^{22}$ 、 $R^{23}$ 、 $R^{24}$ 、 $R^{25}$  及び  $R^{26}$  は、同じでも異なってもよく、1～3個がハロアルキル、メトキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメトキシ、2, 2, 2-トリフルオロエトキシ、ヒドロキシ、シアノまたはハロゲンであり、残りが水素原子であり（ただし、 $v$  が窒素原子のときは  $R^{20}$  は存在せず、 $w$  が窒素原子のときは  $R^{22}$  は存在せず、 $x$  が窒素原子のときは  $R^{23}$  は存在せず、 $y$  が窒素原子のときは  $R^{25}$  は存在しない）、ただし、

(ix-1)  $v$  が窒素原子であり、かつ  $w$ 、 $x$  及び  $y$  がすべて炭素原子のときは、 $R^{22}$  はハロアルキルであり、

(ix-2) vおよびwが共に窒素原子であり、かつxおよびyが共に炭素原子のときは、 $R^{21}$ はシアノであり、

(ix-3) wが窒素原子であり、かつv、x及びyがすべて炭素原子のときは、

- ① $R^{21}$ は水素原子であり、かつ $R^{20}$ はシアノであるか、② $R^{21}$ はハロアルキル  
5 であり、かつ $R^{23}$ はヒドロキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメト  
キシまたは2, 2, 2-トリフルオロエトキシであるか、③ $R^{21}$ はハロアルキル  
であり、かつ $R^{23}$ および $R^{25}$ は共にメトキシであるか、④ $R^{21}$ はハロアルキル  
であり、かつ $R^{24}$ はヒドロキシ、クロロまたはトリフルオロメチルであるか、⑤  
10  $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{25}$ はヒドロキシまたはトリフルオロメトキシ  
であるか、⑥ $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{26}$ はメトキシであるか、あるいは  
⑦ $R^{21}$ はシアノであり、かつ $R^{23}$ はメトキシであるかのいずれかであり、

(x) 式(XI)中、 $R^{27}$ 及び $R^{28}$ は、同じでも異なってもよく、それぞれ  
ハロアルキルまたはアルコキシである。] から選ばれる置換基であり、

Yはメチレン、ヒドロキシメチレン、硫黄原子、スルフィニル又はスルホニルを  
15 示し、

Zは水素原子又はシアノを示す；

ただし、Xが式(I-a)で表される置換基である場合は、Zは水素原子であ  
る。] で表されるチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

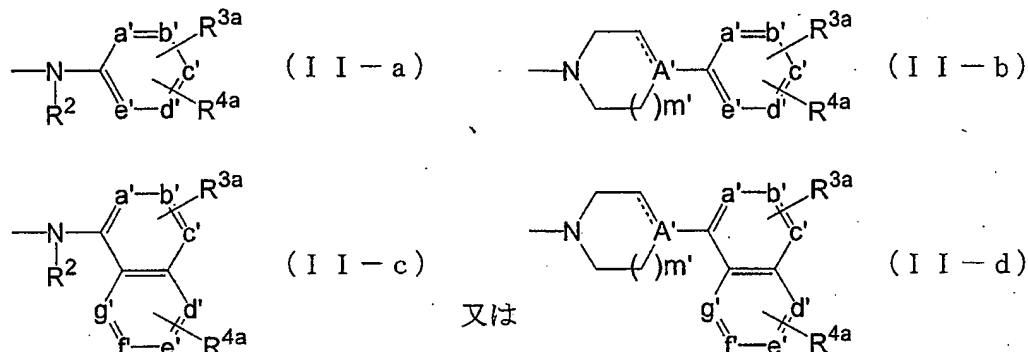
- [2] 一般式(I-a)のY'が、 $-NR^1R^2$  [ $R^1$ は置換基を有してもよい  
20 アリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、 $R^2$ は水素原子、置  
換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有して  
もよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有  
してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、1~2個の  
窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよい  
25 ヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していても  
よい芳香環が置換又は縮合していてもよい。] である上記[1]に記載のチアゾ  
リジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[3] 一般式(I)のXが式(I-a)で表される置換基であり、かつZが水素  
原子である上記[1]または[2]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許

容される塩。

[4] 一般式 (I) の X が式 (I-b) で表される置換基である上記 [1] に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[5] 一般式 (I-a) の Y' が下式



5    [式中、

-----

は、単結合又は二重結合を示し、

R<sup>2</sup>は請求項1と同義であり、

R<sup>3a</sup>及びR<sup>4a</sup>は同一又は異なってもよく、それぞれ独立して水素原子、置換

10    基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、-NR<sup>5a</sup>R<sup>6a</sup>、-NH<sub>2</sub>SO<sub>2</sub>R<sup>7a</sup>、-OR<sup>8b</sup>、-COOR<sup>9a</sup>、-CONH<sub>2</sub>SO<sub>2</sub>R<sup>10a</sup>、-SO<sub>2</sub>OR<sup>11a</sup>、-SO<sub>2</sub>R<sup>12a</sup>又は-CONR<sup>13a</sup>R<sup>14a</sup> (式中、R<sup>5a</sup>、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8b</sup>、R<sup>9a</sup>、R<sup>10a</sup>、R<sup>11a</sup>、R<sup>12a</sup>、R<sup>13a</sup>及びR<sup>14a</sup>は同一又は

15    は異なってもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、R<sup>5a</sup>とR<sup>6a</sup>、R<sup>13a</sup>とR<sup>14a</sup>はそれぞれ互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合し

ていてもよい。)を示し、

$a'$ ,  $b'$ ,  $c'$ ,  $d'$ ,  $e'$ ,  $f'$  および  $g'$  は全て炭素原子であるか、あるいはいずれか1つ又は2つが窒素原子であり、かつ残りが炭素原子を示し、 $m'$  は0、1、2又は3を示し、

5  $A'$  は炭素原子または窒素原子を示し、

ただし、i)  $A'$  が炭素原子を示す場合、 $A'$  は水酸基、カルボキシル又はアルコキシカルボニルで置換されていてもよく、ii)  $A'$  が窒素原子を示す場合、

.....

は、単結合を示す。)から選ばれる置換基である上記[3]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 10 [6] 一般式 (II-a)、(II-b)、(II-c) および (II-d) の  $R^{3a}$  及び  $R^{4a}$  が、同一又は異なってもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、
- 15  $-NR^{5a}R^{6a}$ 、 $-NH\text{SO}_2R^{7a}$ 、 $-OR^{8b}$ 、 $-COOR^{9a}$ 、 $-CONH\text{SO}_2R^{10a}$ 、 $-SO_2OR^{11a}$ 、 $-SO_2R^{12a}$  又は  $-CONR^{13a}R^{14a}$  (式中、 $R^{5a}$ 、 $R^{6a}$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8b}$ 、 $R^{9a}$ 、 $R^{10a}$ 、 $R^{11a}$ 、 $R^{12a}$ 、 $R^{13a}$  及び  $R^{14a}$  は同一又は異なってもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアル
- 20 キルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、 $R^{5a}$  と  $R^{6a}$ 、 $R^{13a}$  と  $R^{14a}$  はそれぞれ互いに結合して1~2個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサ
- 25 イクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。)である上記[5]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[7]  $Y$  が硫黄原子であり、かつ  $X'$  が水素原子である上記[3]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[8] Yが硫黄原子であり、X' が水素原子であり、かつY' が置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2-ピリジルアミノ又は4-(1-イソキノリル)-1-ピペラジニルである上記[3]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 5 [9] 上記[1]～[8]のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩と薬理学上許容しうる担体とを含有する医薬組成物。

[10] 上記[1]～[8]のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩を含有するDPP-IV阻害剤。

- [11] 上記[1]～[8]のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその  
10 医薬上許容される塩を有効成分とするDPP-IVが関与する疾患の治療剤。

[12] DPP-IVが関与する疾患が糖尿病又は肥満である上記[11]に記載の治療剤。

本明細書中で使用されている各記号について以下に説明する。

- 15 X'、R<sup>1a</sup>、R<sup>2</sup>、R<sup>2a</sup>、R<sup>3</sup>、R<sup>3a</sup>、R<sup>4</sup>、R<sup>4a</sup>、R<sup>5a</sup>、R<sup>6</sup>、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8b</sup>、R<sup>9a</sup>、R<sup>10a</sup>、R<sup>11a</sup>、R<sup>12</sup>、R<sup>12a</sup>、R<sup>13a</sup>、R<sup>14a</sup>、R<sup>15</sup>、R<sup>16</sup>、R<sup>15a</sup>及びR<sup>16a</sup>で表されるアルキルとしては、好ましくは炭素数1～8で直鎖状又は分岐鎖状のアルキルを意味し、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、tert-ブチル、ペンチル、ヘキシル、オクチル等  
20 が挙げられる。中でも、メチルが好ましい。

R<sup>1a</sup>で表される基に置換していてもよいアルキル（ただし、R<sup>1a</sup>がアルキルのときは置換基とはならない）としては、上記と同様のものが挙げられる。

- シクロアルキルとは、好ましくは炭素数3～7であり、例えばシクロプロピル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル等が挙げられる。中でも、シ  
25 クロヘキシルが好ましい。

シクロアルキルアルキルとは、そのシクロアルキル部が上記と同等であり、そのアルキル部が好ましくは炭素数1～3で直鎖状又は分岐鎖状であるシクロアルキルアルキルを意味し、例えばシクロプロピルメチル、2-シクロブチルエチル、

3-シクロペンチルプロピル、シクロヘキシルメチル、2-シクロヘキシルエチル、シクロヘプチルメチル等が挙げられる。中でも、シクロヘキシルメチルが好ましい。

5     アリールとは、好ましくは炭素数6～14のアリールを意味し、好ましくはフェニル、ナフチル、又はオルト融合した二環式の基で8～10個の環原子を有し、少なくとも一つの環が芳香環であるもの（例えばインデニル基）等が挙げられる。中でも、フェニルが好ましい。

10     アリールアルキルとは、そのアリール部は上記と同等であり、そのアルキル部は好ましくは炭素数1～3で直鎖状でも分子鎖状でもよく、例えばベンジル、ベンズヒドリル、フェネチル、3-フェニルプロピル、1-ナフチルメチル、2-（1-ナフチル）エチル、2-（2-ナフチル）エチル、3-（2-ナフチル）プロピル等が挙げられる。中でも、ベンジルが好ましい。

15     ヘテロアリールとは、好ましくは炭素及び1～4個のヘテロ原子（酸素、硫黄又は窒素）を有する5～6員環基、又はそれから誘導される8～10個の環原子を有するオルト融合した二環式ヘテロアリール、特にベンズ誘導体、若しくはプロペニレン、トリメチレン若しくはテトラメチレン基をそれに融合して導かれるもの、並びにその安定なN-オキシド等が挙げられる。例えば、ピロリル、フリル、チエニル、オキサゾリル、イソキサゾリル、イミダゾリル、チアゾリル、イソチアゾリル、ピラゾリル、トリアゾリル、テトラゾリル、1, 3, 5-オキサ  
20     ジアゾリル、1, 2, 4-オキサジアゾリル、1, 3, 4-オキサジアゾリル、1, 2, 4-チアジアゾリル、ピリジル（2-, 3-, 4-ピリジル）、ピラジニル、ピリミジニル、ピリダジニル、1, 2, 4-トリアジニル、1, 2, 3-トリアジニル、1, 3, 5-トリアジニル、ベンズオキサゾリル、ベンズイソキサゾリル、ベンゾチアゾリル、ベンズイソチアゾリル、ベンズイミダゾリル、オ  
25     キサゾピリジル、イミダゾピリダジニル、チアナフテニル、イソチアナフテニル、ベンゾフラニル、イソベンゾフラニル、ベンゾチエニル、クロメニル、イソインドリル、インドリル、インドリニル、インダゾリル、イソキノリル、キノリル、フタラジニル、キノキサリニル、キナゾリニル、シンノリニル、2, 1, 3-ベンズオキサジアゾリル、ベンズオキサジニル等が挙げられる。中でも、ピリ



ジル、ピリミジニルが好ましい。

ヘテロアリールアルキルとは、そのヘテロアリール部は上記と同等であり、そのアルキル部は、好ましくは炭素数1～3で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えば2-ピロリルメチル、2-ピリジルメチル、3-ピリジルメチル、4-ピリジ  
5 ルメチル、2-チエニルメチル、2-(2-ピリジル)エチル、2-(3-ピリ  
ジル)エチル、2-(4-ピリジル)エチル、3-(2-ピロリル)プロピル、  
4-イミダゾリルメチル等が挙げられる。中でも、2-ピリジルメチルが好まし  
い。

ヘテロサイクルとは、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ  
10 原子(酸素又は硫黄)を有していてもよく、好ましくは1～2個の窒素原子また  
は酸素原子を有してもよく、飽和又は不飽和である。単環だけでなく、スピロ環  
も包含され、好ましくは単環の4～7員環基又はスピロ環である10～11員環  
基である。ヘテロサイクルとしては、例えばアゼチジニル、ピロリジニル、ピペ  
リジノ、ピペラジニル、モルホリノ、1,4-ジアゼパニル、1,2,5,6-  
15 テトラヒドロピリジル、チオモルホリノ、オキソチオモルホリノ、ジオキソチオ  
モルホリノ、3-アザスピロ[5,5]ウンデシル、1,3,8-トリアザスピ  
ロ[4,5]デシル等が挙げられる。中でも、ピペリジノ又はピペラジニルが好  
ましい。

さらに、上記ヘテロサイクルは置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮  
20 合していてもよい。置換基を有していてもよい芳香環における芳香環としては、  
例えば、ベンゼン環又はピリジン環等が挙げられ、好ましくはベンゼン環である。  
芳香環は、下記置換基を1または2以上有していてもよく、該置換基としては、  
例えばシアノ又はトリフルオロメチルが好ましい。縮合環の具体的な例としては、  
例えば、インドリニル、イソインドリニル、1,2,3,4-テトラヒドロキノ  
25 リル、1,2,3,4-テトラヒドロイソキノリル、フタルイミド、インドリル  
等が挙げられる。中でも、インドリニル又は1,2,3,4-テトラヒドロキノ  
リルが好ましい。

$R^{13}$ 、 $R^{14}$ 、 $R^{18}$ 、 $R^{19}$ 、 $R^{27}$ 及び $R^{28}$ で表されるアルコキシとしては、好  
ましくは炭素数1～8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメトキシ、エトキ

シ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、オクチルオキシ等が挙げられる。中でも、メトキシまたはイソプロポキシが好ましい。

- 5 AおよびA' が炭素原子を示す場合、当該炭素原子に置換していてもよいアルコキシカルボニルとしては、アルコキシ部が上記と同様のものであるアルコキシカルボニルが挙げられる。

R<sup>1a</sup>に表される基が置換していてもよいアルコキシとしては、上記と同様のものが挙げられる。

- 10 R<sup>3a</sup>、R<sup>4a</sup>、R<sup>13</sup>、R<sup>14</sup>、R<sup>18</sup>、R<sup>19</sup>、R<sup>20</sup>、R<sup>21</sup>、R<sup>22</sup>、R<sup>23</sup>、R<sup>24</sup>、R<sup>25</sup>及びR<sup>26</sup>で表されるハロゲンとしては、塩素、臭素、フッ素、ヨウ素が挙げられる。中でも、塩素又はフッ素が好ましい。

R<sup>1a</sup>で表される基に置換していてもよいハロゲンとしては、上記と同様のものが挙げられる。

- 15 R<sup>2a</sup>、R<sup>3a</sup>、R<sup>4a</sup>、R<sup>5a</sup>、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8b</sup>、R<sup>9</sup>、R<sup>9a</sup>、R<sup>10a</sup>、R<sup>11a</sup>、R<sup>12a</sup>、R<sup>13a</sup>、R<sup>14a</sup>、R<sup>17</sup>、R<sup>17a</sup>、R<sup>20</sup>、R<sup>21</sup>、R<sup>22</sup>、R<sup>23</sup>、R<sup>24</sup>、R<sup>25</sup>、R<sup>26</sup>、R<sup>27</sup>及びR<sup>28</sup>で表されるハロアルキルとは、ハロゲンが1または2以上置換したアルキルであり、当該ハロゲン及びアルキルは上記と同義であり、例えば、トリフルオロメチル、2, 2, 2-トリフルオロエチル、ペンタフルオロエチル等が挙げられる。中でも、トリフルオロメチル又は2, 2, 2-トリフルオ  
20 ロエチルが好ましい。

- 25 なお、上記置換基のうち、X'、R<sup>2</sup>、R<sup>3a</sup>、R<sup>4a</sup>、R<sup>5a</sup>、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8b</sup>、R<sup>9a</sup>、R<sup>10a</sup>、R<sup>11a</sup>、R<sup>12a</sup>、R<sup>13a</sup>及びR<sup>14a</sup>で表される、アルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリール、アリールアルキル、ヘテロアリール、ヘテロアリールアルキル及びヘテロサイクルは、以下に示す1個以上の置換基によってそれぞれ置換されていてもよい。

これらの置換基としては、例えば、ハロゲン（ただし、R<sup>3a</sup>、R<sup>4a</sup>、R<sup>5a</sup>、R<sup>6a</sup>、R<sup>7a</sup>、R<sup>8b</sup>、R<sup>9a</sup>、R<sup>10a</sup>、R<sup>11a</sup>、R<sup>12a</sup>、R<sup>13a</sup>及びR<sup>14a</sup>におけるアルキルの置換基として、ハロゲンを除く。）、水酸基、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル、アルキル（ただし、上記アルキルの置換基とはならない）、ア

- ルコキシ、アルキルチオ、ホルミル、アシルオキシ、オキソ、フェニル、2-ピリジル、3-ピリジル、4-ピリジル（ただし、アルキルの置換基としてフェニル、2-、3-、4-ピリジルを除く）、4-ピペリジニル、2-モルホリノエチル、3-ピコリル、アリールアルキル、 $-\text{COOR}_a$ 、 $-\text{CH}_2\text{COOR}_a$ 、 $-\text{OCH}_2\text{COOR}_a$ 、 $-\text{CONR}_b\text{R}_c$ 、 $-\text{CH}_2\text{CQ}'\text{NR}_b\text{R}_c$ （ $\text{Q}'$  は $=\text{O}$ 又は $=\text{S}$ を示す。）、 $-\text{OCH}_2\text{CONR}_b\text{R}_c$ 、 $-\text{COO}(\text{CH}_2)_2\text{NR}_e\text{R}_f$ 、 $-\text{SO}_2\text{T}_1$ 、 $-\text{CONR}_d\text{SO}_2\text{T}_1$ 、 $-\text{NR}_e\text{R}_f$ 、 $-\text{NR}_g\text{CHO}$ 、 $-\text{NR}_g\text{COT}_2$ 、 $-\text{NR}_g\text{COOT}_2$ 、 $-\text{NR}_g\text{CONR}_i\text{R}_j$ 、 $-\text{NR}_k\text{SO}_2\text{T}_3$ 、 $-\text{SO}_2\text{NR}_l\text{R}_m$ 、 $-\text{SO}_2\text{NR}_n\text{COT}_4$ 、メチレンジオキシ、エチレンジオキシ等が挙げられ、好ましくは
- 10 はハロゲン、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル又は $-\text{SO}_2\text{T}_1$ 等が挙げられる。

- これらの置換基は、さらに置換基を有していてもよく、例えば、置換基を有するフェニル、2-ピリジル、4-ピペリジニルとしては、4-シアノフェニル、4-クロロフェニル、4-メトキシフェニル、5-シアノ-2-ピリジル、1-
- 15 エトキシカルボニル-4-ピペリジニル等が挙げられる。

ここで、上記置換基において、ハロゲン、アルキル、アリールアルキルは前述と同様のものが挙げられる。

- アルコキシは、好ましくは炭素数1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、
- 20 シ、オクチルオキシ等が挙げられる。アルキルチオは、好ましくは炭素数1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、ブチルチオ、ペンチルチオ、ヘキシルチオ、オクチルチオ等が挙げられる。アシルオキシは、好ましくは炭素数1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばホルミルオキシ、アセチルオキシ、プロピオニルオキシ、ブチリルオキシ、バレリルオキシ、
- 25 ルオキシ、ピバロイルオキシ、ヘキサノイルオキシ、ベンゾイルオキシ等が挙げられる。

また、 $\text{R}_a \sim \text{R}_n$ は、水素、アルキル（前述と同様）、アリールアルキル（前述と同様）を示す。なお、 $-\text{NR}_b\text{R}_c$ 、 $-\text{NR}_e\text{R}_f$ 、 $-\text{NR}_i\text{R}_j$ 及び $-\text{NR}_l\text{R}_m$ における $\text{R}_b$ と $\text{R}_c$ 、 $\text{R}_e$ と $\text{R}_f$ 、 $\text{R}_i$ と $\text{R}_j$ 、 $\text{R}_l$ と $\text{R}_m$ は、それぞれ互いに結合して炭

素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子（酸素又は硫黄）を有していてもよいヘテロサイクル、好ましくは1～2個の窒素原子または酸素原子を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、さらに、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が縮合していてもよく（前述と同様であり、

5. これは上述のヘテロサイクルの置換基として挙げられた置換基により置換されていてもよい。）、さらに $-NR_fR_g$ は $=O$ を有するヘテロアリアル（例えば2-ピロリジノン-1-イル、スクシンイミド、オキサゾリジン-2-オン-3-イル、2-ベンズオキサゾリノン-3-イル、フタルイミド、シス-ヘキサヒドロフタルイミド等）を示すこともできる。 $T_1 \sim T_4$ は、水素原子、アルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリアル、アリアルアルキル、ヘテロアリアル、ヘテロアリアルアルキル又はハロアルキルを示し、これは上述のアルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリアル、アリアルアルキルの置換基として挙げられた置換基により置換されていてもよい。

- 15  $R^{1a}$ 、 $R^3$ 、 $R^4$ 、 $R^5$ 、 $R^7$ 、 $R^8$ 及び $R^{11}$ で表されるピリジルとしては、1-ピリジル、2-ピリジル、3-ピリジル、4-ピリジルが挙げられる。

$R^{1a}$ で表されるピリミジニルとしては、1-ピリミジニル、2-ピリミジニル、4-ピリミジニル、5-ピリミジニルが挙げられる。

$R^{1a}$ で表されるイミダゾリルとしては、1-イミダゾリル、2-イミダゾリル、4-イミダゾリルが挙げられる。

- 20  $R^{1a}$ で表されるオキサゾリルとしては、2-オキサゾリル、4-オキサゾリル、5-オキサゾリルが挙げられる。

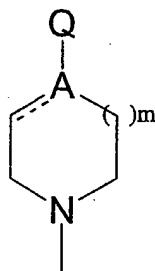
- 式(I I)において、「cおよびdが共に窒素原子であり、aおよびbが共に炭素原子であり、 $R^{1a}$ がフェニルであり、かつ $R^{2a}$ がアルキルであるときは、 $R^{1a}$ は、上記の置換基を1または2以上有する」とは、「cおよびdが共に窒素原子であり、aおよびbが共に炭素原子であり、かつ $R^{2a}$ がアルキルであるときは、  
25  $R^{1a}$ が無置換フェニルではない」ことと同義である。

式(I I)において、「a、b、c及びdがすべて窒素原子であり、かつ $R^{1a}$ がフェニルであるときは、①式(I-b)のAは炭素原子であり、かつ $R^{1a}$ は上記置換基を有しないか、あるいは② $R^{1a}$ はアルキルまたはハロゲンで1または2

以上置換されるかのいずれかである」とは、「a、b、c及びdがすべて窒素原子であるときは、①式(I-b)のAは炭素原子であり、かつR<sup>1a</sup>は置換基を有するフェニルではないか、あるいは②R<sup>1a</sup>はアルコキシ又はシアノで1又は2以上置換されたフェニルでなく、かつ無置換のフェニルでもないかのいずれかである」ことと同義である。

本発明の化合物(I)中、Xが式(I-a)で表される置換基であり、かつZが水素原子である化合物において、Y'としては、上記式(II-a)、(II-b)、(II-c)および(II-d)で表される置換基が好ましく、置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2-ピリジルアミノ又は4-(1-イソキノリル)-1-ピペラジニルがより好ましい。また、Yとしては硫黄原子が好ましく、X'としては水素原子が好ましい。

Xが式(I-b)で表される化合物(I)において、式



[式中の各記号は前記と同義である。]

が結合している不斉炭素により、化合物(I)は光学活性体又はジアステレオマー混合物として存在することができるが、当該ジアステレオマー混合物は公知の手法により各光学活性体に分離することができる。

化合物(I)は多形(polymorphism)を示すことができ、また、1より多くの互変異性体として存在することができる。

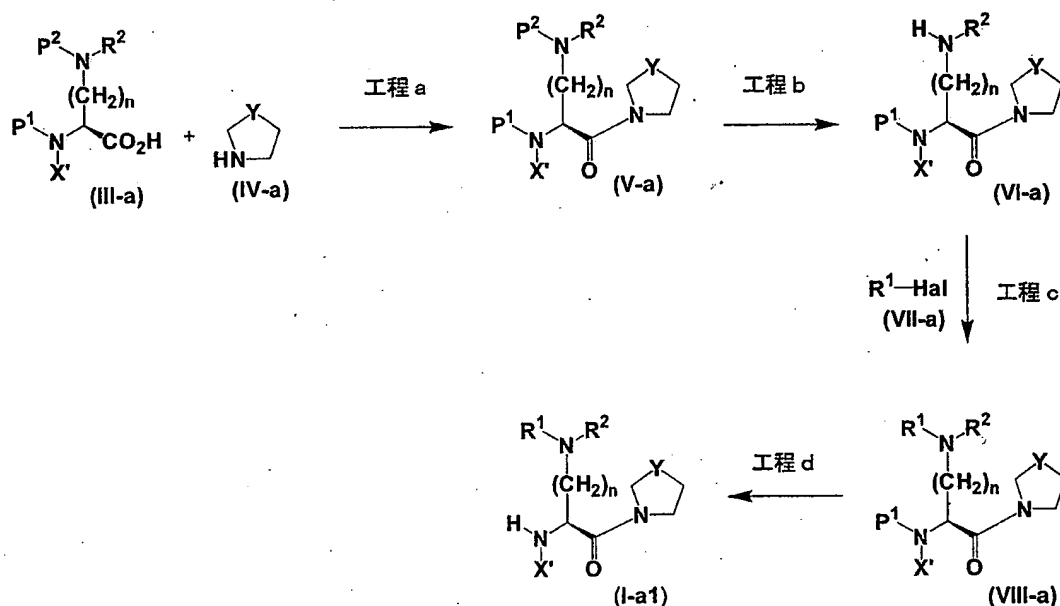
したがって、本発明は、上記のようないかなる立体異性体、光学異性体、多形体、互変異性体、及びそれらの任意の混合物等を含むものである。

化合物(I)の医薬上許容される塩としては、無機酸付加塩(例えば、塩酸、臭化水素酸、ヨウ化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸等との塩)、有機酸付加塩(例えば、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、ギ酸、酢酸、トリフルオロ酢酸、シュウ酸、クエン酸、マロン酸、フマル酸、グルタル

酸、アジピン酸、マレイン酸、酒石酸、コハク酸、マンデル酸、リンゴ酸、パン  
トテン酸、メチル硫酸等との塩)、アミノ酸との塩(例えば、グルタミン酸、ア  
スパラギン酸等との塩)等が挙げられる。

本発明のチアゾリジン誘導体は、以下の方法により製造することができる。

- 5 スキーム 1 に、X が一般式 (I-a)、Z が水素原子で表される化合物 (I) に  
おいて R<sup>1</sup> がアリール又はヘテロアリールである化合物の製造方法を示す。  
スキーム 1



- [式中、P<sup>1</sup> 及び P<sup>2</sup> はアミノ酸の保護基 (例えば、tert-ブトキシカルボ  
ニル (Boc)、ベンジルオキシカルボニル (Cbz)、(9H-フルオレンー  
10 9-イル) メチルオキシカルボニル (Fmoc) 等) あるいは固相担体 (例えば  
カルボニル基を介したワングレジン) を示し、Hal はハロゲン (好ましくはフ  
ッ素) を示し、他の各記号は前記と同義である。]

工程 a : 化合物 (III-a) と化合物 (IV-a) を反応させてアミド化合物  
(V-a) を得る工程である。

- 15 化合物 (III-a) のカルボン酸を活性化する縮合剤として、例えばジシク  
ロヘキシルカルボジイミド (DCC)、N-(3-ジメチルアミノプロピル)-  
N'-エチルカルボジイミド (EDC) 又はその塩酸塩、2-エトキシ-1-エ

トキシカルボニル-1, 2-ジヒドロキシキノリン (EEDQ)、カルボジイミ  
ダゾール (CDI)、ジエチルホスホリルシアニド、ベンゾトリアゾール-1-  
イルオキシトリスピロリジノホスホニウムヘキサフルオロホスフェート (PyB  
OP)、ジフェニルホスホリルアジド (DPPA)、クロロギ酸イソブチル、塩  
5 化ジエチルアセチル、塩化トリメチルアセチル等が挙げられ、好ましくはEDC  
が挙げられる。これらの縮合剤を単独で、あるいはN-ヒドロキシスクシンイミ  
ド (HONSu)、ヒドロキシベンゾトリアゾール (HOBT)、3-ヒドロキ  
シ-4-オキソ-3, 4-ジヒドロ-1, 2, 3-ベンゾトリアジン (HOObt)  
T)、4-ジメチルアミノピリジン (DMAP) 等の添加剤、好ましくはHOB  
10 Tと組み合わせて用いる。

化合物 (IV-a) の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、90~3  
00モル%、好ましくは100~150モル%である。

縮合剤の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、100~300モル%、  
好ましくは100~200モル%である。

15 添加剤の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、100~200モル%、  
好ましくは100~150モル%である。

当該反応は通常当該反応に不活性な溶媒中で行われ、用いられる不活性な溶媒  
は非プロトン性のものならばいかなるものでもよく、好適なものとして、アセト  
ニトリル、テトラヒドロフラン、ジクロロメタン、クロロホルム、N, N-ジメ  
20 チルホルムアミド (DMF) 等が挙げられる。また、当該縮合は、通常-30~  
80℃の温度で行われ、好ましくは-10~25℃で行われる。

工程b: 化合物 (V-a) を脱保護させて化合物 (VI-a) を得る工程である。

この反応において、保護基P<sup>2</sup>がBoc基の場合は、例えば、アセトニトリル、  
テトラヒドロフラン、1, 4-ジオキサン、酢酸エチル、メタノール、エタノー  
25 ル、ジクロロメタン、クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、塩化  
水素又はトリフルオロ酢酸等の酸を用いて、通常-30~60℃で10分~24  
時間反応させて脱保護できる。

酸の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~3000モル%、好ま  
しくは100~1000モル%である。

- また、保護基  $P^2$  が Cbz 基の場合は、例えば、メタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、1, 4-ジオキサン、酢酸エチル等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、パラジウム等の触媒の存在下に接触水素還元反応に付するか、臭化水素酸-酢酸と反応させるか、あるいは、例えば必要に応じてジクロロメタン、
- 5 クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、チオアニソール又はアニソールの存在下にトリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸、好ましくはトリフルオロメタンスルホン酸と反応させることにより脱保護できる。

チオアニソール又はアニソールの使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

- 10 トリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~20000モル%、好ましくは100~10000モル%である。

- また、保護基  $P^2$  が Fmoc 基の場合は、例えば、必要に応じてN, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、
- 15 アンモニア、ピペリジン、モルホリン等の塩基、好ましくはピペリジンを用いて、通常-30~60℃で5分~1時間反応させて脱保護できる。

塩基の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~500モル%である。

- 工程 c : 化合物 (VI-a) と化合物 (VII-a) を反応させて化合物 (VI
- 20 II-a) を得る工程である。

反応はトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくはジイソプロピルエチルアミン存在下、N-メチル-2-ピロリドン、N, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃~溶媒の沸点付近の温度で、好ましくは0~80℃で行われる。

- 25 化合物 (VII-a) の使用量は、化合物 (VI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (VI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは120~300モル%である。

工程 d : 化合物 (VIII-a) を脱保護させて化合物 (I-a1) を得る工程

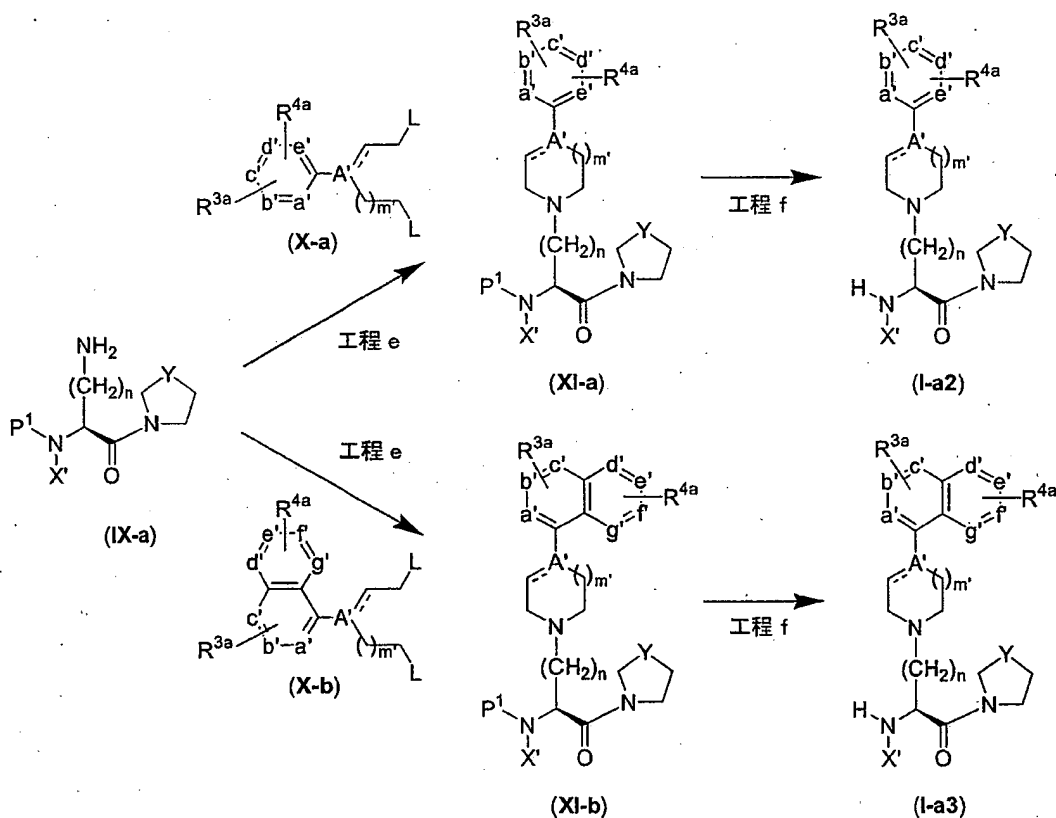


である。この場合、工程 b と同じ反応条件にて行われる。

また、固相担体  $P^1$  がカルボニル基を介したワングレジンの場合は、例えば、必要に応じてジクロロメタン等の当該反応に不活性な溶媒中、また、必要に応じてチオアニソール、アニソール、フェノール又はエチレンジチオール等の添加剤  
5 を加え、トリフルオロ酢酸を溶媒として用い、通常室温付近で 1 ～ 2 4 時間反応させて固相担体を切り離すことができる。

また、X が一般式 (I-a)、Z が水素原子で表される化合物 (I) において、置換基  $Y'$  が一般式 (II-b) 又は (II-d) で表される化合物はスキーム 2 に示す方法により製造することができる。

スキーム 2



- 10 [式中、Lは脱離基（例えば、ハロゲン、トシレート (OTs)、メシレート (OMs)、トリフレート (OTf) など)を示し、他の各記号は前記と同義である。]

工程 e : 化合物 (X-a) 又は化合物 (X-b) と化合物 (IX-a) とを反応させて化合物 (XI-a) 又は化合物 (XI-b) を得る工程である。

- 反応は、炭酸カリウム、炭酸セシウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくは炭酸カリウム存在下、N-メチル-2-ピロリドン、N, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃～溶媒の沸点付近の温度、
- 5 好ましくは0～80℃で行われる。

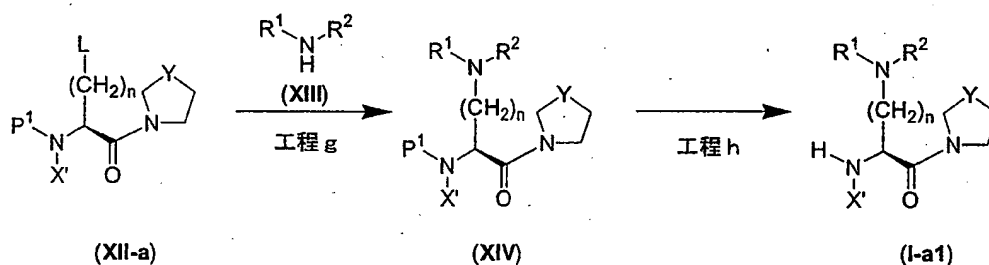
化合物(X-a)又は化合物(X-b)の使用量は、化合物(I X-a)に対し通常、100～500モル%、好ましくは100～200モル%である。

塩基の使用量は、化合物(I X-a)に対し通常、100～500モル%、好ましくは100～300モル%である。

- 10 工程f：化合物(X I-a)又は(X I-b)を脱保護させて化合物(I-a 2)又は(I-a 3)を得る工程である。工程bと同様の方法にて行われる。

さらに、Xが一般式(I-a)、Zが水素原子で表される化合物(I)はスキーム3およびスキーム4に示す方法にて製造することもできる。

スキーム3



〔式中、各記号は前記と同義である。〕

- 15 工程g：化合物(X I I-a)と化合物(X I I I)を反応させて化合物(X I V)を得る工程である。

- 反応は、炭酸カリウム、炭酸セシウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくはジイソプロピルエチルアミン存在下、N-メチル-2-ピロリドン、N, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃～溶媒の沸点付近の温度、好ましくは0～80℃で行われる。
- 20

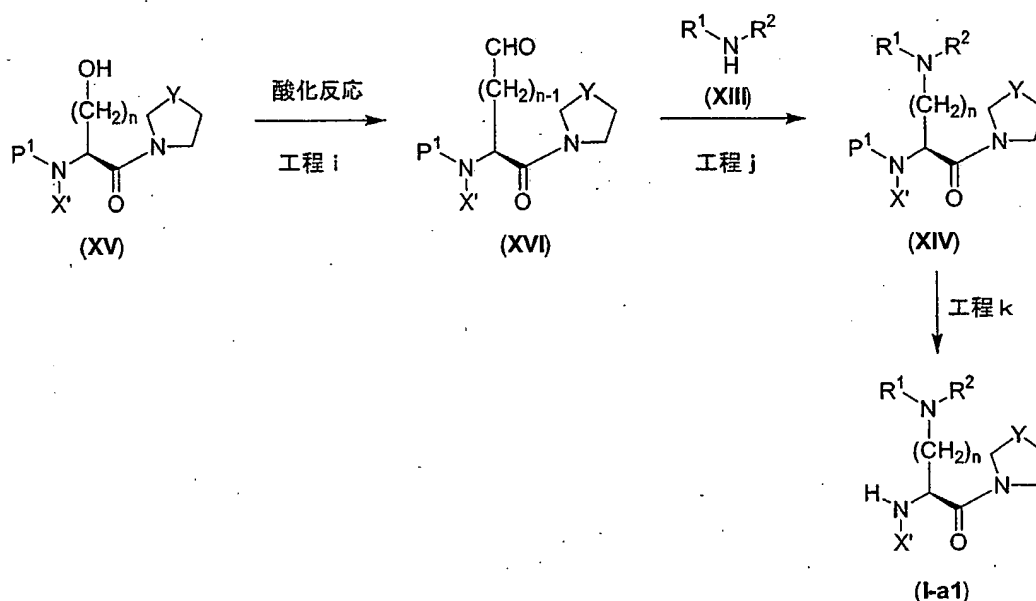
化合物(X I I I)の使用量は、化合物(X I I-a)に対し通常、100～500モル%、好ましくは100～200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (X I I - a) に対し通常、100～500モル%、好ましくは100～300モル%である。

工程 h : 化合物 (X I V) を脱保護させて化合物 (I - a 1) を得る工程である。

工程 b と同様の方法にて行われる。

スキーム 4



5 [式中、各記号は前記と同義である。]

工程 i : 化合物 (X V) を酸化して化合物 (X V I) を得る工程である。

- この反応は、例えば、室温にてピリジン三酸化硫黄錯体およびジメチルスルホキシドを使用する方法が好ましいが、有用な他の方法としては、例えば、アルカリ性過マンガン酸カリウム溶液を使用する方法；オギザリルクロリド、ジメチルスルホキシドおよび3級アミンを使用する方法；無水酢酸およびジメチルスルホキシドを使用する方法；ジクロロ酢酸を触媒として、DCCまたはEDCど、ジメチルスルホキシドとを使用する方法；ジクロロメタン中、酸化クロミウム(VI)ピリジン錯体を使用する方法；TEMPOフリーラジカルを触媒として、臭化ナトリウムの存在下、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を酢酸エチルやトルエン中で使用する等方法がある。
- 15

工程 j : 化合物 (X V I) と化合物 (X I I I) を反応させた後に還元して化合物 (X I V) を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウムの存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、1, 2-ジクロロエタン、クロロホルム、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1, 4-ジオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて、例えば酢酸、p- ートルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等の酸性触媒、好ましくは酢酸を用いて行ってもよく、通常0~100℃で10分~10時間行われる。

化合物(XIII)の使用量は、化合物(XVI)に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

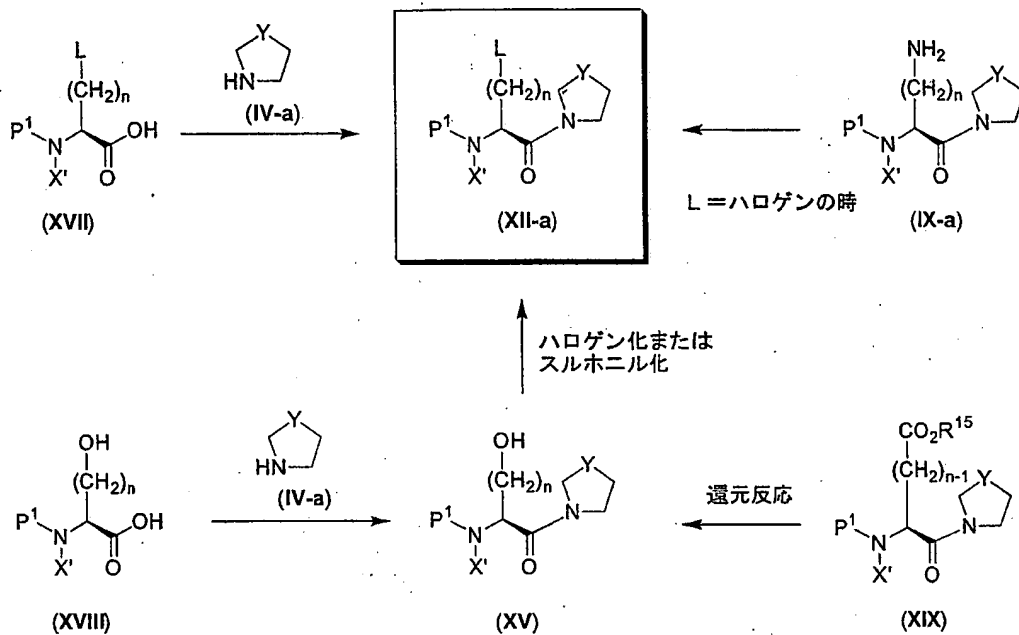
還元剤の使用量は、化合物(XVI)に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~300モル%である。

工程k: 化合物(XIV)を脱保護させて化合物(I-a1)を得る工程である。工程bと同様の方法にて行われる。

15 スキーム3における原料化合物(XII-a)は、スキーム5に示すように一般式(XVII)で表されるカルボン酸化合物と化合物(IV-a)を工程aと同じ方法にて縮合させるか、一般式(XV)で表されるヒドロキシ体をハロゲン化又は、メタンスルホニルクロリド、p-ートルエンスルホニルクロライド、トリフルオロメタンスルホン酸無水物などを用いてスルホニル化することにより合成  
20 することができる。さらにまた、原料化合物(XII-a)のLがハロゲンで表される化合物は、一般式(IX-a)で表される化合物に、対応するハロゲン化アルカリ金属塩の存在下に亜硝酸ナトリウム又は亜硝酸エステルを作用させることによっても製造できる。

一般式(XV)で表されるヒドロキシ体は、対応するN-保護ヒドロキシアミノ酸(XVIII)と化合物(IV-a)を工程aと同じ方法にて縮合させるか、  
25 N-保護アスパラギン酸、N-保護グルタミン酸、2-保護アミノアジピン酸、2-保護アミノピメリン酸と化合物(IV-a)からなるジペプチド化合物(IX)を、リチウム水素化ホウ素ナトリウムなどを用いた還元反応に付することにより製造することができる。

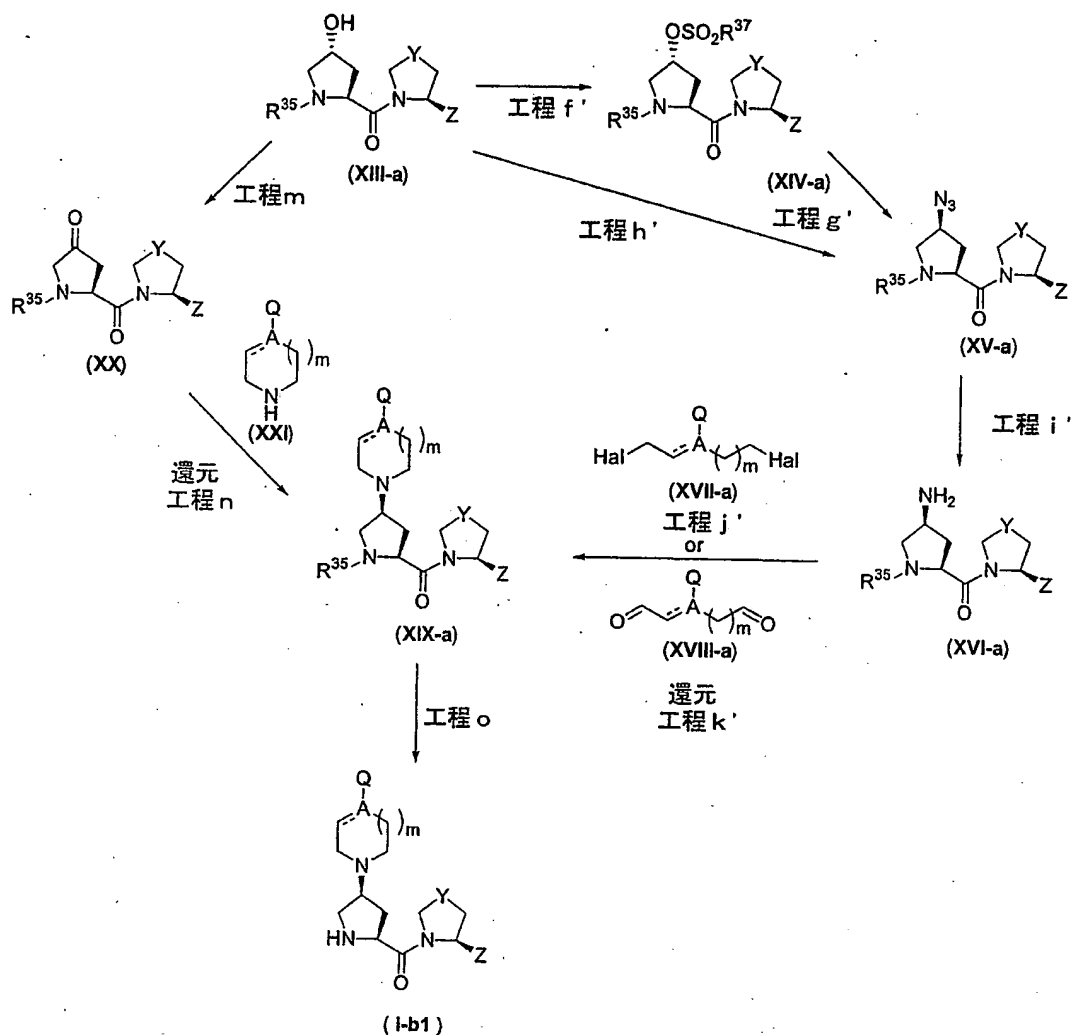
## スキーム 5



[式中、 $\text{R}^{15}$  はアルキル (前記と同義) 又はアリールアルキル (前記と同義) を示し、他は前記と同義である]

スキーム 6 に、X が一般式 (I-b) で表される化合物 (I) の製造方法を示す。

## スキーム 6



〔式中、 $R^{35}$  はアミノ酸の保護基（例えば、tert-ブトキシカルボニル（Boc）、ベンジルオキシカルボニル（Cbz））を示し、 $-\text{OSO}_2R^{37}$  は脱離基（例えば、トシレート（OTs）、メシレート（OMs）、トリフレート（OTf））を示し、Hal はハロゲンを示す。他の各記号は前記と同義である。〕

- 5 工程 f' : 化合物 (XIII-a) の水酸基をスルホニル化反応させて化合物 (XIV-a) を得る工程である。

この反応は、ピリジン、トリエチルアミン等の塩基の存在下、p-トルエンスルホニルクロリド、メタンスルホニルクロリド、トリフルオロメタンスルホニルクロリド等のスルホニルクロリド、好ましくはメタンスルホニルクロリドを用いて、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン等の当該反応に不活性な溶媒中、通

10

常−30〜60℃の温度下で、10分〜24時間で行われる。

スルホニルクロリドの使用量は、化合物(XIII-a)に対し通常、100〜300モル%、好ましくは100〜200モル%である。

5 工程g' : 化合物(XIV-a)をアジド化反応させて化合物(XV-a)を得る工程である。

反応は金属アジ化物、例えばアジ化ナトリウムを用いて、N,N-ジメチルホルムアミド等の溶媒中、通常0〜120℃の温度で30分から24時間で行われる。

10 金属アジ化物の使用量は、化合物(XIV-a)に対し通常、100〜300モル%、好ましくは100〜150モル%である。

工程h' : 化合物(XIII-a)から直接、化合物(XV-a)を得る工程である。

15 反応は、トリフェニルホスフィン又はトリブチルホスフィン等のホスフィン類及びジアゾジカルボン酸ジエステルの存在下、アジ化水素、DPPA、アジ化亜鉛ビスピリジン錯塩等のアジド化試薬、好ましくはDPPAを用いてトルエン、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、通常−30〜100℃の反応温度で行われる。

ホスフィン類の使用量は、化合物(XIII-a)に対し通常、100〜300モル%、好ましくは100〜200モル%である。

20 ジアゾジカルボン酸ジエステルの使用量は、化合物(XIII-a)に対し通常、100〜300モル%、好ましくは100〜200モル%である。

アジド化試薬の使用量は、化合物(XIII-a)に対し通常、100〜300モル%、好ましくは100〜200モル%である。

25 工程i' : 化合物(XV-a)を還元して化合物(XVI-a)を得る工程である。

この反応としてパラジウム、白金、ニッケル等の存在下での接触的水素添加、金属水素化物による還元、トリフェニルホスフィン、チオール、スルフィド、ジボラン、あるいは遷移金属を用いる還元等が挙げられ、好ましくはパラジウムを用いた接触的水素添加が挙げられる。

工程 j' : 化合物 (XVI-a) と化合物 (XVII-a) を反応させて化合物 (XIX-a) を得る工程である。

反応はトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくはジイソプロピルエチルアミン存在下、N-メチル-2-ピロリドン、N,N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃  
5 ~溶媒の沸点付近の温度、好ましくは0~80℃で行われる。

化合物 (XVII-a) の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、200~1000モル%、  
10 好ましくは200~500モル%である。

工程 k' : 化合物 (XVI-a) と化合物 (XVIII-a) を反応させた後に還元して化合物 (XIX-a) を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素  
15 化ホウ素ナトリウムの存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1,4-ジオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて酸性触媒、例えば酢酸、p-トルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等を用いて行ってもよく、通常0~100℃の温度下で、10分~20時間で行われる。

20 化合物 (XVIII-a) の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

還元剤の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、200~1000モル%、好ましくは200~500モル%である。

工程 m : 化合物 (XIII-a) を酸化して化合物 (XX) を得る工程である。

25 この反応は、例えば、室温にてピリジン三酸化硫黄錯体及びジメチルスルホキシドを使用する方法が好ましいが、有用な他の方法としては、例えば、アルカリ性過マンガン酸カリウム溶液を使用する方法；オギザリルクロリド、ジメチルスルホキシド及び3級アミンを使用する方法；無水酢酸及びジメチルスルホキシドを使用する方法；ジクロロ酢酸を触媒として、DCCまたはEDCと、ジメチル



スルホキシドとを使用する方法；ジクロロメタン中、酸化クロミウム(VI)ピリジン錯体を使用する方法；TEMPOフリーラジカルを触媒として、臭化ナトリウムの存在下、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を酢酸エチルやトルエン中で使用する方法等がある。

- 5 工程n：化合物(XX)と化合物(XXI)を反応させた後に還元して化合物(XIX-a)を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1,4-ジオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて、例えば酢酸、p-トルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等の酸性触媒、好ましくは酢酸を用いて行ってもよく、通常0~100℃温度下で、10分~20時間で行われる。

- 15 化合物(XXI)の使用量は、化合物(XX)に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

還元剤の使用量は、化合物(XX)に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~300モル%である。

化合物(XXI)は、公知の方法で合成することができる。

- 20 工程o：化合物(XIX-a)を脱保護させて化合物(I-b1)を得る工程である。

この反応において、保護基R<sup>35</sup>がBoc基の場合は、例えば、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、1,4-ジオキサン、酢酸エチル、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム等の溶媒中、塩化水素又は、トリフルオロ酢酸等の酸を用いて、通常-30~60℃で10分~24時間反応させて脱保護できる。

- 25 酸の使用量は、化合物(XIX-a)に対し通常、100~3000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

また、保護基R<sup>35</sup>がCbz基の場合は、例えば、メタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、1,4-ジオキサン、酢酸エチル等の当該脱保護反応に不活

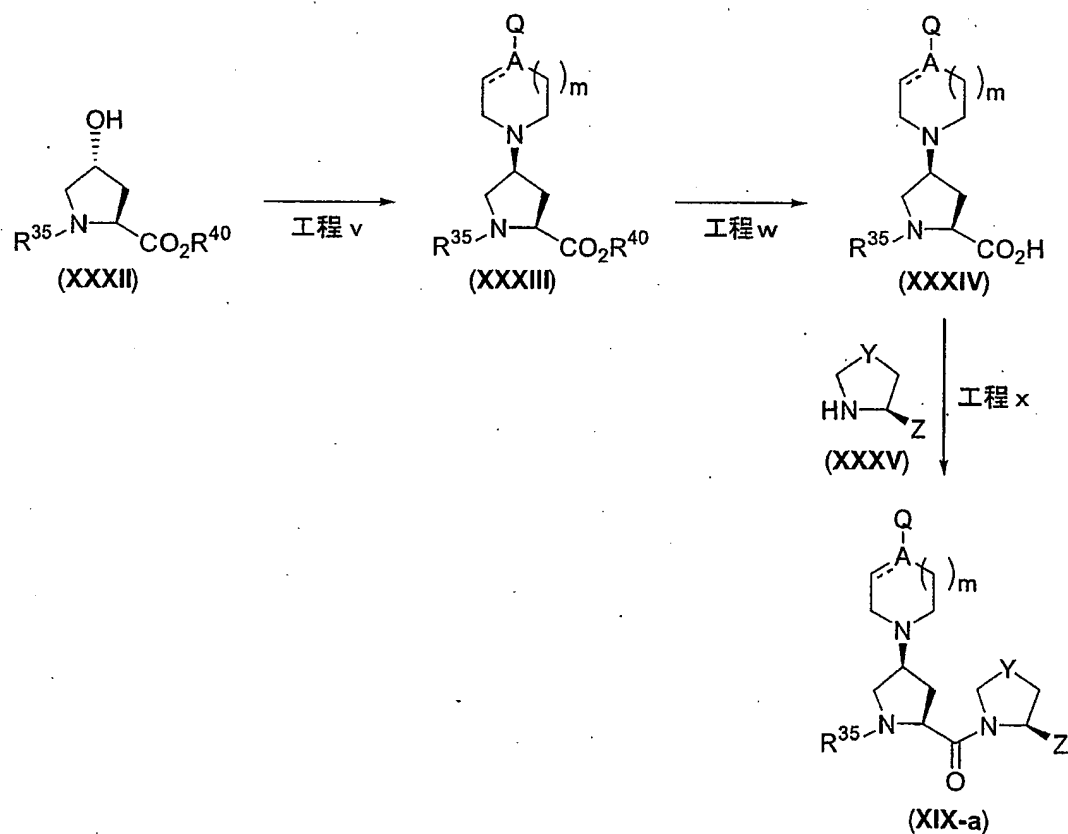
- 性な溶媒中、パラジウム等の触媒の存在下に接触水素還元反応に付するか、臭化水素酸-酢酸と反応させるか、あるいは、例えば必要に応じてジクロロメタン、クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、チオアニソール又はアニソールの存在下にトリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸、好ましくは
- 5 はトリフルオロメタンスルホン酸と反応させることにより脱保護できる。

チオアニソール又はアニソールの使用量は、化合物 (XIX-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

- トリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸の使用量は、化合物 (XIX-a) に対し通常、100~20000モル%、好ましくは100~10000モル%である。
- 10 00モル%である。

スキーム7に、本発明のXが一般式 (I-b) で表される化合物 (I) の別の製造方法を示す。

スキーム7



[式中、R<sup>40</sup> はメチル、エチル等のアルキル、ベンジル等を示し、他の各記号は前記と同義である。]

工程 v はスキーム 6 で示した化合物 (X I I I - a) から化合物 (X I X - a) の変換方法と同様である。

- 5 工程 w : 化合物 (X X X I I I) のエステル保護されたカルボキシル基を脱保護させて化合物 (X X X I V) を得る工程である。

反応は通常の脱保護反応が使用できるが、例えば水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等、好ましくは水酸化ナトリウムのアルカリ条件下で加水分解するか、あるいは R<sup>40</sup> がベンジルの場合は、白金、パラジウム等の存在下、メタノール、エタノール等の当該反応に不活性な溶媒中、接触的水素添加等を行うことにより脱保護することができる。

- 10 工程 x : 化合物 (X X X V) と化合物 (X X X I V) を反応させて化合物 (X I X - a) を得る工程である。

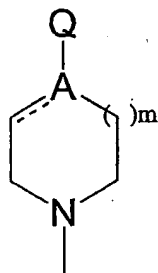
- 15 反応は工程 a で示した縮合剤、好ましくは E D C を用いることができる。縮合剤を単独で、あるいは工程 a で示した添加剤、好ましくは H O B T と組み合わせて、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、ジクロロメタン、クロロホルム、N, N-ジメチルホルムアミド等の当該反応に不活性な溶媒中、通常 - 3 0 ~ 8 0 ° C の温度で行われ、好ましくは - 1 0 ~ 2 5 ° C で行われる。

- 20 化合物 (X X X V) の使用量は、化合物 (X X X I V) に対し通常、9 0 ~ 3 0 0 モル%、好ましくは 1 0 0 ~ 1 5 0 モル%である。

縮合剤の使用量は、化合物 (X X X I V) に対し通常、1 0 0 ~ 3 0 0 モル%、好ましくは 1 0 0 ~ 2 0 0 モル%である。

添加剤の使用量は、化合物 (X X X I V) に対し通常、1 0 0 ~ 2 0 0 モル%、好ましくは 1 0 0 ~ 1 5 0 モル%である。

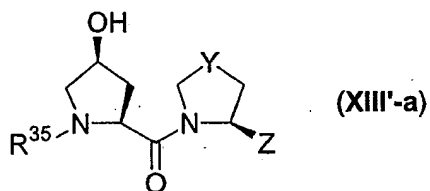
- 25 なお、スキーム 6 では一般式 (X I I I - a) で示される化合物、又はスキーム 7 では一般式 (X X X I I) で示される化合物を原料として、式



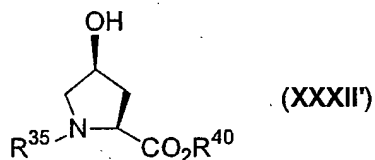
〔式中の各記号は前記と同義である。〕

が結合している不斉炭素が S 配置で表される X が一般式 (I - b) である化合物 (I) の製造方法を示した。

- 5 上記の他、化合物 (X I I I' - a)

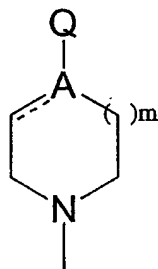


〔式中の各記号は前記と同義である。〕又は化合物 (X X X I I')



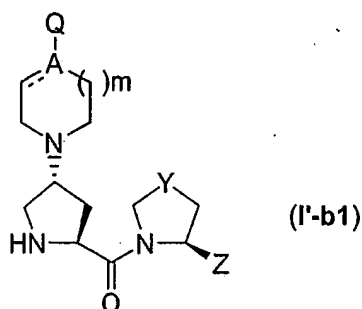
〔式中の各記号は前記と同義である。〕

を原料として上記と同様の方法により、式



- 10 〔式中の各記号は前記と同義である。〕

が結合している不斉炭素が R 配置で表される化合物 (I' - b 1) も製造できる。



また、各一般式でZがシアノを示す場合、各中間体までの一般式のZをカルバモイル基として製造し、公知の方法により脱水させてシアノ基に変換ができる。

この反応は、脱水剤として五酸化ニリン、オキシ塩化リンーイミダゾール、トリフルオロ酢酸無水物、p-トルエンスルホンクロリドーピリジン等を用いて  
5 ジクロロメタン、ピリジン等の不活性溶媒中で行われる。

このようにして製造される本発明の一般式(I)のチアゾリジン誘導体は、公知の分離精製手段、例えば、濃縮、抽出、クロマトグラフィー、再沈殿、再結晶等の手段を適宜施すことによって、任意の純度のものとして採取できる。

また、当該一般式(I)のチアゾリジン誘導体は、必要により塩酸、臭化水素  
10 酸、ヨウ化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸等の無機酸及びメタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸、ギ酸、酢酸、トリフルオロ酢酸、シユウ酸、クエン酸、マロン酸、フマル酸、グルタル酸、アジピン酸、マレイン酸、酒石酸、コハク酸、マンデル酸、リンゴ酸、パントテン酸、メチル硫酸等の有機酸との酸付加塩とすることができる。また、水和物等の溶媒和物としても存在す  
15 る。

本発明の一般式(I)で示される化合物又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)は、哺乳動物(例えば、ヒト、イヌ、ネコ、ラット等)に対して、優れたDPP-IVの阻害作用を有する。

本発明化合物(I)又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)  
20 は、後記実験で示すように強力なDPP-IV阻害活性を示すため、DPP-IVの阻害薬として有用であり、GLP-1が関与していると考えられる疾患(例えば、糖尿病、肥満等)等の予防・治療をはじめとするDPP-IVが関与する各種疾患等の予防・治療に有用である。DPP-IVが関与する疾患としては、

例えば糖尿病又は肥満等が挙げられる。

また、本発明化合物（I）は、他の糖尿病治療薬、糖尿病性合併症治療薬、抗高脂血症剤又は降圧剤等と同時に同一対象に投与することができ、また、時間差をおいて同一対象に投与することができる。本発明化合物を他剤と組み合わせて用いる場合、その配合比は、投与対象、投与対象の年齢及び体重、症状、投与時間、剤形、投与方法、組合せ等により適宜選択することができる。

本発明の化合物（I）及びその薬理学的に許容される塩（医薬上許容される塩）を前述の医薬として用いる場合、それ自体あるいは適宜の薬理学的に許容される担体、賦形剤、希釈剤などと混合し、散剤、顆粒剤、錠剤、カプセル剤、注射剤等の形態で、経口的又は非経口的に投与することができる。上記製剤中には化合物（I）又はその薬理学的に許容される塩（医薬上許容される塩）を有効量配合する。

当該化合物（I）又はその薬理学的に許容される塩（医薬上許容される塩）の投与量は、投与ルート、対象疾患、患者の症状、体重あるいは年齢、用いる化合物によっても異なり、投与目的に応じて適宜設定することができる。通常、成人に経口投与する場合、 $0.01 \sim 1000 \text{ mg/kg 体重/日}$ 、好ましくは $0.05 \sim 500 \text{ mg/kg 体重/日}$ を、一日1～数回に分けて投与するのが好ましい。

#### 実施例

以下に参考例及び実施例を挙げて本発明をより具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

なお、 $^1\text{H-NMR}$ は特に明記しない限り $300 \text{ MHz}$ で測定した。 $^1\text{H-NMR}$ のケミカルシフトは、内部標準としてテトラメチルシラン（TMS）を用い、相対的なデルタ（ $\delta$ ）値をパーツパーミリオン（ppm）で表した。カップリング定数は自明な多重度をヘルツ（Hz）で示し、s（シングレット）、d（ダブルット）、t（トリプレット）、q（カルテット）、quint（クインテット）、m（マルチプレット）、dd（ダブルット オブ ダブルッツ）、td（トリプレット オブ ダブルッツ）、brs（ブロードシングレット）等と表した。薄層クロマトグラフィーはメルク社製、カラムクロマトグラフィーは富士シリシア化学社製のシリカゲルを用いて行った。HPLC精製はDevelos

i l C o m b i - R Pを用いて行った。また、抽出における有機溶液の乾燥は、特に明記しない限り無水硫酸ナトリウム又は無水硫酸マグネシウムを使用した。

#### 参考例 1

#### 5 3-[(S)-6-アミノ-2-(ベンジルオキシカルボニル)アミノヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

(1) N- $\alpha$ -ベンジルオキシカルボニル-N- $\epsilon$ -tert-ブトキシカルボニル-L-リジン19gをジクロロメタン200mLに溶解し、チアゾリジン3.91mL、HOBT-水和物11.5g及びEDCの塩酸塩14.4gを順次加え、終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、10%クエン酸水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥した。溶媒を減圧下で留去することにより3-[(S)-6-(tert-ブトキシカルボニル)アミノ-2-(ベンジルオキシカルボニル)アミノヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンを得た。

15 (2) 上記化合物にトリフルオロ酢酸100mLを加え、3時間撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥し、減圧下で濃縮することにより表題化合物17gを得た。

MS (ESI) m/z : 352 [MH]<sup>+</sup>

#### 20 参考例 2

#### 3-{(S)-2-アミノ-6-[(9H-フルオレン-9-イル)メチルオキシカルボニル]アミノヘキサノイル}-1,3-チアゾリジンの合成

(1) N- $\alpha$ -tert-ブトキシカルボニル-N- $\epsilon$ -(9H-フルオレン-9-イル)メチルオキシカルボニル-L-リジン3.7gをジクロロメタン200mLに溶解し、これにチアゾリジン740 $\mu$ L、HOBT-水和物1.8g及びEDCの塩酸塩2.3gを加え、1時間撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより3-{(S)-2-(tert-ブトキシカルボニル)アミ

ノー6-[(9H-フルオレン-9-イル)メチルオキシカルボニル]アミノヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジンを得た。

- (2) 上記化合物にトリフルオロ酢酸10mLを加え、1時間攪拌した。減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物1.68gを得た。

MS (ESI)  $m/z$ : 440 [MH]<sup>+</sup>

### 参考例3

- 3-((S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-オキソ-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジンの合成

- (1) N-tert-ブトキシカルボニル-L-trans-4-ヒドロキシプロリン69.4g及びチアゾリジン29.4gをDMF300mLに溶解し、HOBt50.5g、及びEDCの塩酸塩63.3gを順次加え、室温下18時間攪拌した。反応液を濃縮後、濃縮物に飽和食塩水と飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去して、3-((2S, 4R)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-ヒドロキシ-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン56.3gを無色透明油状物として得た。

- (2) 上記化合物55.4g及びトリエチルアミン46mLをジクロロメタン350mLに溶解し、これに氷冷下でピリジン三酸化硫黄錯体52.4gのジメチルスルホキシド150mL溶液を加えて2時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより表題化合物30.3gを白色固体として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (CDCl<sub>3</sub>) δ 1.47 (9H, s), 2.45-2.57 (1H, m), 2.70-2.93 (1H, m), 2.97-3.22 (2H, m), 3.66-3.78 (0.6H, m), 3.80-4.10 (3H, m), 4.28-4.38 (0.4H, m), 4.45-5.08 (3H, m).

### 実施例1



3-[(S)-2-アミノ-6-(2-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

- (1) 参考例1の表題化合物351mgをDMF 5mLに溶解し、これにジイソプロピルエチルアミン0.258mL及び1-フルオロ-2-ニトロベンゼン141mgを加え、80℃で終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、得られた残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加えて10分間撹拌した後、Chem Elut (Valian) にアプライし、10分後酢酸エチルで溶出した。溶出液を減圧下で濃縮し、残渣をHPLCにより精製することにより3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(2-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン140mgを得た。

- (2) 上記化合物140mgをトリフルオロ酢酸7mLに溶解し、チオアニソール0.35mLを加えて終夜放置した。トリフルオロ酢酸を留去後、水を加えてジエチルエーテルで洗浄した後、5%アンモニア水でpHを8にし、減圧下で濃縮した。残渣をHPLCにより精製することにより表題化合物55.2mgを黄色固体として得た。

MS (ESI)  $m/z$  339 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例2

3-[(S)-2-アミノ-6-(3-ニトロピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

- (1) 参考例1の表題化合物351mg及び2-クロロ-3-ニトロピリジン158mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(3-ニトロピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン284mgを得た。

- (2) 上記化合物284mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題化合物108mgを黄色固体として得た。

MS (ESI)  $m/z$  340 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例3

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-3-フルオロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

(1) 参考例1の表題化合物351mg及び2, 6-ジフルオロベンゾニトリル139mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(2-シアノ-3-フルオロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン250mgを得た。

- 5 (2) 上記化合物250mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題化合物110mgを白色固体として得た。

MS (ESI)  $m/z$  337 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例4

- 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成
- 10

(1) 参考例1の表題化合物351mg及び4-フルオロニトロベンゼン141mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(4-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン298mgを得た。

- 15 (2) 上記化合物298mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題化合物のトリフルオロ酢酸塩の水溶液を得た。これに炭酸カリウムを加えて酢酸エチルで抽出し、抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物66mgを得た。

MS (ESI)  $m/z$  337 [MH]<sup>+</sup>

#### 20 実施例5

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノ-2-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

- (1) 参考例1の表題化合物351mg及び4-クロロ-3-ニトロベンゾニトリル183mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(4-シアノ-2-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン404mgを得た。
- 25

(2) 上記化合物404mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題化合物のトリフルオロ酢酸塩の水溶液を得た。これに炭酸カリウムを加えて酢酸エチルで抽出し、抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物12

4 mgを得た。

MS (ESI)  $m/z$  364 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例6

3-[(S)-2-アミノ-6-(5-シアノピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) 参考例1の表題化合物2.00g及び2-クロロ-5-シアノピリジン1.38gを用いて、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(5-シアノピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン1.65gを得た。

(2) 上記化合物1.64gをトリフルオロ酢酸15mLに溶解し、チオアニソール2.1mLを加えて終夜攪拌した。トリフルオロ酢酸を留去後、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、得られた油状物を酢酸エチルに溶解し、塩酸/酢酸エチルを加えた。析出した固体を濾取することにより、表題化合物0.443gを白色固体として得た。

MS (ESI)  $m/z$  319 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例7

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-メタンスルホニルフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

(1) 参考例2の表題化合物1.68gをジクロロメタン25mLに溶解し、p-ニトロフェニルカーボネートワングレジン2.15gを加え、3日間攪拌した。溶媒を除去したのち、DMFで1回、メタノールとジクロロメタンで交互に3回、メタノールで3回、レジンを順次洗浄し、減圧下で乾燥した。得られたレジンに20%ピペリジン/DMFを加えて5分間攪拌後濾取する操作を3回繰り返し、レジンをDMFで3回、ジクロロメタンで3回、メタノールで3回、順次洗浄し、減圧下で乾燥した。

(2) 上記操作で得られたレジン700mgにN-メチルピロリドン7mLを加え、4-フルオロフェニルメチルスルホン543mgとジイソプロピルエチル

- アミン 0.544 mL を加え 100℃ で終夜撹拌した。レジンを濾取し、DMF で 3 回、メタノールとジクロロメタンで交互に 3 回、メタノールで 3 回、順次洗浄した。得られたレジンに 50% トリフルオロ酢酸/ジクロロメタン 7 mL を加え、2 時間撹拌し、レジンを濾去し、減圧下で濃縮した。得られた残渣を HPLC により精製し、溶出液に炭酸カリウムを加えて酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物 26.9 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  372 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例 8

- 3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-フルオロベンゾニトリル 0.277 mL を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 3 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  319 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例 9

- 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 4-フルオロベンゾニトリル 0.277 mL を用いて実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 6.8 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  319 [MH]<sup>+</sup>

- 20 実施例 10

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-ブロモ-2-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-フルオロ-5-ブロモベンゾニトリル 480 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物を 24.

- 25 8 mg 得た。

MS (ESI)  $m/z$  397, 399 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例 11

3-{[(S)-2-アミノ-6-[4-シアノ-2-(トリフルオロメチル)フェニルアミノ]ヘキサノイル]}-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジジン 700 mg 及び 4-フルオロ-3-(トリフルオロメチル) ベンゾニトリル 453 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 18.8 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  387 [MH]<sup>+</sup>

5 実施例 12

3-{(S)-2-アミノ-6-[3-クロロ-5-(トリフルオロメチル) ピリジン-2-イルアミノ] ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジンの合成

10 実施例 7 (1) のレジジン 700 mg 及び 2, 3-ジクロロ-5-(トリフルオロメチル) ピリジン 516 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物を 16.1 mg 得た。

MS (ESI)  $m/z$  397, 399 [MH]<sup>+</sup>

実施例 13

3-{(S)-2-アミノ-6-[4-シアノ-3-(トリフルオロメチル) フェニルアミノ] ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジンの合成

15 実施例 7 (1) のレジジン 700 mg 及び 4-フルオロ-2-(トリフルオロメチル) ベンゾニトリル 453 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 80.7 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  387 [MH]<sup>+</sup>

実施例 14

20 3-[(S)-2-アミノ-6-(5-ニトロピリジン-2-イルアミノ) ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジジン 700 mg 及び 5-ニトロ-2-クロロピリジン 379 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 20 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  340 [MH]<sup>+</sup>

25 実施例 15

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-4-フルオロフェニルアミノ) ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジジン 700 mg 及び 2, 5-ジフルオロベンゾニトリル 34 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 7.9 mg を得

た。

MS (ESI)  $m/z$  337 [MH]<sup>+</sup>

実施例 16

- 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノ-2-フルオロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 3, 4-ジフルオロベンゾニトリル 34 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 24 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  337 [MH]<sup>+</sup>

実施例 17

- 10 3-[(S)-2-アミノ-6-(3-クロロ-2-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-クロロ-6-フルオロベンゾニトリル 372 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 18.7 mg を得た。

- 15 MS (ESI)  $m/z$  353, 355 [MH]<sup>+</sup>

実施例 18

3-[(S)-2-アミノ-6-(3-クロロ-4-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

- 20 実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-クロロ-4-フルオロベンゾニトリル 372 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 52.7 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  353, 355 [MH]<sup>+</sup>

実施例 19

- 25 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-クロロ-2-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 5-クロロ-2-フルオロベンゾニトリル 372 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 77.3 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  353, 355 [MH]<sup>+</sup>

## 実施例 20

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-ブロモ-4-シアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

5 実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 3-ブロモ-4-フルオロベンズニトリル 477 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 80.3 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  397, 399 [MH]<sup>+</sup>

## 実施例 21

10 3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-5-ブロモフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-フルオロ-4-ブロモベンズニトリル 477 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 54.9 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  397, 399 [MH]<sup>+</sup>

## 15 実施例 22

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-4-トリフルオロメチルフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

20 実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-フルオロ-5-(トリフルオロメチル)ベンズニトリル 454 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 73.9 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  397 [MH]<sup>+</sup>

## 実施例 23

3-[(S)-2-アミノ-6-(5-トリフルオロメチルピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

25 実施例 7 (1) のレジン 700 mg 及び 2-クロロ-5-トリフルオロメチルピリジン 434 mg を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 10 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  363 [MH]<sup>+</sup>

## 実施例 24

3-[(S)-2-アミノ-6-(ピリミジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例7(1)のレジン700mg及び2-クロロピリミジン274mgを用い、実施例7(2)と同様の手法により表題化合物13.2mgを得た。

5 MS(ESI) m/z 296 [MH]<sup>+</sup>

実施例25

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-トリフルオロメチルピリミジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

10 実施例7(1)のレジン700mg及び2-クロロ-4-トリフルオロメチルピリミジン437mgを用い、実施例7(2)と同様の手法により表題化合物54.6mgを得た。

MS(ESI) m/z 364 [MH]<sup>+</sup>

実施例26

15 3-[(S)-2-アミノ-6-(3-シアノピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例7(1)のレジン700mg及び2-クロロ-3-シアノピリジン331mgを用い、実施例7(2)と同様の手法により表題化合物30.8mgを得た。

MS(ESI) m/z 320 [MH]<sup>+</sup>

20 実施例27

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-4-ニトロフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

25 実施例7(1)のレジン700mg及び2-フルオロ-5-ニトロベンゾニトリル398mgを用い、実施例7(2)と同様の手法により表題化合物59.4mgを得た。

MS(ESI) m/z 364 [MH]<sup>+</sup>

実施例28

3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-4-キノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩



## の合成

- (1) N- $\alpha$ -ベンジルオキシカルボニル-N- $\epsilon$ -tert-ブトキシカルボニル-L-リジン 8.60 g をギ酸 50 mL に溶解し、室温にて終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣を酢酸 100 mL に溶解させ、酢酸ナトリウム 1.85 g 及び亜硝酸ナトリウム 4.68 g を加え、40℃で終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより (S)-6-アセトキシ-2-(ベンジルオキシカルボニル) アミノヘキサン酸 3.52 g を得た。
- (2) 上記化合物 3.23 g を DMF 60 mL に溶解し、チアゾリジン 0.79 mL、HOBT-水和物 1.68 g 及び EDC の塩酸塩 2.1 g を順次加え、室温下で終夜撹拌した。反応溶液を減圧濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 3-[ (S)-6-アセトキシ-2-(ベンジルオキシカルボニル) アミノヘキサノイル]-1,3-チアゾリジン 1.5 g を得た。
- (3) 上記化合物 1.5 g をメタノール 15 mL に溶解し、炭酸カリウム 0.69 g を加え、室温にて 2 時間撹拌した。反応溶液を濾過し、その濾液を減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製することにより 3-[ (S)-2-(ベンジルオキシカルボニル) アミノ-6-ヒドロキシヘキサノイル]-1,3-チアゾリジン 0.64 g を無色の油状物として得た。
- (4) 上記化合物 590 mg 及びトリエチルアミン 0.26 mL をジクロロメタン 10 mL に溶解し、メタンスルホンクロリド 0.14 mL を滴下し、室温にて 3 時間撹拌した。反応液を水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣を DMF 10 mL に溶解し、1-(2-トリフルオロメチル-4-キノリル) ピペラジン 469 mg 及び炭酸カリウム 461 mg を加え、80℃で 6 時間撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製することにより 3-{ (S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-4-キノリル) ピペラジン-1-イル] ヘキサノイル}-1,3-チアゾリジン 270 mg を得た。

- (5) 上記化合物 260 mg をトリフルオロ酢酸 5 mL に溶解し、チオアニソール 0.5 mL を加えて室温にて終夜攪拌した。トリフルオロ酢酸を留去後、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、得られた油状物を酢酸エチルに溶解し、塩酸/酢酸エチルを加えた。析出した固体を濾取することにより、表題化合物 22.9 mg を白色固体として得た。

MS (ESI)  $m/z$  481 [MH]<sup>+</sup>

#### 実施例 29

- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-ピリミジニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

- (1) 参考例 3 の表題化合物 1.50 g 及び 2-(1-ピペラジニル)ピリミジン 0.903 g を 1, 2-ジクロロエタン 25 mL に溶解し、酢酸 0.29 mL 及びトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム 2.12 g を加え、室温で 16 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(2-ピリミジニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン 2.12 g を白色固体として得た。

- (2) 上記化合物 2.12 g を 5.6 mol/L 塩酸-エタノール溶液 10 mL に溶解し、室温にて 22 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物 2.05 g を白色固体として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.33 (1H, m), 2.92-4.33 (15H, m), 4.47-4.77 (5H, m), 6.79 (1H, t, J=4.8 Hz), 8.46 (2H, d, J=4.8 Hz), 9.14 (1H, br s), 11.01 (1H, br s).

#### 実施例 30

- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル-6-フェニル-2-ピリミジニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1;

## 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) 4, 4, 4-トリフルオロ-1-フェニル-1, 3-ブタンジオン10.8 g及び尿素6.01 gをエタノール25 mLに溶解し、濃塩酸5 mLを加え、2.5時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、水を加え、クロロホルムで洗淨した。水層に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、析出物を濾取することにより2-ヒドロキシ-4-フェニル-6-トリフルオロメチルピリミジン5.03 gを淡桃色結晶性粉末として得た。

(2) 上記化合物5.03 gにオキシ塩化リン7.8 mLを加え、100℃にて9時間攪拌した。反応液に氷を加え、5 mol/L水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性とした後、析出物を濾取することにより2-クロロ-4-フェニル-6-トリフルオロメチルピリミジン5.71 gを白色固体として得た。

(3) ピペラジン25.8 gを130℃にて融解し、上記化合物13.1 gを加え、2時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗淨し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にヘキサンを加え、析出物を濾取することにより1-(4-トリフルオロメチル-6-フェニル-2-ピリミジニル)ピペラジン2.92 gを白色固体として得た。

(4) 参考例3の表題化合物0.601 g及び上記化合物0.678 gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(4-トリフルオロメチル-6-フェニル-2-ピリミジニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン1.18 gを白色固体として得た。

(5) 上記化合物1.18 gを用い、実施例29(2)と同様の手法により表題化合物1.02 gを白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.29 (1H, m), 2.90-4.05 (15H, m), 4.37-4.86 (5H, m), 7.54-7.65 (3H, m), 7.76 (1H, s), 8.27-8.30 (2H, m), 9.15 (1H, brs), 10.76 (1H, brs).

## 実施例31

3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-4-ピリミジニル

ル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 2 - トリフルオロメチル - 4 - ヒドロキシピリミジン 2.50 g にオキシ塩化リン 15 mL を加え、60 °C にて 1 時間攪拌した。減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルにて抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 2 - トリフルオロメチル - 4 - ヒドロキシピリミジン 0.600 g を茶褐色油状物として得た。

(2) ピペラジン 845 mg を DMF 6 mL に加熱下溶解させ、40 °C で上記化合物 597 mg の DMF 溶液 1 mL を加え、室温にて 2 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 1 - (2 - トリフルオロメチル - 4 - ピリミジニル) ピペラジン 680 mg を茶褐色固体として得た。

(3) 参考例 3 の表題化合物 0.832 g 及び上記化合物 0.676 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3 - { (2S, 4S) - 1 - tert - ブトキシカルボニル - 4 - [4 - (2 - トリフルオロメチル - 4 - ピリミジニル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン 1.28 g を淡褐色固体として得た。

(4) 上記化合物 1.27 g をエタノール 3 mL に溶解し、4.1 mol/L 塩酸 - エタノール溶液 3 mL を加え、室温にて 13 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に酢酸エチルを加え、析出物を濾取することにより表題化合物 1.02 g を白色固体として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.15 - 2.33 (1H, m), 2.90 - 4.05 (16H, m), 4.45 - 4.78 (3H, m), 7.24 (1H, d, J = 6.3 Hz), 8.45 (1H, d, J = 6.3 Hz), 9.12 (1H, br s), 10.83 (1H, br s), 12.7 (1H, br s).

### 実施例 32

3 - ( (2S, 4S) - 4 - {4 - [1 - (4 - メトキシフェニル) - 2 - イミダゾリル] - 1 - ピペラジニル} - 2 - ピロリジニルカルボニル) - 1, 3 - チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

- (1) 1-ベンジルオキシカルボニルピペラジン6. 35 gをアセトン40 mLに溶解し、氷冷下イソチオシアン酸4-メトキシフェニル5. 19 gを加え、室温下で2日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をジクロロメタン80 mLに溶解し、氷冷下ヨウ化メチル2. 7 mLを加え、室温にて17時間攪拌した。
- 5 反応液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に加え、ジクロロメタンで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-[(メチルチオ)(4-メトキシフェニル)イミノメチル]ピペラジン12. 8 gを褐色油状物として得た。
- (2) 上記化合物12. 8 g及びアミノアセトアルデヒドジメチルアセタール6. 1 mLをピリジン60 mLに溶解し、110℃で25時間加熱攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣を2 mol/L塩酸120 mLに溶解し、100℃で1時間加熱した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-[1-(4-メトキシフェニル)-2-イミダゾリル]ピペラジン7. 91 gを茶褐色油状物として得た。
- 15 (3) 上記化合物7. 91 g及びチオアニソール6 mLをトリフルオロ酢酸60 mLに溶解し、室温にて6時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をHPLCで精製することにより1-[1-(4-メトキシフェニル)-2-イミダゾリル]ピペラジン0. 628 gを無色透明油状物として得た。
- 25 (4) 上記化合物624 mg及び参考例3の表題化合物601 mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-メトキシフェニル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン416 mgを白色固体として得た。

(5) 上記化合物 411mg を酢酸エチル 1mL に溶解し、4mol/L 塩酸-酢酸エチル 1mL を加え、室温下 18 時間攪拌した。析出物を濾取することにより表題化合物 413mg を白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.04-2.20 (1H, m), 2.82-4.00 (16H, m), 4.42-4.75 (3H, m), 7.15 (1H, d, J=8.9Hz), 7.42-7.47 (2H, m), 7.59 (1H, d, J=8.9Hz), 9.04 (1H, brs), 10.88 (1H, brs), 14.1 (1H, brs).

### 実施例 33

10 3-[(2S, 4S)-4-[4-(1-フェニル-5-ピラゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 3, 3-ジエトキシプロピオン酸エチル 5.34g をテトラヒドロフラン 60mL に溶解し、室温にて 1mol/L 水酸化ナトリウム水溶液 29mL を加え、12 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣を DMF 60mL に懸濁させ、室温にて HOBt 5.16g、EDC の塩酸塩 6.46g 及び 1-ベンジルオキシカルボニルピペラジン 6.20g を加え、室温にて 6 時間攪拌した。溶媒を減圧下で留去し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-ベンジルオキシカルボニル-4-(3, 3-ジエトキシプロピオニル)ピペラジン 10.0g を油状物として得た。

(2) 上記化合物 3.28g をクロロホルム 30mL に溶解し、氷冷下 50% トリフルオロ酢酸水溶液 20mL を加え、室温にて 24 時間攪拌した。反応液をクロロホルムにて抽出した。抽出液を水および飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をエタノール 60mL に溶解させ、室温にてフェニルヒドラジン 0.886mL とメタンスルホン酸 0.060mL を加え、3 時間攪拌した。反応液にピリジン 1mL を加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣をピリジン 50mL に溶解し、オキシ塩化リン 1.68mL を加え、室温にて 18

時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-(1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン0.218gを油状物として得た。

(3) 上記化合物218mgをメタノール10mLに溶解し、10%パラジウム/炭素200mgを加え、水素雰囲気下室温にて6時間攪拌した。反応液を濾過し、濾液を減圧下で濃縮することにより1-(1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン137mgを白色粉末として得た。

(4) 上記化合物137mg及び参考例3の表題化合物180mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(1-フェニル-5-ピラゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン204mgを白色粉末として得た。

(5) 上記化合物204mgをメタノール10mLに溶解させ、室温にて4mol/Lの塩酸/酢酸エチル3mLを加えて64時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をメタノールに溶解させ、酢酸エチルを加え、析出物を濾取することにより表題化合物170mgを白色固体として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (500MHz, DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.10-2.30 (1H, m), 2.80-4.10 (16H, m), 4.46-4.74 (3H, m), 6.10 (1H, d,  $J=1.7\text{Hz}$ ), 7.34-7.37 (1H, m), 7.49-7.52 (2H, m), 7.56 (1H, d,  $J=1.7\text{Hz}$ ), 7.79-7.81 (2H, m), 9.07 (1H, br s), 10.65 (1H, br s).

#### 実施例34

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 実施例33(1)の生成物5.70g及び4-フルオロフェニルヒドラジ

ン1. 05 gを用い、実施例33(2)と同様の手法により1-ベンジルオキシカルボニル-4-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラゾリル]ピペラジン0.075 gを油状物として得た。

(2) 上記化合物62 mgと10%パラジウム/炭素10 mgを用い、実施例33(3)と同様の手法により1-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラゾリル]ピペラジン40 mgを白色粉末として得た。

(3) 上記化合物40 mg及び参考例3の表題化合物48 mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラゾリル]-1-  
10-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン76 mgを白色粉末として得た。

(4) 上記化合物76 mgを用い、実施例33(5)と同様の手法により表題化合物56 mgを白色固体として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.00-2.33 (1H, m), 2.80-  
15 4.10 (16H, m), 4.45-4.74 (3H, m), 6.11 (1H, d, J=1.8 Hz), 7.29-7.36 (2H, m), 7.56 (1H, d, J=1.8 Hz), 7.78-7.85 (2H, m), 9.04 (1H, br s), 10.51 (1H, br s).

#### 実施例35

20 3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 1-tert-ブトキシカルボニルピペラジン103 gをDMF 600 mLに溶解し、室温にてジケテン56 mLを20分間かけて加えて2時間攪拌した。  
25 溶媒を減圧下で留去後、残渣を酢酸エチルで希釈し、水および飽和食塩水で洗浄した。乾燥後、溶媒を減圧下で留去することにより1-アセトアセチル-4-tert-ブトキシカルボニルピペラジン129 gを淡褐色粉末として得た。

(2) 上記化合物3.92 gをエタノール200 mLに溶解し、室温にて4-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩2.36 g及びモレキュラーシーブス3A10



gを加え、4時間攪拌した。モレキュラーシーブスを濾去し、濾液にピリジン4 mLを加え、溶媒を減圧留去した。残渣をピリジン200 mLに溶解させ、室温にてオキシ塩化リン3.0 mLを加え、18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、  
5 乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tert-ブトキシカルボニル-4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン2.03 gを褐色油状物として得た。

(3) 上記化合物2.03 gをジクロロメタン20 mLに溶解させ、室温にてトリフルオロ酢酸4 mLを加えて18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン1.42 gを褐色油状物として得た。  
10

(4) 上記化合物1.42 g及び参考例3の表題化合物1.36 gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン1.85 gを白色粉末として得た。  
15

(5) 上記化合物1.85 gをメタノール10 mL及びクロロホルム5 mLに溶解し、4 mol/L塩酸-酢酸エチル溶液5 mLを加え、18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物1.37 gを白色固体として得た。  
20

$^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  2.17 (3H, s); 2.20-2.40 (1H, m), 2.90-4.35 (16H, m), 4.43-4.82 (3H, m), 5.95 (1H, s), 7.21-7.37 (2H, m), 7.74-7.89 (2H, m), 9.13 (1H, br s), 11.10 (1H, br s).  
25

### 実施例36

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- (1) 実施例 35 (1) の生成物 1.92 g をエタノール 50 mL に溶解し、室温にて 2-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩 1.16 g を加え、4 時間攪拌した。反応液にピリジン 1 mL を加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣をピリジン 30 mL に溶解し、室温にてオキシ塩化リン 1.33 mL を加え、19 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-tert-ブトキシカルボニル-4-[1-(2-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン 0.640 g を油状物として得た。
- 10 (2) 上記化合物 640 mg をジクロロメタン 10 mL に溶解し、室温にてトリフルオロ酢酸 3 mL を加えて 3 時間攪拌した。溶媒を減圧下で留去し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で留去することにより 1-[1-(2-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン 430 mg を油状物として得た。
- 15 (3) 上記化合物 430 mg 及び参考例 3 の表題化合物 472 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(2-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 77.8 mg を淡黄色粉末として得た。
- 20 (4) 上記化合物 77.8 mg をジクロロメタン 5 mL に溶解し、室温にてトリフルオロ酢酸 5 mL を加えて 1 時間攪拌した。溶媒を減圧下で留去し、残渣を酢酸エチル 20 mL に溶解させた。この溶液に 4 mol/L の塩酸/酢酸エチル 1.5 mL を加え、析出物を濾取することにより表題化合物 60.8 mg を白色固体として得た。
- 25  $^1\text{H-NMR}$  (500 MHz, DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.03-2.25 (1H, m), 2.16 (3H, s), 2.72-4.00 (16H, m), 4.45-4.71 (3H, m), 5.91 (1H, s), 7.32-7.35 (1H, m), 7.40-7.44 (1H, m), 7.51-7.57 (2H, m), 9.02 (1H, brs), 10.41 (1H, brs).

## 実施例 37

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(3-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- 5 (1) 実施例 35 (1) の生成物 5.10 g 及び 3-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩 3.22 g を用い、実施例 36 (1) と同様の手法により 1-tert-ブトキシカルボニル-4-[1-(3-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 1.55 g を黄色固体として得た。

- 10 (2) 上記化合物 1.55 g を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により、1-[1-(3-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 1.12 g を油状物として得た。

- (3) 上記化合物 1.12 g 及び参考例 3 の表題化合物 1.17 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(3-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 1.97 g を白色粉末として得た。

- (4) 上記化合物 1.97 g を用い、実施例 36 (4) と同様の手法により、表題化合物 1.60 g を白色固体として得た。

- $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.10-2.35 (1H, m), 2.17 (3H, s), 2.90-4.15 (16H, m), 4.46-4.76 (3H, m), 5.98 (1H, s), 7.11-7.19 (1H, m), 7.47-7.55 (1H, m), 7.59-7.64 (1H, m), 7.70-7.73 (1H, m), 9.09 (1H, brs), 10.79 (1H, brs).

## 実施例 38

- 25 3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- (1) 実施例 35 (1) 化合物 5.0 g 及び 4-クロロフェニルヒドラジン塩酸塩 3.5 g を用い、実施例 35 (2) と同様の手法により 1-tert-ブトキシ

シカルボニル-4-[1-(4-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 2. 2 g を褐色固体として得た。

(2) 上記化合物 2. 2 g を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により 1-[1-(4-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 1. 7 g を褐色油状物として得た。

(3) 上記化合物 1. 7 g 及び参考例 3 の表題化合物 1. 5 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 2. 8 g を白色固体として得た。

(4) 上記化合物 2. 8 g を酢酸エチル 20 mL に溶解し、室温にて 4 mol/L の塩酸-酢酸エチル 40 mL を加えて 3 時間攪拌した。析出物を濾取することにより表題化合物 2. 2 g を白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2. 17 (3H, s), 2. 25-2. 40 (1H, m), 2. 95-4. 15 (17H, m), 4. 46-4. 77 (3H, m), 5. 97 (1H, s), 7. 48-7. 53 (2H, m), 9. 13 (1H, br s), 11. 01 (1H, br s).

#### 実施例 39

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 実施例 35 (1) の生成物 5. 0 g および 4-シアノフェニルヒドラジン塩酸塩 3. 3 g を用い、実施例 35 (2) と同様の手法により 1-tert-ブトキシカルボニル-4-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 2. 7 g を淡黄色固体として得た。

(2) 上記化合物 2. 7 g を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により 1-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 2. 1 g を淡黄色固体として得た。

(3) 上記化合物 2. 1 g 及び参考例 3 の表題化合物 1. 8 g を用い、実施例 2

9 (1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン3.2gを白色固体として得た。

- 5 (4)上記化合物3.2gを用い、実施例38(4)と同様の手法により表題化合物2.3gを白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.19 (3H, s), 2.20-2.40 (1H, m), 2.95-4.15 (17H, m), 4.46-4.77 (3H, m), 6.05 (1H, s), 7.91 (2H, d, J=9.0Hz), 8.0  
10 8. (2H, d, J=9.0Hz), 9.13 (1H, brs), 10.09 (1H, brs).

#### 実施例40

- 3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-  
15 チアゾリジン・2塩酸塩の合成

- (1)実施例35(1)の生成物3.92gをエタノール200mLに溶解し、室温にて2-ヒドラジノピリジン1.58g、メタンスルホン酸0.094mL及びモレキュラーシーブス3A10gを加え、18時間攪拌した。モレキュラーシーブスを濾去し、濾液にピリジン4mLを加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣をピリジン200mLに溶解し、室温にてオキシ塩化リン3.0mLを加えて18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tert-ブトキシカルボニル-4-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン230mgを得た。  
25

(2)上記化合物230mgをジクロロエタン10mLに溶解し、室温にてトリフルオロ酢酸2mLを加えて1時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5

ーピラゾリル] ピペラジン 180mg を得た。

(3) 上記化合物 180mg 及び参考例 3 の表題化合物 222mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 284mg を淡黄色油状物として得た。

(4) 上記化合物 284mg をメタノール 4mL 及びクロロホルム 2mL に溶解し、4mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 6mL を加え、2時間攪拌した。反応液を減圧下にて濃縮することにより表題化合物 176mg を白色固体として得た。

10  $^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  2.19 (3H, s), 2.24-2.44 (1H, m), 2.88-4.20 (16H, m), 4.42-4.80 (3H, m), 5.99 (1H, s), 7.30-7.40 (1H, m), 7.77 (1H, d,  $J=8.3\text{Hz}$ ), 7.92-8.01 (1H, m), 8.46-8.54 (1H, m), 9.14 (1H, brs), 11.05 (1H, brs).

15 実施例 41

3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・3マレイン酸塩の合成

(1) 3-アミノピリジン 20g を濃塩酸 125mL に溶解し、 $-10^\circ\text{C}$  にて亜硝酸ナトリウム 15g の水溶液 40mL を 20分間かけて加え、 $0^\circ\text{C}$  にて 2時間攪拌した。この溶液を  $-2^\circ\text{C}$  にて塩化スズ (II) 80g の濃塩酸溶液 200mL に 20分間かけて加え、14時間攪拌した。析出物を濾去して氷を加え、50%水酸化カリウム水溶液で強塩基性にした後ジクロロメタンで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣を酢酸エチル 400mL に溶解し、氷冷下にて 4mol/L の塩酸-酢酸エチル 55mL を加え、析出物を濾取することにより 3-ヒドラジノピリジン 2 塩酸塩 18g を淡黄色固体として得た。

(2) 上記化合物 3.5g をエタノール 100mL に懸濁し、室温にて実施例 35 (1) の生成物 5.0g、モレキュラーシーブス 3A 10g 及びピリジン 20mL を加え、2時間攪拌した。反応液にピリジン 100mL を加え、濾過し、濾

液を減圧下で濃縮した。残渣をピリジン100 mLに懸濁し、室温にてオキシ塩化リン3.8 mLを加え、13時間攪拌した。反応液を減圧下にて濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tert-ブトキシカルボニル-4-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン1.3 gを褐色固体として得た。

(3) 上記化合物1.3 gを用い、実施例36(2)と同様の手法により、1-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン876 mgを褐色油状物として得た。

10 (4) 上記化合物0.876 g及び参考例3の表題化合物0.900 gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン1.5 gを褐色油状物として得た。

15 (5) 上記化合物1.5 gを酢酸エチル20 mLに溶解し、室温にて4 mol/Lの塩酸-酢酸エチル40 mLを加えて14時間攪拌した。反応後、水及び1 mol/L塩酸を加え、水層を分け、10 mol/L水酸化ナトリウム水溶液で強塩基性にした後、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をエタノール100 mLに溶解し、氷冷下でマレイン酸950 mgのエタノール20 mL溶液を加え、析出物を濾取することにより表題化合物1.0 gを白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  1.60-1.78 (1H, s), 2.17 (3H, s), 2.50-3.90 (20H, m), 4.42-4.71 (4H, m), 5.91 (1H, s), 6.19 (6H, s), 7.49-7.53 (1 H, m), 8.12-8.16 (1H, m), 8.18-8.50 (1H, m), 8.98-8.99 (1H, m).

#### 実施例42

3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(4-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-

## チアゾリジン・3マレイン酸塩の合成

(1) 4-クロロピリジン塩酸塩 14 g をヒドラジン-水和物 50 mL に加え、120℃にて1時間攪拌した。反応液に1mol/Lの水酸化ナトリウム水溶液 100 mL 及び食塩を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣を酢酸エチル 100 mL に溶解し、氷冷下にて4mol/Lの塩酸-酢酸エチル 50 mL を加え、析出物を濾取することにより4-ヒドラジノピリジン・2塩酸塩 16 g を淡黄色固体として得た。

(2) 上記化合物 3.5 g 及び実施例 35 (1) の生成物 5.0 g を用い、実施例 41 (2) と同様の手法により1-tert-ブトキシカルボニル-4-[3-メチル-1-(4-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン 3.4 g を淡黄色固体として得た。

(3) 上記化合物 3.4 g を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により1-[3-メチル-1-(4-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン 2.4 g を淡黄色固体として得た。

(4) 上記化合物 2.4 g 及び参考例 3 の表題化合物 2.5 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[3-メチル-1-(4-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 4.1 g を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 4.1 g を用い、実施例 41 (5) と同様の手法によりにより表題化合物 4.3 g を白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 1.60-1.80 (1H, m), 2.18 (3H, s), 2.55-3.90 (20H, m), 4.43-4.72 (4H, m), 5.98 (1H, s), 6.18 (6H, s), 7.92-7.94 (2H, m), 8.61-8.63 (2H, m).

## 実施例 43

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(5-シアノ-2-ピリジル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成



(1) 2-クロロ-5-シアノピリジン 5.0 g を THF 100 mL に溶解し、ヒドラジン-水和物 9.0 mL に加え 3 時間還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および食塩を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより 2-シアノ-5-ヒドラジノピリジン 4.3 g を薄茶色固体として得た。

(2) 上記化合物 2.6 g をエタノール 200 mL の懸濁し、室温にて実施例 35 (1) の生成物 5.0 g、モレキュラーシーブス 3A 10 g およびメタンスルホン酸 2.6 g を加え 18 時間攪拌した。反応液にピリジン 10 mL を加え、モレキュラーシーブス 3A を濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。残渣をピリジン 200 mL に溶解し、室温にてオキシ塩化リン 3.8 mL を加えて 15 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-tert-ブトキシカルボニル-4-[1-(5-シアノ-2-ピリジル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン 1.3 g を淡黄色固体として得た。

(3) 上記化合物 1.3 g を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により 1-[1-(5-シアノ-2-ピリジル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン 1.1 g を褐色固体として得た。

(4) 上記化合物 1.1 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.900 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[1-(5-シアノ-2-ピリジル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン 1.6 g を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 1.6 g を用い、実施例 38 (4) と同様の手法により表題化合物 1.3 g を白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  2.21 (3H, s), 2.25-2.45 (1H, m), 2.95-4.19 (17H, m), 4.47-4.77 (3H, m), 6.05 (1H, s), 7.97 (1H, d,  $J=8.7\text{ Hz}$ ), 8.37 (1H, dd,  $J=8.7, 2.3\text{ Hz}$ ), 8.93 (1H, d,  $J=2.3$

Hz), 9.15 (1H, brs), 10.80 (1H, brs).

#### 実施例 44

3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,

#### 5 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 1-ベンジルオキシカルボニルピペラジン 19.0 g をピリジン 150 mL に溶解し、室温にて無水酢酸 9.0 mL を加えて 18 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に 10% クエン酸水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 4-アセチル

10 ル-1-ベンジルオキシカルボニルピペラジン 22.6 g を油状物として得た。

(2) 上記化合物 7.12 g をテトラヒドロフラン 150 mL に溶解し、-78℃において 1 mol/L リチウムビストリメチルシリルアミド-テトラヒドロフラン溶液 41 mL を 40 分かけて滴下した。その温度で 1 時間攪拌後、反応液にトリフルオロ酢酸エチル 4.85 mL のテトラヒドロフラン 20 mL 溶液を加え、ゆっくり室温まで昇温し、18 時間攪拌した。反応液に飽和塩化アンモニウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-ベンジルオキシカルボニル-4-トリフルオロアセトアセチルピペラジン 7.35 g を淡黄色固体として得た。

20 (3) 上記化合物 1.96 g およびフェニルヒドラジン 0.540 mL を用い、実施例 36 (1) と同様の手法により 1-ベンジルオキシカルボニル-4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン 0.416 g を油状物として得た。

(4) 上記化合物 416 mg を用い、実施例 3.3 (3) と同様の手法により 1-  
25 (3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン 286 mg を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 286 mg 及び参考例 3 の表題化合物 280 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾ

リル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン 322 mg を淡褐色粉末として得た。

(6) 上記化合物 322 mg を用い、実施例 33 (5) と同様の手法により表題化合物 294 mg を白色固体として得た。

- 5  $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.00-2.28 (1H, m), 2.80-4.00 (16H, m), 4.44-4.74 (3H, m), 6.64 (1H, s), 7.44-7.49 (1H, m), 7.54-7.59 (2H, m), 7.77-7.79 (2H, m), 9.03 (1H, brs), 10.55 (1H, brs).

#### 10 実施例 45

3 - { (2S, 4S) - 4 - [4 - (1H-インダゾール-3-イル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

- (1) 1 - (1H-インダゾール-3-イル) ピペラジン 178 mg 及び参考例 15 3 の表題化合物 264 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3 - { (2S, 4S) - 1 - tert-ブトキシカルボニル - 4 - [4 - (1H-インダゾール-3-イル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン 442 mg を無色透明油状物として得た。

- (2) 上記化合物 442 mg をメタノール 10 mL 及びクロロホルム 5 mL に溶解し、4 mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 5 mL を加え、18 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物 210 mg を白色固体として得た。

- $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.20-2.48 (1H, m), 2.90-4.30 (16H, m), 4.41-4.80 (3H, m), 7.02 (1H, t,  $J=6.9\text{ Hz}$ ), 7.25-7.46 (2H, m), 7.79 (1H, d,  $J=8.4\text{ Hz}$ ), 9.20 (1H, brs), 10.78 (1H, brs), 12.26 (1H, s), 12.34 (1H, brs).
- 25

#### 実施例 46

3 - { (2S, 4S) - 4 - [4 - (4-トリフルオロメチル-6-メトキシ-2-キノリル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チ

## アゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) p-アニシジン 10 g をトルエン 100 mL に溶解し、トリフルオロアセト酢酸エチル 12 mL およびモレキュラーシーブス 4 Å 5.0 g を加え 2 時間還流した。モレキュラーシーブス 4 Å を濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。

- 5 残渣に 75% ポリリン酸 40 mL を加え、130°C にて 2 時間攪拌した。反応溶液を氷に注ぎ、析出物を濾取し、乾燥後、クロロホルム-エーテル (1:2) の混合溶液で洗浄することにより 4-トリフルオロメチル-2-ヒドロキシ-6-メトキシキノリン 4.9 g を白色固体として得た。

- (2) 上記化合物 4.9 g をオキシ塩化リン 8.0 mL に加え、100°C にて 3  
10 時間攪拌した。反応液に氷を加え、次いで 4 mol/L の水酸化ナトリウム水溶液を加えて強塩基性とした後、析出物を濾取することにより 2-クロロ-4-トリフルオロメチル-6-メトキシキノリン 4.9 g を白色固体として得た。

- (3) ピペラジン 10 g を 130°C にて融解し、上記化合物 4.9 g を加えて 2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチル及びクロロホルムで抽出した。  
15 抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-(4-トリフルオロメチル-6-メトキシ-2-キノリル) ピペラジン 5.7 g を黄色固体として得た。

- (4) 上記化合物 1.1 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.900 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(4-トリフルオロメチル-6-メトキシ-2-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾ  
20 リジン 1.7 g を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 1.7 g を用い、実施例 38 (4) と同様の手法により表題化合物 1.6 g を黄色粉末として得た。

- 25 <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.30-2.45 (1H, m), 2.95-3.17 (3H, m), 3.25-4.25 (15H, m), 4.48-4.78 (5H, m), 7.16 (1H, brs), 7.45 (1H, dd, J=9.0, 2.4 Hz), 7.74 (1H, s), 7.80 (1H, d, J=9.0 Hz), 9.16 (1H, brs), 11.06 (1H, brs).

## 実施例 47

3- { (2S, 4S) -4- [4- (4-トリフルオロメチル-8-メトキシ-2-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- 5 (1) オルトアニシジン 50 g と 4, 4, 4-トリフルオロアセト酢酸エチル 71.3 mL をベンゼン 800 mL に溶解し、p-トルエンスルホン酸一水和物 7.72 g を加えて 20 時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に 75% ポリリン酸 300 mL を加え、9
- 10 0℃にて 6 時間攪拌した。反応液を氷水 3 L に注ぎ、析出した固体を濾取した。そのものを酢酸エチルに溶解し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 4-トリフルオロメチル-2-ヒドロキシ-8-メトキシキノリンを含む混合物 31.7 g を淡褐色固体として得た。
- 15 (2) 上記混合物 31.7 g にオキシ塩化リン 48.6 mL を加え、100℃にて 2 時間攪拌した。反応液に氷を加え、5 mol/L 水酸化ナトリウムを加えて塩基性とした後、析出物を濾取することにより 2-クロロ-4-トリフルオロメチル-8-メトキシキノリンを含む混合物 34.2 g を淡褐色固体として得た。
- (3) ピペラジン 25.8 g を 130℃にて融解し、上記化合物 13.1 g を加
- 20 え、3 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより 1- (4-トリフルオロメチル-8-メトキシ-2-キノリル) ピペラジン 5.21 g を淡黄色固体として得た。
- (4) 上記化合物 0.933 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.891 g を用い、
- 25 実施例 29 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- [4- (4-トリフルオロメチル-8-メトキシ-2-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 1.82 g を黄色固体として得た。
- (5) 上記化合物 1.82 g を 4.1 mol/L 塩酸-エタノール溶液 1 mL に

溶解し、室温で3時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、溶媒を留去した。残渣をHPLCにて精製し、4. 1 mol/L塩酸-エタノール溶液1 mLを加え、減圧下で濃縮することにより表題化合物0. 310 gを白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2. 11 (1H, m), 2. 67-3. 92 (20H, m), 4. 29-4. 78 (3H, m), 7. 04 (1H, m), 7. 17-7. 25 (2H, m), 7. 55 (1H, s), 8. 98 (1H, br s), 10. 46 (1H, br s).

#### 10 実施例48

3- { (2S, 4S) -4-[4-(2-トリフルオロメチル-6-ヒドロキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) p-アニシジン10 gをトルエン100 mLに溶解し、トリフルオロアセト酢酸エチル12 mLおよびモレキュラーシーブス4A 5. 0 gを加え2時間還流した。モレキュラーシーブス4Aを濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸40 mLを加え、130℃にて2時間攪拌した。反応液を氷に注ぎ、析出物を濾取した。析出物を乾燥後、クロロホルム-エーテル(1:2)の混合溶液を加え、不溶物を濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮することにより2-トリフルオロメチル-4-ヒドロキシ-6-メトキシキノリンを含む混合物8. 1 gを油状物として得た。

(2) 上記混合物8. 1 gを及びオキシ塩化リン12 mLを用い、実施例46(2)と同様の手法により4-クロロ-2-トリフルオロメチル-6-メトキシキノリン4. 2 gを白色固体として得た。

(3) 上記化合物4. 2 gを及びピペラジン10 gを用い、実施例46(3)と同様の手法により1-(2-トリフルオロメチル-6-メトキシ-4-キノリル)ピペラジン3. 6 gを淡黄色固体として得た。

(4) 上記化合物2. 2 g及び参考例3の表題化合物1. 7 gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカ

ルボニル-4-[4-(2-トリフルオロメチル-6-メトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン 3.6 g を白色固体として得た。

- (5) 上記化合物 3.6 g を酢酸エチル 20 mL に溶解し、室温にて 4 mol/L の塩酸-酢酸エチル 100 mL を加えて 10 時間攪拌した。析出物を濾取し、水に溶解し、クロロホルムで洗浄した。その水溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で塩基性とした後、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより 3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-6-メトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン 2.8 g を白色固体として得た。

- (6) 上記化合物 1.1 g をジクロロメタン 40 mL に溶解し、-78℃にて三臭化ホウ素 0.96 mL を加え、室温にて 4 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、残渣を HPLC により精製した。その精製物を酢酸エチルに溶解し、4 mol/L の塩酸-酢酸エチルを加え、析出物を濾取することにより表題化合物 236 mg を淡黄色粉末として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.10-2.39 (1H, m), 2.89-3.99 (17H, m), 4.48-4.77 (3H, m), 7.25 (1H, s), 7.32 (1H, d, J=2.4 Hz), 7.43 (1H, dd, J=9.0, 2.4 Hz), 7.98 (1H, d, J=9.0 Hz), 9.09 (1H, brs), 10.42 (1H, brs), 10.53 (1H, brs).

#### 実施例 49

- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 4-トリフルオロメチルアニリン 25.0 g 及びトリフルオロアセト酢酸エチル 22.7 mL を酢酸 140 mL に溶解し、室温で 23 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にジフ

エニルエーテル140 mLを加え、250℃で1.5時間攪拌した。反応液にヘキサン140 mLを加え、析出物を濾取することにより6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-ヒドロキシキノリン12.0 gを白色結晶性粉末として得た。

- 5 (2) 上記化合物12.0 gを用い、実施例46(2)と同様の手法により4-クロロ-6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチルキノリン12.1 gを白色固体として得た。

- (3) 上記化合物12.1 gを用い、実施例46(3)と同様の手法により1-(6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)ピペラ  
10 ジン14.3 gを淡黄色固体として得た。

- (4) 上記化合物402 mg及び参考例3の表題化合物300 mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,  
15 3-チアゾリジン601 mgを白色固体として得た。

- (5) 上記化合物601 mgを用い、実施例29(2)と同様の手法により表題化合物521 mgを微黄色粉末として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.46 (1H, m), 3.03-3.25 (3H, m), 3.31-4.05 (13H, m), 4.24 (1H, m), 4.  
20 52-4.85 (3H, m), 7.52 (1H, s), 7.92 (1H, d, J = 9.2 Hz), 8.02 (1H, s), 8.31 (1H, d, J = 9.2 Hz), 9.25 (1H, brs), 10.19 (1H, brs).

#### 実施例50

- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-8-ヒドロキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,  
25 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- (1) オルトアニシジン50 gと4,4,4-トリフルオロアセト酢酸エチル71.3 mLをベンゼン800 mLに溶解し、p-トルエンスルホン酸一水和物7.72 gを加えて20時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素



ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸300 mLを加え、90℃にて6時間攪拌した。反応液を氷水3 Lに注ぎ、析出した固体を濾取した。

5. そのものを酢酸エチルに溶解し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより2-トリフルオロメチル-4-ヒドロキシ-8-メトキシキノリンを含む混合物31.7 gを淡褐色固体として得た。

- (2) 上記化合物31.7 gにオキシ塩化リン48.6 mLを加え、100℃にて2時間攪拌した。反応液に氷を加え、5 mol/L水酸化ナトリウムを加えて塩基性とし、析出物を濾取することにより4-クロロ-2-トリフルオロメチル-8-メトキシキノリンを含む混合物34.2 gを淡褐色固体として得た。

- (3) ピペラジン25.8 gを130℃にて融解し、上記混合物13.1 gを加え、3時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより1-(2-トリフルオロメチル-8-メトキシ-4-キノリル)ピペラジン8.48 gを黄色固体として得た。

- (4) 上記化合物0.933 g及び参考例3の表題化合物0.891 gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(2-トリフルオロメチル-8-メトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン1.54 gを白色固体として得た。

- (5) 上記化合物394 mgを用い、実施例48(6)と同様の手法により表題化合物109 mgを黄色粉末として得た。

- $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.34 (1H, m), 2.90-4.23 (17H, m), 4.48-4.81 (3H, m), 7.22 (1H, dd,  $J=1.5, 7.2\text{ Hz}$ ), 7.36 (1H, s), 7.49-7.59 (2H, m), 9.15 (1H, brs), 10.16 (1H, brs), 10.77 (1H, brs).

実施例51

3- { (2S, 4S) -4- [4- (8-エトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 実施例50(3)の生成物4.86gをジクロロメタンに溶解し、-78℃にて三臭化ホウ素7.39mLを加え室温で3時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加えpH8とした。クロロホルムで抽出し飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-(2-トリフルオロメチル-8-ヒドロキシ-4-キノリル)ピペラジン1.52gを淡黄色固体として得た。

(2) 上記化合物0.648g及び参考例3の表題化合物0.595gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- [4- (2-トリフルオロメチル-8-ヒドロキシ-4-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン1.30gを微黄色固体として得た。

(3) 水素化ナトリウム40mgをDMF1mLに懸濁し、氷冷下で上記化合物291mgを加え、10分間攪拌した。反応液にp-トルエンスルホン酸エチルエステル200mgを加え、70℃にて4時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製することにより3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- [4- (8-エトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン280mgを微黄色固体として得た。

(4) 上記化合物280mgを用い、実施例47(5)と同様の手法により表題化合物141mgを黄色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 1.57 (3H, t, J=6.9Hz), 2.54 (1H, m), 3.02-4.17 (16H, m), 4.19-4.46 (3H, m), 4.51-5.18 (3H, m), 7.42 (1H, m), 7.51 (1H, s), 7.73-7.77 (2H, m), 9.33 (1H, br s), 10.94 (1H, br s).

## 実施例 5 2

3- { (2 S, 4 S) - 4 - [ 4 - ( 2 - トリフルオロメチル - 8 - イソプロポキシ - 4 - キノリル ) - 1 - ピペラジニル ] - 2 - ピロリジニルカルボニル } - 1, 3 - チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

- 5 (1) 実施例 5 1 (2) の生成物 291mg 及び p-トルエンスルホン酸イソプロポキシエステル 161mg を用い、実施例 5 1 (3) と同様の手法により、3- { (2 S, 4 S) - 1 - tert-ブトキシカルボニル - 4 - [ 4 - ( 2 - トリフルオロメチル - 8 - イソプロポキシ - 4 - キノリル ) - 1 - ピペラジニル ] - 2 - ピロリジニルカルボニル } - 1, 3 - チアゾリジン 28mg を無色油状物として得た。

(2) 上記化合物 28mg を用い、実施例 2 9 (2) と同様の手法により表題化合物 10mg を黄色粉末として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 1.43 (3H, s), 1.45 (3H, s), 2.45 (1H, m), 3.04-3.26 (6H, m), 3.61-4.03 (10H, m), 4.22 (1H, m), 4.50-4.97 (4H, m), 7.40 (1H, m), 7.44 (1H, s), 7.67-7.69 (2H, m), 9.24 (1H, brs), 10.99 (1H, brs).

## 実施例 5 3

- 3- { (2 S, 4 S) - 4 - [ 4 - ( 8 - トリフルオロメトキシ - 2 - トリフルオロメチル - 4 - キノリル ) - 1 - ピペラジニル ] - 2 - ピロリジニルカルボニル } - 1, 3 - チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 2-トリフルオロメチルアニリン 5.10g を用い、実施例 4 7 (1) と同様の手法により 8-トリフルオロメトキシ - 2-トリフルオロメチル - 4-ヒドロキシキノリン 0.345g を白色粉末として得た。

- 25 (2) 上記化合物 345mg を用い、実施例 4 7 (2) と同様の手法により 4-クロロ - 8-トリフルオロメトキシ - 2-トリフルオロメチルキノリン 316mg を橙色油状物として得た。

(3) 上記化合物 316mg を用い、実施例 4 7 (3) と同様の手法により 1-(8-トリフルオロメトキシ - 2-トリフルオロメチル - 4-キノリル) ピペラ

ジン 349 mg を黄色油状物として得た。

(4) 上記化合物 349 mg 及び参考例 3 の表題化合物 261 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(8-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 513 mg を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 513 mg を用い、実施例 47 (5) と同様の手法により表題化合物 365 mg を白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.26 (1H, m), 2.80-4.19 (17H, m), 4.30-4.72 (3H, m), 7.38 (1H, s), 7.68 (1H, dd, J=7.9, 7.9 Hz), 7.82 (1H, d, J=7.9 Hz), 8.06 (1H, d, J=7.9 Hz), 9.06 (1H, brs), 10.84 (1H, brs).

#### 実施例 54

3- { (2S, 4S) -4- {4-[8-(2, 2, 2-トリフルオロエトキシ)-2-トリフルオロメチル-4-キノリル]-1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) 実施例 51 (2) の生成物 345 mg を DMF 3 mL に溶解し、炭酸カリウム 164 mg 及びメタンスルホン酸 2, 2, 2-トリフルオロエチルエステル 212 mg を加え、100℃にて5時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製することにより 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- {4-[8-(2, 2, 2-トリフルオロエトキシ)-2-トリフルオロメチル-4-キノリル]-1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 283 mg を黄色油状物として得た。

(2) 上記化合物 283 mg を用い、実施例 47 (5) と同様の手法により表題化合物 19 mg を白色粉末として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2.34 (1H, m), 2.92-4.21

(1.7 H, m), 4.49–4.79 (3 H, m), 5.03 (2 H, q, J = 9.0 Hz), 7.44 (1 H, s), 7.51 (1 H, d, J = 7.5 Hz), 7.68 (1 H, dd, J = 7.5, 8.4 Hz), 7.78 (1 H, d, J = 8.4 Hz), 9.16 (1 H, br s), 10.84 (1 H, br s).

#### 5 実施例 55

3-[(2S, 4S)-4-{4-(2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

- (1) 2, 4-ジメトキシアニリン 30 g をベンゼン 400 mL に溶解し、トリ  
10 フルオロアセト酢酸エチル 34 mL 及び p-トルエンスルホン酸一水和物 3.7 g を加え、21 時間還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に 75% ポリリン酸 150 mL を加え、130 °C にて 2 時間攪拌した。反応溶液を氷に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液  
15 を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、1 mol/L の塩酸及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にエタノールを加え、析出物を濾去し、濾液を減圧下で濃縮することにより 2-トリフルオロメチル-4-ヒドロキシ-6, 8-ジメトキシキノリン 12 g を油状物として得た。

- (2) 上記化合物 12 g 及びオキシ塩化リン 17 mL を用い、実施例 46 (2)  
20 と同様の手法により 4-クロロ-2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシキノリン 13 g を白色固体として得た。

(3) 上記化合物 13 g 及びピペラジン 23 g を用い、実施例 46 (3) と同様の手法により 1-(2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシ-4-キノリル) ピペラジン 13 g を淡褐色固体として得た。

- (4) 上記化合物 1.2 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.900 g を用い、実施  
25 例 29 (1) と同様の手法により 3-[(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-(2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン 2.1 g を白色粉末として得た。

(5) 上記化合物 1. 8 g を用い、実施例 38 (4) と同様の手法により表題化合物 1. 4 g を淡黄色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  2. 25–2. 43 (1H, m), 2. 97–3. 18 (3H, m), 3. 25–4. 20 (20H, m), 4. 48–4. 70 (3H, m), 6. 84 (1H, d,  $J=2. 4\text{Hz}$ ), 6. 95 (1H, d,  $J=2. 4\text{Hz}$ ), 7. 38 (1H, s), 9. 14 (1H, brs), 10. 70 (1H, brs).

#### 実施例 56

3- { (2S, 4S) -4- [4- (3, 5-ジメチル-1-ピラゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) tert-ブチルカルバゼート 26. 4 g をエタノール 100 mL に溶解し、1-エトキシカルボニル-4-ピペリドン 34. 2 g のエタノール 80 mL 溶液を加え、一昼夜攪拌した。5%白金炭素 2 g を加え、1気圧の水素下室温にて攪拌した。白金炭素を濾去し、濾液に 4 mol/L 塩酸-ジオキサン溶液 200 mL を加え、50℃に加温した。溶液を氷冷し、析出物を濾取することにより 1-エトキシカルボニル-4-ヒドラジノピペリジン・2塩酸塩 44. 4 g を白色結晶として得た。

(2) 上記化合物 2. 9 g をメタノール 10 mL に溶解し、トリエチルアミン 3. 1 mL とアセチルアセトン 1. 1 g を加え、室温にて攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を 10% クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 1-エトキシカルボニル-4- (3, 5-ジメチル-1-ピラゾリル) ピペリジン 2. 69 g を油状物として得た。

(3) 上記化合物 2. 6 g を 30% 臭化水素-酢酸 25 mL に溶解し、室温で 3 日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、炭酸カリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで抽出した。抽出液を炭酸カリウムで乾燥後、減圧下で濃縮することにより 4- (3, 5-ジメチル-1-ピラゾリル) ピペリジン 1. 12 g を油状物として得た。

(4) 上記化合物 592 mg 及び参考例 3 の表題化合物 901 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- [4- (3, 5-ジメチル-1-ピラゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 834 mg を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 834 mg をメタノール 20 mL 及びクロロホルム 10 mL に溶解し、4 mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 10 mL を加え、18 時間攪拌した。反応液を減圧下濃縮することにより表題化合物 415 mg を白色固体として得た。  
 $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  1.90-2.55 (11H, m), 2.90-4.00 (10H, m), 4.24-4.80 (4H, m), 5.81 (1H, m), 9.12 (1H, brs), 10.89 (1H, brs) .

#### 実施例 57

3- { (2S, 4S) -4- [4- (3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

(1) 実施例 56 (1) の生成物 5.2 g をメタノール 25 mL に溶解し、トリエチルアミン 5.6 mL とジベンゾイルアセトン 3.2 g を加え、室温で 3 日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を 10% クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-エトキシカルボニル-4- (3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル) ピペリジン 3.74 g を得た。

(2) 上記化合物 3.1 g を用い、実施例 56 (3) と同様の手法により 4- (3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル) ピペリジンを結晶物として得た。

(3) 上記化合物 0.796 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.901 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4- [4- (3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 1.43 g を白色固体として得た。

(4) 上記化合物 1.42 g を用い、実施例 31 (4) と同様の手法により表題化合物 1.17 g を淡黄色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  1.95–2.12 (2H, m), 2.20 (3H, s), 2.22–2.37 (1H, m), 2.87–3.27 (5H, m), 3.38–4.05 (9H, m), 4.33–4.76 (4H, m), 6.13 (1H, s), 7.42–7.57 (5H, m), 9.09 (1H, br s), 10.79 (1H, br s), 11.79 (1H, br s).

#### 実施例 58

3-[(2S, 4S)-4-[4-(3, 5-ジフェニル-1-ピラゾリル)ピペリジン-1-イル]-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 実施例 56 (1) の生成物 2.6 g をメタノール 10 mL に溶解し、トリエチルアミン 2.8 mL とジベンゾイルメタン 2.2 g を加え、60℃で一昼夜攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、水を加え、析出した結晶を濾取することにより 1-エトキシカルボニル-4-(3, 5-ジフェニル-1-ピラゾリル)ピペリジン 2.71 g を結晶物として得た。

(2) 上記化合物 2.7 g を用い、実施例 56 (3) と同様の手法により 4-(3, 5-ジフェニル-1-ピラゾリル)ピペリジン 2.14 g を結晶物として得た。

(3) 上記化合物 1.00 g 及び参考例 3 の表題化合物 0.901 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-[(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(3, 5-ジフェニル-1-ピラゾリル)ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン 1.12 g を無色透明油状物として得た。

(4) 上記化合物 1.12 g をメタノール 20 mL 及びクロロホルム 10 mL に溶解し、4 mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 10 mL を加え、18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物 0.804 g を白色固体として得た。

$^1\text{H-NMR}$  ( $\text{DMSO}-d_6$ )  $\delta$  2.00–2.70 (5H, m), 2.82–



4. 10 (12H, m), 4. 37-4. 80 (4H, m), 6. 85 (1H, s), 7. 25-7. 63 (8H, m), 7. 74-7. 95 (2H, m)

#### 実施例 59

3- {(2S, 4S)-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) トリフルオロ酢酸エチル 6. 32 g を tert-ブチルメチルエーテル 10 mL に溶解し、室温にて 28% ナトリウムメトキシド-メタノール溶液 9. 40 g 及び 4-アセチルピリジン 4. 90 g の tert-ブチルメチルエーテル 20 mL 溶液を順次加え、22 時間攪拌した。反応液に 10% クエン酸水溶液を約 pH 4 になるまで加え、析出物を濾取し、水洗し、乾燥することにより 4-トリフルオロアセトアセチルピリジン 5. 46 g を黄色固体として得た。

(2) 上記化合物 760 mg をエタノール 20 mL に懸濁させ、室温にてフェニルヒドラジン 0. 380 mL を加え、23 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル) ピリジン 470 mg を油状物として得た。

(3) 上記化合物 470 mg をアセトニトリル 50 mL に溶解し、ベンジルクロリド 0. 380 mL を加え、24 時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣にジエチルエーテルを加え、析出物を濾取した。このものをエタノール 30 mL に溶解し、氷冷下で水素化ホウ素ナトリウム 130 mg を加え、室温にて 2 時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-ベンジル-4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン 142 mg を油状物として得た。

(4) 上記化合物 142 mg 及びギ酸アンモニウム 240 mg をメタノール 20 mL に溶解し、10% パラジウム/炭素 150 mg を加え、窒素雰囲気下 2 時間

加熱還流した。不溶物を濾去後、濾液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペリジン90mgを油状物として得た。

- 5 (5) 上記化合物90mg及び参考例3の表題化合物90mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン134mgを白色粉末として得た。

- 10 (6) 上記化合物134mgを用い、実施例33(5)と同様の手法により表題化合物96mgを白色固体として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (500MHz, DMSO- $d_6$ )  $\delta$  1.90-2.30 (5H, m), 2.83-4.00 (13H, m), 4.46-4.71 (3H, m), 6.78 (1H, s), 7.57-7.62 (5H, m), 9.07 (1H, br s), 10.45 (1H, br s), 11.82 (1H, br s).

#### 15 実施例60

3-{(2S, 4S)-4-[4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

- 20 (1) 1-ベンジルオキシカルボニルイソニペコチン酸13.1g、HOBT11.4g及びEDCの塩酸塩11.4gをテトラヒドロフラン200mLに溶解し、アニリン5.0mLを加え、室温にて17時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、0.5mol/L塩酸を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧下で留去することにより1-ベンジルオキシカルボニルイソニペコチン酸アニリド17.0gを白色固体として得た。

(2) 上記化合物2.00g、トリフェニルホスフィン3.10g及び40%アゾジカルボン酸ジイソプロピル-トルエン溶液6.00gをテトラヒドロフラン50mLに溶解し、氷冷下でトリメチルシリルアジド1.57mLを加え、室温

にて5日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)ピペリジン4.09gを茶褐色油状物として得た。

- 5 (3) 上記化合物4.09gをメタノール50mLに溶解し、10%パラジウム/炭素420mgの存在下、1気圧の水素下室温にて攪拌した。反応液を濾過し、濾液を減圧下で濃縮することにより4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)ピペリジン1.42gを灰色固体として得た。

- (4) 上記化合物0.757g及び参考例3の表題化合物0.901gを用い、  
10 実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン1.07gを白色固体として得た。

- (5) 上記化合物1.06gをエタノール4mLに溶解し、7.4mol/L塩  
15 酸-エタノール溶液3mLを加え、室温にて11時間攪拌した。析出物を濾取することにより表題化合物0.688gを白色粉末として得た。

- <sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 1.93-2.34 (5H, m), 2.85-3.95 (13H, m), 4.43-4.77 (3H, m), 7.69 (5H, s), 9.12 (1H, brs), 10.74 (1H, brs), 12.04  
20 (1H, brs) ..

#### 実施例61

3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-1H-テトラゾール-5-イル]ピペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

- 25 (1) イソニペコチン酸19.0gを水150mL及び1, 4-ジオキサン300mLに溶解し、氷冷下1mol/L水酸化ナトリウム水溶液150mL及び二炭酸ジ-tert-ブチル35.3gを加え、室温にて3日間攪拌した。1, 4-ジオキサンを減圧下で留去し、残渣に5%硫酸水素カリウム水溶液を加え、析出した固体を濾取することにより、1-tert-ブトキシカルボニルイソニペ

コチン酸 33.0 g を白色固体として得た。

(2) 上記化合物 2.43 g、HOBT 1.95 g 及び EDC の塩酸塩 2.44 g を DMF 50 mL に溶解し、4-フルオロアニリン 1.00 mL を加え、室温にて 5 時間攪拌した。反応液に水を加え、析出物を濾取することにより 1-tert-butyl 4-(4-fluorophenyl) piperidine-1-carboxylate 2.82 g を白色固体として得た。

(3) 上記化合物 2.82 g を用い、実施例 60 (2) と同様の手法に 1-tert-butyl 4-(4-fluorophenyl) piperidine-1-carboxylate 0.916 g を白色固体として得た。

(4) 上記化合物 916 mg を用い、実施例 36 (2) と同様の手法により 4-[1-(4-fluorophenyl)-1H-tetrazol-5-yl] piperidine 342 mg を淡褐色固体として得た。

(5) 上記化合物 338 mg 及び参考例 3 の表題化合物 373 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-butyl 4-(4-[1-(4-fluorophenyl)-1H-tetrazol-5-yl] piperidin-2-yl) piperidin-1-yl)-1,3-bisaziridine 514 mg を白色粉末として得た。

(6) 上記化合物 512 mg をメタノール 10 mL 及びクロロホルム 5 mL に溶解させ、室温にて 4 mol/L の塩酸-ジオキサソラン 3 mL を加え 17 時間攪拌した後、反応液を減圧下で濃縮した。残渣をメタノールに溶解し、酢酸エチルを加えた。析出物を濾取することにより表題化合物 318 mg を白色固体として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (500 MHz, DMSO-d<sub>6</sub>) δ 1.90-2.40 (5H, m), 2.70-3.95 (13H, m), 4.46-4.72 (3H, m), 7.52-7.55 (2H, m), 7.77-7.79 (2H, m), 9.09 (1H, brs), 10.57 (1H, brs), 11.92 (1H, brs).

#### 実施例 62

3-((2S, 4S)-4-[4-(1H-indazol-1-yl) piperidin-2-yl] piperidin-1-yl)-1,3-bisaziridine の合成

(1) 2-フルオロベンズアルデヒド 2.48 g をメタノール 20 mL に溶解し、

これに実施例 56 (1) の生成物 8.2 g 及びトリエチルアミン 7.5 mL のメ  
タノール 20 mL 溶液を滴下した。室温にて 1 時間攪拌した後、減圧下で濃縮し、  
残渣に飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を 10% クエン酸水溶  
液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒  
5 を留去した。残渣にヨウ化銅 (I) 0.38 g とテトラヒドロフラン 40 mL を  
加え、さらに氷冷下にて *tert*-ブトキシカリウム 3.8 g のテトラヒドロフ  
ラン 20 mL 溶液を加え、室温にて 4 日間攪拌した。反応液を 10% クエン酸水  
溶液 20 mL で中和して、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水、飽和炭  
酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮し  
10 た。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-エトキシ  
カルボニル-4-(1H-インダゾール-1-イル) ピペリジン 1.04 g を油  
状物として得た。

(2) 上記化合物 0.90 g を 30% 臭化水素-酢酸 10 mL に溶解し、室温で  
4 日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣を炭酸カリウム水で中和し、酢  
15 酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥し、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルク  
ロマトグラフィーにて精製することにより 4-(1H-インダゾール-1-イ  
ル) ピペリジン 0.42 g を油状物として得た。

(3) 上記化合物 420 mg 及び参考例 3 の表題化合物 570 mg を用い、実施  
例 29 (1) と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-*tert*-ブトキ  
20 シカルボニル-4-[4-(1H-インダゾール-1-イル) ピペリジノ]-2  
-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン 468 mg を無色透明油状  
物として得た。

(4) 上記化合物 468 mg をメタノール 10 mL 及びクロロホルム 5 mL に溶  
解し、4 mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 5 mL を加え、18 時間攪拌した。反  
25 応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物 283 mg を白色固体として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.00-2.70 (5H, m), 2.90-  
4.15 (12H, m), 4.42-4.80 (3H, m), 4.90-5.2  
0 (1H, m), 7.17 (1H, t,  $J=7.4\text{ Hz}$ ), 7.42 (1H, t,  
 $J=7.3\text{ Hz}$ ), 7.67-7.85 (2H, m), 8.12 (1H, s).

## 実施例 6 3

3- { (2S, 4S) - 4- [4- (3-メチル-1H-インダゾール-1-イル) ピペリジノ] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン・2  
塩酸塩の合成

- 5 (1) 実施例 5 6 (1) の生成物 8. 4 g をメタノール 3 5 mL に溶解し、トリ  
エチルアミン 9. 5 mL と 2'-フルオロアセトフェノン 4. 0 5 g を加え、1  
時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和食塩水を加え、酢酸エ  
チルで抽出した。抽出液を 1 0 % クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶  
液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を留去した。残渣にヨウ化銅
- 10 (I) 0. 6 g とテトラヒドロフラン 8 0 mL を加え、さらに氷冷下にて t e r  
t-ブトキシカリウム 6 g を加え、室温で 5 日間攪拌した。反応液を 1 0 % クエ  
ン酸水溶液 4 0 mL で中和して、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水、  
飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮  
した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-エトキ  
シカルボニル-4- (3-メチル-1H-インダゾール-1-イル) ピペリジン
- 15 を油状物として得た。  
(2) 上記化合物 2. 3 g を用い、実施例 5 6 (3) と同様の手法により 4-  
(3-メチル-1H-インダゾール-1-イル) ピペリジン 1. 1 g を油状物と  
して得た。
- 20 (3) 上記化合物 7 1 0 m g 及び参考例 3 の表題化合物 9 0 1 m g を用い、実施  
例 2 9 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) - 1-t e r t-ブトキ  
シカルボニル-4- [4- (3-メチル-1H-インダゾール-1-イル) ピペ  
リジン-1-イル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン 7  
9 3 m g を白色固体として得た。
- 25 (4) 上記化合物 7 9 3 m g を用い、実施例 6 2 (4) と同様の手法により表題  
化合物 5 8 0 m g を白色固体として得た。

<sup>1</sup>H-NMR (DMSO-d<sub>6</sub>) δ 2. 0 0 - 2. 7 0 (8H, m), 2. 9 2 -  
4. 2 7 (1 2H, m), 4. 3 8 - 4. 8 0 (3H, m), 4. 8 0 - 5. 1  
2 (1H, m), 7. 1 3 (1H, t, J=7. 2 Hz), 7. 4 0 (1H, t,

$J = 7.5 \text{ Hz}$ ),  $7.56 - 7.81$  (2H, m),  $9.15$  (1H, br s),  $10.80$  (1H, br s),  $12.14$  (1H, br s).

#### 実施例 64

3-[(2S, 4S)-4-[4-(5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミダ  
5 ズリル)ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアゾリジン・  
3塩酸塩の合成

(1) 1-フルオロ-4-トリフルオロメチル-2-ニトロベンゼン  $5.1 \text{ g}$  を  
テトラヒドロフラン  $100 \text{ mL}$  に溶解し、ジイソプロピルエチルアミン  $5.5 \text{ mL}$   
L 及び 4-アミノ-1-tert-ブトキシカルボニルピペリジン  $5.37 \text{ g}$  を  
10 加え、室温で 3 時間撹拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸  
エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより 1-tert-  
ブトキシカルボニル-4-(4-トリフルオロメチル-2-ニトロフェニル)  
アミノピペリジンを得た。

(2) 上記化合物をエタノール  $350 \text{ mL}$  に溶解し、無水塩化スズ (II)  $61$   
15  $\text{g}$  を加えて 3 日間撹拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、析  
出した不溶物を濾去し、濾液を減圧下で濃縮した。残渣に飽和炭酸水素ナトリウ  
ム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残  
渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 4-(2-アミノ-  
4-トリフルオロメチルフェニル)アミノ-1-tert-ブトキシカルボニル  
20 ピペリジン  $3.58 \text{ g}$  を得た。

(3) 上記化合物  $1.5 \text{ g}$  にオルトギ酸トリメチル  $12 \text{ mL}$  と p-トルエンスル  
ホン酸  $0.010 \text{ g}$  を加えて  $90^\circ\text{C}$  で 90 分間撹拌した。反応液を減圧下で濃縮  
することにより 1-tert-ブトキシカルボニル-4-(5-トリフルオロメ  
チル-1-ベンズイミダズリル)ピペリジンを得た。

25 (4) 上記化合物をトリフルオロ酢酸  $10 \text{ mL}$  に溶解し、室温にて 30 分撹拌し  
た。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢  
酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をジエチルエーテ  
ルから結晶化させることにより 4-(5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミ  
ダズリル)ピペリジン  $960 \text{ mg}$  を得た。

(5) 上記化合物 646 mg 及び参考例 3 の表題化合物 601 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3- { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 795 mg を白色固体として得た。

(6) 上記化合物 791 mg を用い、実施例 60 (5) と同様の手法により表題化合物 558 mg を白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.25-2.43 (3H, m), 2.60-2.78 (2H, m), 2.98-3.21 (3H, m), 3.27-4.15 (9H, m), 4.47-4.80 (3H, m), 4.91-5.07 (1H, m), 7.75 (1H, d,  $J=8.6\text{ Hz}$ ), 8.14 (1H, s), 8.28 (1H, d,  $J=8.6\text{ Hz}$ ), 8.96 (1H, s), 9.21 (1H, brs), 10.87 (1H, brs), 12.51 (1H, brs).

#### 実施例 65

3- { (2S, 4S) -4-[4-(5-トリフルオロメチル-2-メチル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 実施例 64 (2) の生成物 1.9 g をジクロロメタン 15 mL に溶解し、無水酢酸 0.500 mL を加えて終夜撹拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより 4-(2-アセチルアミノ-4-トリフルオロメチルフェニル) アミノ-1-tert-ブトキシカルボニルピペリジンを得た。

(2) 上記化合物を酢酸 15 mL に溶解し、80℃で終夜撹拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣を ISOLUTE FLUSH SIL で精製することにより 1-tert-ブトキシカルボニル-4-(5-トリフルオロメチル-2-メチル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジンを得た。

(3) 上記化合物をトリフルオロ酢酸 20 mL に溶解し、4時間放置した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣を酢酸エチル-ヘキサンか



ら結晶化させることにより4-(5-トリフルオロメチル-2-メチル-1-ベンズイミダゾリル)ピペリジン730mgを得た。

- (4) 上記化合物614mg及び参考例3の表題化合物601mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(5-トリフルオロメチル-2-メチル-1-ベンズイミダゾリル)ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン902mgを白色固体として得た。

(5) 上記化合物898mgを用い、実施例31(4)と同様の手法により表題化合物818mgを白色粉末として得た。

- 10  $^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2.20-2.40 (3H, m), 2.87 (3H, s), 2.91-3.20 (5H, m), 3.25-4.20 (9H, m), 4.48-4.79 (3H, m), 4.95-5.09 (1H, m), 7.73 (1H, d,  $J=8.6\text{ Hz}$ ), 8.11 (1H, s), 8.62 (1H, d,  $J=8.6\text{ Hz}$ ), 9.23 (1H, br s), 10.90 (1H, br s), 12.75 (1H, br s).

#### 実施例66

3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-フルオロ-2-ベンズオキサゾリル)ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジンの合成

- (1) エタノール76gとクロロホルム110mLの混合溶液に、氷冷下塩化アセチル107mLを滴下した。30分間攪拌後、氷冷下1-ベンジルオキシカルボニル-4-シアノピペリジン12.2gのクロロホルム110mL溶液を加え、室温にて1時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-(エトキシカルボイミドイル)ピペリジン・塩酸塩15.4gを白色固体として得た。

- 25 (2) 上記化合物3.07g及び2-アミノ-5-フルオロフェノール1.64gをエタノール60mLに溶解し、10時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に1.0mol/L塩酸を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより1-ベン

ジルオキシカルボニル-4-(6-フルオロ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン 2.51 g を褐色固体として得た。

(3) 上記化合物 2.50 g を用い、実施例 33 (3) と同様の手法により 4-(6-フルオロ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン 1.46 g を褐色固体として得た。

(4) 上記化合物 529 mg 及び参考例 3 の表題化合物 601 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(6-フルオロ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン 879 mg を白色固体として得た。

(5) 上記化合物 874 mg をエタノール 3 mL に溶解し、7.4 mmol/L 塩酸-エタノール溶液 1.5 mL に室温下 14 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製し、ジエチルエーテルから結晶化することにより表題化合物 213 mg を白色粉末として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  1.52-1.63 (1H, m), 1.70-1.87 (2H, m), 2.02-2.23 (4H, m), 2.25-2.36 (1H, m), 2.68-3.12 (8H, m), 3.57-3.98 (3H, m), 4.40-4.71 (2H, m), 7.71-7.27 (1H, m), 7.66-7.76 (2H, m).

#### 実施例 67

3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

(1) 実施例 66 (1) の生成物 1.54 g 及び 2-アミノ-5-メトキシフェノール 1.01 g を用い、実施例 66 (2) と同様の手法により 1-ベンジルオキシカルボニル-4-(6-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン 1.61 g を茶色油状物として得た。

(2) 上記化合物 1. 60 g を用い、実施例 33 (3) と同様の手法により 4-(6-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン 0. 951 g を赤茶色固体として得た。

(3) 上記化合物 557 mg 及び参考例 3 の表題化合物 601 mg を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(6-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン 885 mg を白色固体として得た。

(4) 上記化合物 881 mg を酢酸エチル 2 mL に溶解し、4 mol/L 塩酸-酢酸エチル溶液 4. 3 mL を加え、室温にて 14 時間攪拌した。析出物を濾取することにより表題化合物 780 mg を白色固体として得た。

$^1\text{H-NMR}$  (DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2. 10-2. 45 (6H, m), 2. 91-4. 08 (15H, m), 4. 45-4. 78 (3H, m), 6. 96 (1H, dd,  $J=8. 7, 2. 3\text{ Hz}$ ), 7. 34 (1H, d,  $J=2. 3\text{ Hz}$ ), 7. 59 (1H, d,  $J=8. 7\text{ Hz}$ ), 9. 13 (1H, brs), 10. 72 (1H, brs), 12. 08 (1H, brs).

#### 実施例 68

3-((2S, 4S)-4-{4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-1-イル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

(1) 実施例 59 (1) 化合物 1. 54 g と 4-メトキシフェニルヒドラジン・塩酸塩 1. 36 g 及びピリジン 630  $\mu\text{L}$  を用い、実施例 59 (2) と同様の手法により 4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル] ピリジン 2. 26 g を油状物として得た。

(2) 実施例 59 (3) と同様の手法により、上記化合物 2. 26 g 及びベンジルクロリド 1. 63 mL を用いてピリジニウム塩とした後、水素化ホウ素ナトリウム 0. 540 g で還元することにより 1-ベンジル-4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1, 2, 3, 6-

テトラヒドロピリジン 1. 79 g を油状物として得た。

(3) 上記化合物 1. 65 g をジクロロメタン 40 mL に溶解し、氷冷下クロロ炭酸 1-クロロエチル 0. 520 mL を加え、室温にて 24 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣にメタノール 30 mL を加え、1 時間加熱還流した。

- 5 溶媒を減圧下で留去し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにより精製することにより 4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン 1. 10 g を油状物として得た。

- 10 (4) 上記化合物 1. 05 g 及び参考例 3 の表題化合物 0. 890 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-{4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-1-イル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン 1. 70 g を淡黄色粉末として得た。

(5) 上記化合物 762 mg を用い、実施例 36 (4) と同様の手法により表題化合物 648 mg を淡黄色固体として得た。

- $^1\text{H-NMR}$  (500 MHz, DMSO- $d_6$ )  $\delta$  2. 00-2. 65 (2H, m), 2. 78-4. 10 (13H, m), 3. 83 (3H, s), 4. 46-4. 72 (3H, m), 5. 72 (1H, s), 7. 03 (1H, s), 7. 52-7. 55 (2H, m), 7. 07 (2H, d,  $J=8.9\text{ Hz}$ ), 7. 45 (2H, d,  $J=8.9\text{ Hz}$ ), 9. 04 (1H, br s), 10. 35 (1H, br s).

なお、上記実施例で得られた化合物の構造を表 1~9 にまとめて示す。

表 1

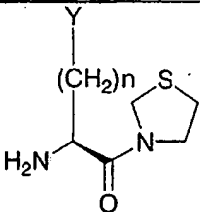
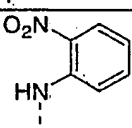
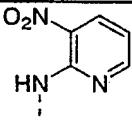

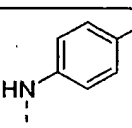
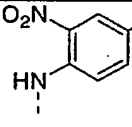
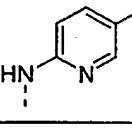
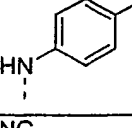
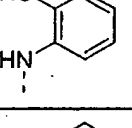
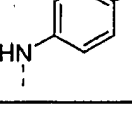
			
実施例番号	Y	n	塩
1		4	CF <sub>3</sub> CO <sub>2</sub> H
2		4	CF <sub>3</sub> CO <sub>2</sub> H
3		4	CF <sub>3</sub> CO <sub>2</sub> H
4		4	---
5		4	---
6		4	2HCl
7		4	---
8		4	---
9		4	---

表 2

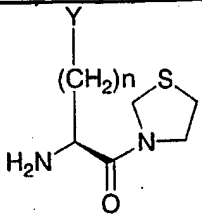
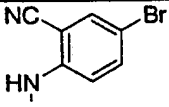
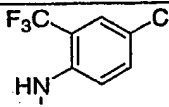
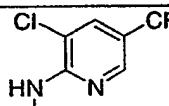
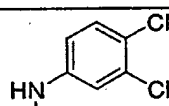
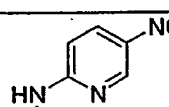
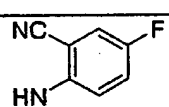
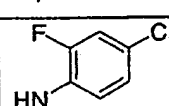
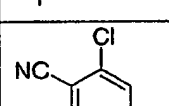
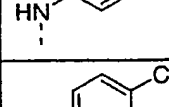
			
実施例番号	Y	n	塩
10		4	---
11		4	---
12		4	---
13		4	---
14		4	---
15		4	---
16		4	---
17		4	---
18		4	---

表 3

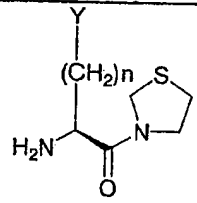
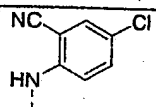
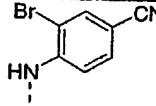
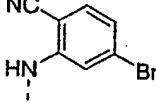
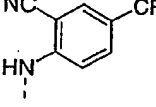
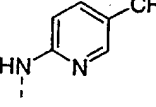
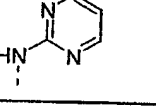
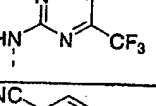
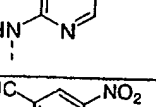
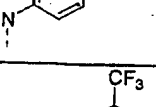
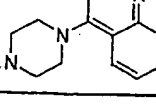
			
実施例番号	Y	n	塩
19		4	---
20		4	---
21		4	---
22		4	---
23		4	---
24		4	---
25		4	---
26		4	---
27		4	---
28		4	---

表 4

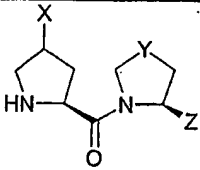
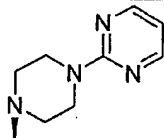
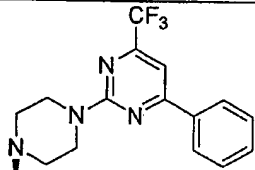
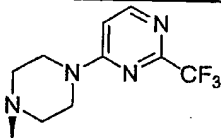
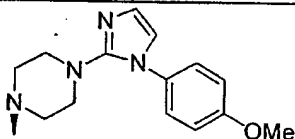
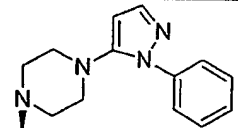
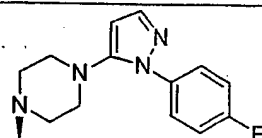
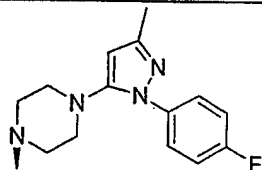
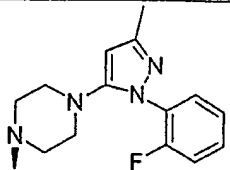
				
実施例番号	X	Y	Z	塩
29		S	H	3HCl
30		S	H	2HCl
31		S	H	2HCl
32		S	H	3HCl
33		S	H	3HCl
34		S	H	3HCl
35		S	H	3HCl
36		S	H	3HCl



表 5

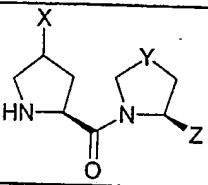
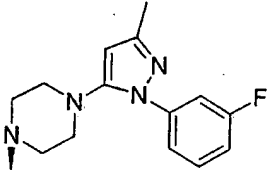
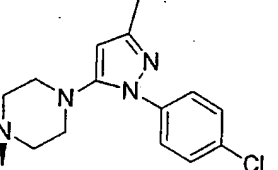
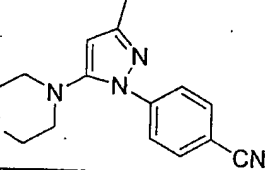
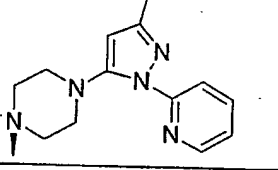
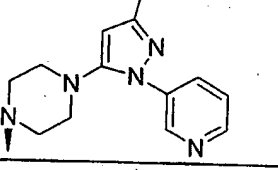
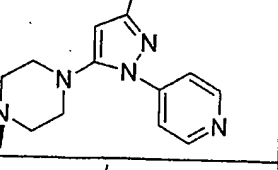
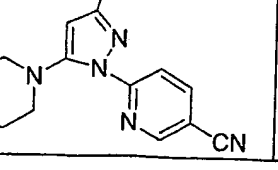
				
実施例番号	X	Y	Z	塩
37		S	H	3HCl
38		S	H	3HCl
39		S	H	2HCl
40		S	H	2HCl
41		S	H	3 マレイン酸
42		S	H	3 マレイン酸
43		S	H	2HCl

表 6

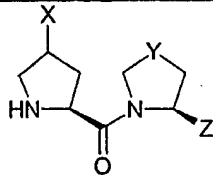
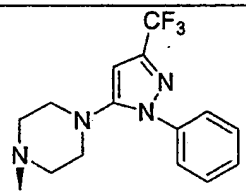
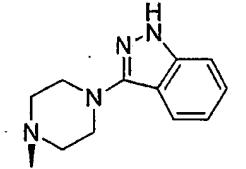
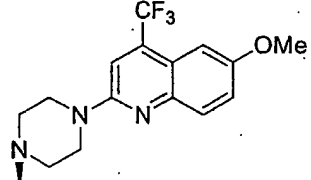
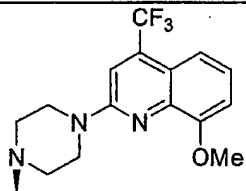
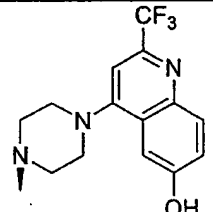
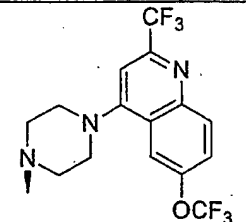
				
実施例番号	X	Y	Z	塩
44		S	H	3HCl
45		S	H	3HCl
46		S	H	2HCl
47		S	H	3HCl
48		S	H	2HCl
49		S	H	2HCl

表 7

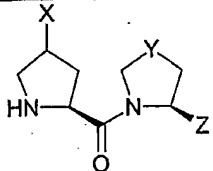
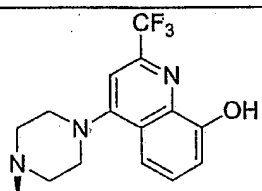
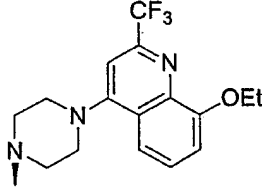
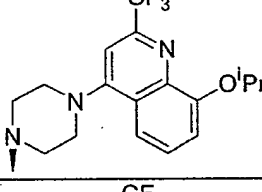
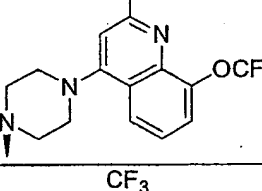
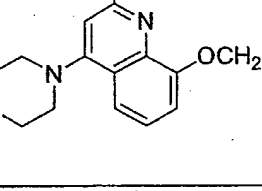
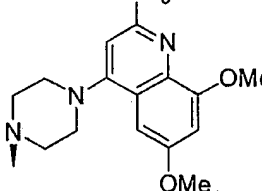
				
実施例番号	X	Y	Z	塩
50		S	H	3HCl
51		S	H	3HCl
52		S	H	3HCl
53		S	H	2HCl
54		S	H	2HCl
55		S	H	2HCl

表 8

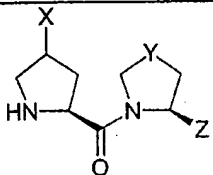
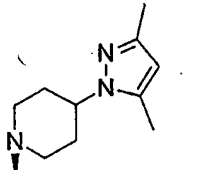
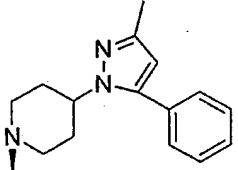
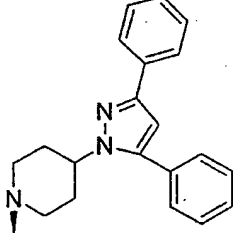
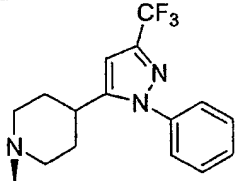
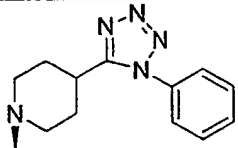
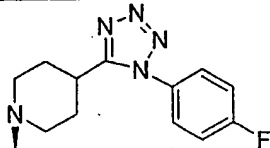
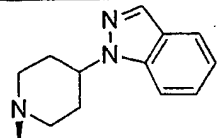
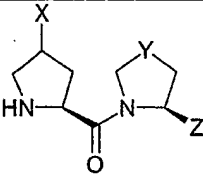
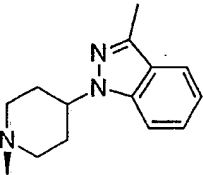
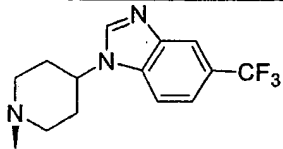
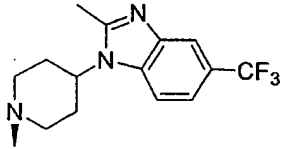
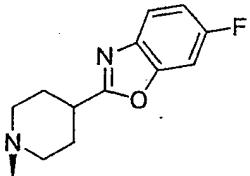
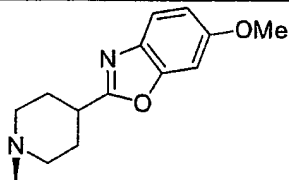
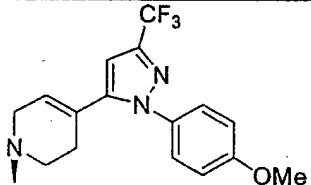
				
実施例番号	X	Y	Z	塩
56		S	H	3HCl
57		S	H	3HCl
58		S	H	2HCl
59		S	H	2HCl
60		S	H	2HCl
61		S	H	2HCl
62		S	H	2HCl

表 9

				
実施例番号	X	Y	Z	塩
63		S	H	2HCl
64		S	H	3HCl
65		S	H	3HCl
66		S	H	-
67		S	H	3HCl
68		S	H	2HCl

上記実施例と同様の方法により、下記化合物を合成することができる。

- 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-ベンゼンスルホニルフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[N-(4-メタンスルホニルフェニル)-N-メチルアミノ]ヘキサノイル}-1,
- 5 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[N-(5-シアノピリジン-2-イル)-N-メチルアミノ]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[N-(5-シアノピリジン-2-イル)-N-ベンジルアミノ]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、1-[(S)-2-アミノ-6-(4-メタンスルホニルフェニルアミノ)ヘキサノイル]ピロリジン、
- 10 1-[(S)-2-アミノ-6-(5-シアノピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]ピロリジン、3-[(S)-2-アミノ-6-(5, 6-ジシアノピリジン-2-イルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン、3-[(S)-2-アミノ-6-(3, 4-ジシアノフェニルアミノ)ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(4-ニトロフェニル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 15 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(3, 5-ジクロロフェニル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(ピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(ピリジン-4-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 20 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(4-シアノピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-シアノピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-ニトロピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 25 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-トリフルオロメチルピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-カルボキシピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チ

- アゾリジン、3-((S)-2-アミノ-6-{4-[5-(エトキシカルボニル)ピリジン-2-イル]ピペラジン-1-イル}ヘキサノイル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-カルバモイルピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 5 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(3, 5-ジクロロピリジン-4-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-2-イミダゾリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-((S)-2-アミノ-6-{4-[1-(ピリジン-2-イル)-5-ピラゾリル]ピペラジン-1-イル}ヘキサノイル)-1, 3-チアゾリジン、3-((S)-2-アミノ-6-{4-[4-(4-シアノフェニル)-2-チアゾリル]ピペラジン-1-イル}ヘキサノイル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-イソキノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 15 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(4-シアノ-1-イソキノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(4-キノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-メチル-4-キノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、
- 20 3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-6-メトキシ-4-キノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-8-メトキシ-4-キノリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(6-クロロ-2-トリフ
- 25

- ルオロメチル-4-キノリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-  
 -チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメ  
 チル-6, 8-ジメトキシ-4-キノリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイ  
 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(2-シ  
 5 アノ-4-キノリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾ  
 リジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(4-キナゾリニル) ピペラジ  
 ン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-ア  
 ミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-4-キナゾリニル) ピペラジン-  
 1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ  
 10 -6-[4-(2-ベンズイミダゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}  
 -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(5-シアノ  
 -2-ベンズイミダゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-  
 チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(1-メチル-2-ベン  
 ズイミダゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジ  
 15 ン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-2-ベンズイミダ  
 ザリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3-  
 { (S) -2-アミノ-6-[4-(2-ベンズオキサゾリル) ピペラジン-1  
 -イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-  
 6-[4-(5-シアノ-2-ベンズオキサゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキ  
 20 サノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-  
 (5-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイ  
 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(2-ベ  
 ンゾチアゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジ  
 ン、3- { (S) -2-アミノ-6-[4-(5-シアノ-2-ベンゾチアゾリ  
 25 ル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3-  
 { (S) -2-アミノ-6-[4-(5-メトキシ-2-ベンゾチアゾリル) ピ  
 ペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -  
 2-アミノ-6-[4-(5-クロロ-2-ベンゾチアゾリル) ピペラジン-1  
 -イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノ-



- 103

- サノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4-  
 (5-シアノ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-  
 チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (5-メトキシ-2-  
 ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3-  
 5 - { (S) - 2-アミノ-6-[4- (5-クロロ-2-ベンズオキサゾリル)  
 ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミ  
 ノ-6-[4- (2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-  
 チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (5-シアノ-2-ベン  
 ズチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3-  
 10 { (S) - 2-アミノ-6-[4- (5-メトキシ-2-ベンゾチアゾリル) ピ  
 ペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミ  
 ノ-6-[4- (5-クロロ-2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル}  
 - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (6-シアノ  
 -2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、  
 15 3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (6-メトキシ-2-ベンゾチアゾリ  
 ル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-  
 アミノ-6-[4- (6-クロロ-2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノ  
 イル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (3-  
 ベンズ [d] イソキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリ  
 20 ジン、3- { (S) - 2-アミノ-6-[4- (5-シアノ-3-ベンズ [d]  
 イソキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3-  
 { (S) - 2-アミノ-6-[4- (3-ベンズ [d] イソチアゾリル) ピペリ  
 ジノ]ヘキサノイル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) - 4-  
 [4- (5, 6-ジシアノ-2-ピリジル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリ  
 25 ジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) - 4- [4-  
 (3-ニトロ-2-ピリジル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカル  
 ボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) - 4- [4- (2-シ  
 アノ-4-ピリミジニル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニ  
 ル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) - 4- [4- (4-シアノ

- 2-フェニルフェニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ  
 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (4-シアノ  
 -2-ピリジルフェニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ  
 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-シアノ  
 5 -3-フェニル-2-ピリジル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル  
 ボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (1-フ  
 エニル-2-ピロリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル}  
 -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (4-メチル-1  
 -フェニル-2-ピロリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ  
 10 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4- [1- (2-  
 ピリジル) -2-ピロリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニ  
 ル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4- [4-メチル  
 -1- (2-ピリジル) -2-ピロリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジ  
 ニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4-  
 15 (1, 3-ジメチル-5-ピラゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニ  
 ルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4-  
 [1- (2-ピリジル) -5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリ  
 ジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4-  
 - [3-メチル-1- (2-メチルフェニル) -5-ピラゾリル] -1-ピペラ  
 20 ジニル} -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2  
 S, 4S) -4- {4- [3-メチル-1- (3-メチルフェニル) -5-ピラ  
 ザリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チア  
 ザリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4- [3-メチル-1- (4-メチル  
 フェニル) -5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボ  
 25 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- {4- [1- (2-  
 -メトキシフェニル) -3-メチル-5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -  
 2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S)  
 -4- {4- [1- (3-メトキシフェニル) -3-メチル-5-ピラゾリル]  
 -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、

- 3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-メトキシフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(3-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(3-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(2-ピリミジニル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(4-ピリミジニル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-イミダゾリル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(2-オキサゾリル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-トリフルオロメチル-1-(2-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[4-(4-メチル-1-フェニル-2-イミダゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(3-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリ

ジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[4-メチル-1-(2-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[4-メチル-1-(3-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[4-メチル-1-(4-ピリジル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-[4-(2-フェニル-1, 2, 4-トリアゾール-3-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-[4-(5-メチル-2-フェニル-1, 2, 4-トリアゾール-3-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2-(2-ピリジル)-1, 2, 4-トリアゾール-3-イル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[5-メチル-2-(2-ピリジル)-1, 2, 4-トリアゾール-3-イル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-[4-(5-フェニル-4-オキサゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4-オキサゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[5-(2-ピリジル)-4-オキサゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2-メチル-5-(2-ピリジル)-4-オキサゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4-チアゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-

- {4-[2-メチル-5-(2-ピリジル)-4-チアゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-1H-イミダゾール-4-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2-メチル-5-(2-ピリジル)-1H-イミダゾール-4-イル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-シアノ-1-ナフチル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-クロロ-1-ナフチル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル-1-ナフチル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル-1-イソキノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-シアノ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-シアノ-8-メトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(7-クロロ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-7-ヒドロキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2, 7-ビス(トリフルオロメチル)-4-キノリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-5-メトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-シアノ-4-キナゾリニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、

- 3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (2-トリフルオロメチル-1, 8-ナフチ  
リジン-4-イル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1,  
3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (2-トリフルオロメチ  
ル-1, 6-ナフチリジン-4-イル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニ  
5 ルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 -  
(1H-インドール-2-イル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカル  
ボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (1-フ  
ェニル-1H-インドール-2-イル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニ  
ルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - {4 -  
10 [1 - (2-ピリジル) - 1H-インドール-2-イル] - 1-ピペラジニル]  
- 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4  
S) - 4 - [4 - (3-メチル-1-フェニル-1H-インドール-2-イル)  
- 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、  
3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル)  
15 - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、  
3- { (2 S, 4 S) - 4 - {4 - [1 - (2-ピリジル) - 2-ベンズイミダ  
ゾリル] - 1-ピペラジニル} - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チア  
ゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (5-シアノ-1-フェニル-2  
-ベンズイミダゾリル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル}  
20 - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (5-メトキシ-  
1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジ  
ニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 -  
(5-クロロ-1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) - 1-ピペラジニル]  
- 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3- { (2 S, 4  
25 S) - 4 - [4 - (6-シアノ-1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) - 1  
-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-チアゾリジン、3  
- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (6-メトキシ-1-フェニル-2-ベンズイ  
ミダゾリル) - 1-ピペラジニル] - 2-ピロリジニルカルボニル} - 1, 3-  
チアゾリジン、3- { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (6-クロロ-1-フェニル

- 2-ベンズイミダゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ  
 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (5-メトキ  
 シ-2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ  
 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (5-クロ  
 5 ロ-2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ  
 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (6-シア  
 ノ-2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ  
 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (6-メト  
 キシ-2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル  
 10 ボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (6-ク  
 ロロ-2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル  
 ボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (6-メ  
 トキシ-2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) -1-ピペラジニル] -2-  
 ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4-  
 15 - [4- (6-シアノ-2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) -1-ピペラ  
 ジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2  
 S, 4S) -4- [4- (5-シアノ-2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジ  
 ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ  
 ジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (1-メチル-2-フェニル-1H-  
 20 インドール-3-イル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル}  
 -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (9-アグロジニ  
 ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ  
 ジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (2-フェニル-1, 2, 4-トリア  
 ザール-3-イル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チ  
 25 アゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- (5-メチル-2-フェニル-  
 1, 2, 4-トリアゾール-3-イル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボ  
 ニル} -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4- [4- [2- (2  
 -ピリジル) -1, 2, 4-トリアゾール-3-イル] ピペリジノ} -2-ピロ  
 リジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- {(2S, 4S) -4-



- {4-[5-メチル-2-(2-ピリジル)-1, 2, 4-トリアゾール-3-  
 イル] ピペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、  
 3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-フェニル-4-オキサゾリル) ピペリ  
 ジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S,  
 5 4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4-オキサゾリル) ピペリジ  
 ノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S,  
 4S)-4-{4-[5-(2-ピリジル)-4-オキサゾリル] ピペリジノ}  
 -2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4  
 S)-4-{4-[2-メチル-5-(2-ピリジル)-4-オキサゾリル] ピ  
 10 ペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-  
 {(2S, 4S)-4-[4-(5-フェニル-4-イソオキサゾリル) ピペリ  
 ジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S,  
 4S)-4-{4-[5-(2-ピリジル)-4-イソオキサゾリル] ピペリジ  
 ノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S,  
 15 4S)-4-[4-(5-フェニル-4-チアゾリル) ピペリジノ]-2-ピロ  
 リジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-  
 [4-(2-メチル-5-フェニル-4-チアゾリル) ピペリジノ]-2-ピロ  
 リジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-  
 {4-[5-(2-ピリジル)-4-チアゾリル] ピペリジノ}-2-ピロリジ  
 20 ニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-{4-  
 [2-メチル-5-(2-ピリジル)-4-チアゾリル] ピペリジノ}-2-ピ  
 ロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-  
 [4-(2-フェニル-1-ピロリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボ  
 ニル}-1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-{4-[2-(2  
 25 -ピリジル)-1-ピロリル] ピペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-  
 1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-フェニル-1  
 -イミダゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チア  
 ズリジン、3-{(2S, 4S)-4-{4-[2-(2-ピリジル)-1-イ  
 ミダゾリル] ピペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリ

- ジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (4-メチル-2-フェニル-1-イミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- ( (2S, 4S) -4- {4- [4-メチル-2- (2-ピリジル) -1-イミダゾリル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ( (2S, 4S) -4- {4- [1- (4-メチルフェニル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ( (2S, 4S) -4- {4- [1- (2-フルオロフェニル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ( (2S, 4S) -4- {4- [1- (3-フルオロフェニル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ( (2S, 4S) -4- {4- [1- (2-ピリジル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-シアノ-1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-クロロ-1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-メトキシ-1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-クロロ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-シアノ-2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (5-メトキシ-2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S, 4S) -4- [4- (2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (2S,

4 S) - 4 - [4 - (6 - シアノ - 2 - オキサゾロ [4, 5 - b] ピリジル) ピペリジノ] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン、3 - { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (2 - フェニル - 1 - ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン、3 - { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (5 - トリフルオロメチル - 2 - フェニル - 1 - ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン、3 - { (2 S, 4 S) - 4 - [4 - (5 - シアノ - 2 - フェニル - 1 - ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン。

10 また、比較化合物 1 として 3 - L - リジル - 1, 3 - チアゾリジン・2 トリフルオロ酢酸塩を以下の方法により合成した。

実施例 7 (1) のレジン 1209 mg に 50 % トリフルオロ酢酸 / ジクロロメタン 8 mL を加え、2 時間攪拌した。レジンを濾去し、減圧下で濃縮した。得られた残渣を ISOLUTE FLUSH C18 により精製することにより表題化

15 合物 280 mg を得た。

MS (ESI)  $m/z$  218 [MH]<sup>+</sup>

本発明の化合物は以下に示す実験例 1 により、強力な DPP - IV 阻害活性を示した。

実験例 1 (血漿 DPP - IV 阻害活性)

20 蛍光アッセイ法により、表 10 の条件で、ヒト及びラットの血漿 DPP - IV 阻害活性を測定した。DPP - IV 特異的な蛍光基質として Gly - Pro - MCA (ペプチド研) を用い、種々濃度の被験物質を含む下記組成の反応液を室温で 60 分間インキュベーションし、計測 (SPECTRA FLUOR、TEC AN 社) される蛍光強度 (Excitation 360 nm / Emission 465 nm) を DPP - IV 活性とした。

表 10

ラットあるいはヒト血漿（10倍希釈液）	20 $\mu$ L / ウェル
蛍光基質（100 $\mu$ mol / L）	20 $\mu$ L / ウェル
被験物質	20 $\mu$ L / ウェル
緩衝液（0.003% Brij-35 含有 PBS）	140 $\mu$ L / ウェル
全量	200 $\mu$ L / ウェル

溶媒添加群に対する阻害率を算出し、 $IC_{50}$  値をロジスティック解析により求めた。

- 5 以上の方法により求めた本発明の血漿 DPP-IV 阻害活性の  $IC_{50}$  値を表 11 および 12 に示す。

表 1 1

実施例化合物番号	ヒト血漿DPP-IV	ラット血漿DPP-IV
	阻害活性 IC <sub>50</sub> (nM)	阻害活性 IC <sub>50</sub> (nM)
5	28	19
6	34	29
7	15	13
13	66	40
14	29	18
28	35	49
比較化合物 1	856	719

表 1 2

実施例化合物番号	ヒト血漿DPP-IV	ラット血漿DPP-IV
	阻害活性 IC <sub>50</sub> (nM)	阻害活性 IC <sub>50</sub> (nM)
40	0.63	0.72
48	0.25	0.37
55	0.24	0.30
56	0.91	1.17

なお、比較化合物 1 は WO 99/61431 公報に包含される化合物であるが、表 1 1 に示すように血漿 DPP-IV 阻害活性は十分ではない。

- 5 また、表 1 3 に示すように、特表平 9-509921 号公報の化合物及び WO 99/61431 公報の化合物の血漿 DPP-IV 阻害活性は十分ではない。

表 13

公知化合物	ヒト血漿DPP-IV 阻害活性 IC <sub>50</sub> (nM)
(S)-2-シアノ-1-L-プロリルピロリジン	
・塩酸塩	2.9
3-L-プロリル-1, 3-チアゾリジン	538

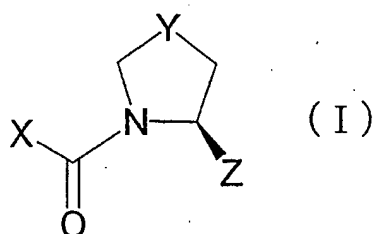
## 産業上の利用可能性

- 以上の実験例及び各種の薬理実験から、本発明化合物は、強力なDPP-IV
- 5 阻害活性を示し、糖尿病の予防、治療、又は、肥満の予防、治療に有用である。

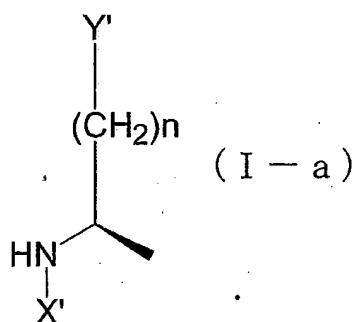
本出願は日本で出願された特願2001-279084および特願2001-304650を基礎としており、その内容は本明細書にすべて包含するものである。

## 請求の範囲

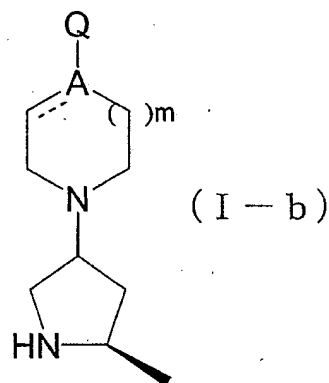
## 1. 一般式 (I) :



〔式中、Xは下式



又は



〔式中、mは1又は2の整数を示し、

5 nは1～5までの整数を示し、

X' は水素原子又は置換基を有してもよいアルキルを示し、

Y' は $-NR^1R^2$  ( $R^1$ は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、 $R^2$ は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、

置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。)を示し、

15 ーは、単結合又は二重結合を示し、

Aは炭素原子又は窒素原子を示し、

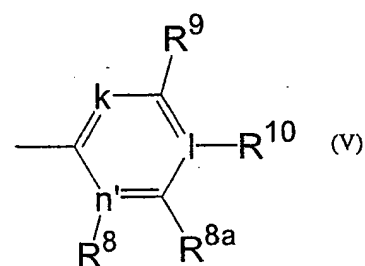
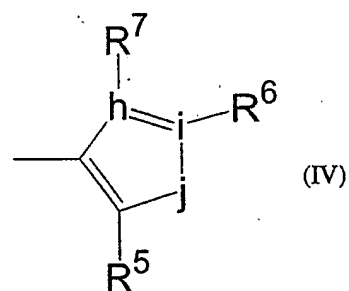
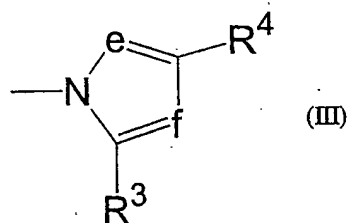
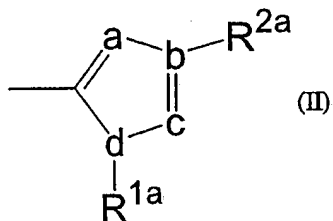
ただし、i) Aが炭素原子を示す場合、Aは水酸基、カルボキシ又はアルコキシカルボニルで置換されていてもよく、ii) Aが窒素原子を示す場合、

-----

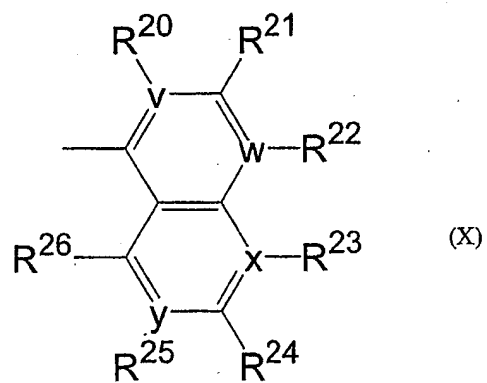
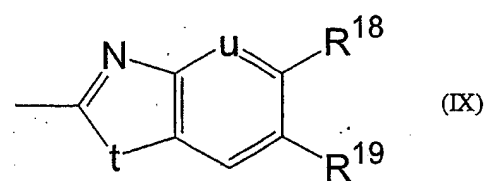
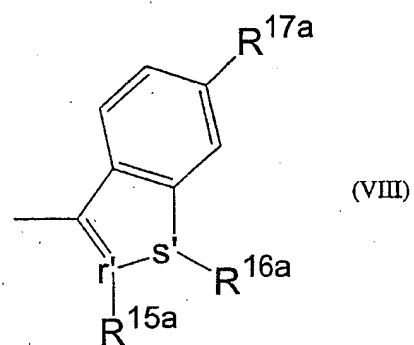
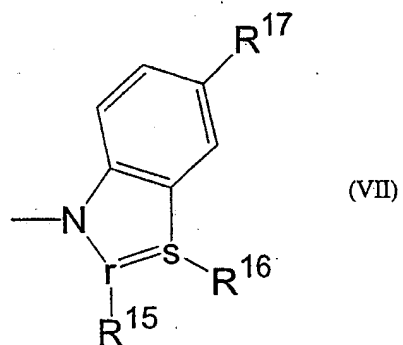
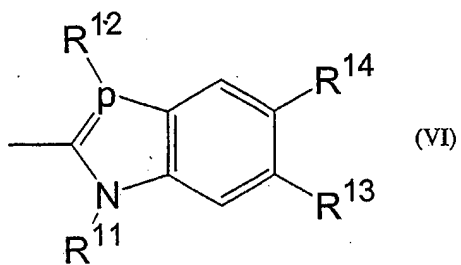
は単結合を示し、

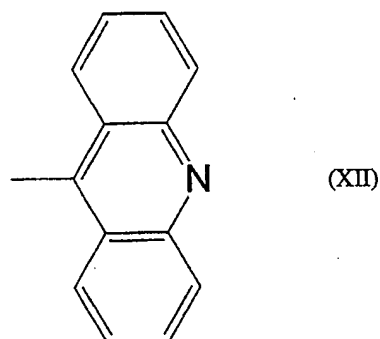
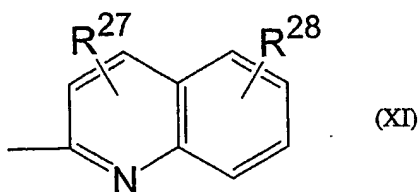
Qは下式 (I I) ~ (X I I) で表される化合物から選ばれるアリールまたはヘ

5 テロアリールである；









ただし、

- (i) 式 (I I) 中、a、b、c 及び d は、1～3 個が窒素原子であり、かつ残り  
5      りが炭素原子であるか、あるいはすべてが窒素原子であり、

$R^{1a}$  は、アルキル、フェニル、ピリジル、ピリミジニル、イミダゾリルまたはオキサゾリルであり、これらの基はそれぞれ 1 または 2 以上のアルキル、アルコキシ、ハロゲンまたはシアノで置換されていてもよく、

$R^{2a}$  は水素原子、アルキルまたはハロアルキルであり、ただし、

- 10      (i-1) b が窒素原子のときは  $R^{2a}$  は存在せず、

(i-2) c および d が共に窒素原子であり、a および b が共に炭素原子であり、 $R^{1a}$  がフェニルであり、かつ  $R^{2a}$  がアルキルであるときは、 $R^{1a}$  は、上記の置換基を 1 または 2 以上有し、

- (i-3) a および d が共に窒素原子であり、b および c が共に炭素原子であり、  
15      かつ  $R^{1a}$  が置換基を有しないフェニルであるときは、 $R^{2a}$  は、アルキルまたはハロアルキルであり、

(i-4) a、b、c 及び d がすべて窒素原子であり、かつ  $R^{1a}$  がフェニルであるときは、①式 (I-b) の A は炭素原子であり、かつ  $R^{1a}$  は上記置換基を有しないか、あるいは②  $R^{1a}$  はアルキルまたはハロゲンで 1 または 2 以上置換される

- 20      かのいずれかであり、

(ii) 式 (I I I) 中、e 及び f は一方が窒素原子であり、他方が炭素原子であるか、あるいは共に炭素原子であり、

$R^3$  及び  $R^4$  は、同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、アルキル、フェニルまたはピリジルであり、

- 5 (iii) 式 (I V) 中、j は硫黄原子、酸素原子または窒素原子であり、  
h 及び i は、同じでも異なってもよく、それぞれ窒素原子又は炭素原子であり、

$R^5$  及び  $R^7$  は、同じでも異なってもよく、それぞれ水素原子、フェニルまたはピリジルであり (ただし、h が窒素原子のときは  $R^7$  は存在しない)、

- 10  $R^6$  は、水素原子またはアルキルであり (ただし、i が窒素原子のときは  $R^6$  は存在しない)、

(iv) 式 (V) 中、k、l 及び  $n'$  は、同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは炭素原子であり、

- 15  $R^8$  は、水素原子、フェニル、ピリジルまたはニトロであり (ただし、 $n'$  が窒素原子のときは  $R^8$  は存在しない)、

$R^{8a}$  は水素原子またはフェニルであり、

$R^9$  は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

$R^{10}$  は、水素原子またはシアノであり (ただし、l が窒素原子のときは  $R^{10}$  は存在しない)、ただし、

- 20 (iv-1) k および  $n'$  が共に窒素原子のときは、①式 (I-b) の A は窒素原子であり、かつ  $R^{8a}$ 、 $R^9$  及び  $R^{10}$  はすべて水素原子であるか、または②  $R^{8a}$  はフェニルであり、かつ  $R^9$  はハロアルキルであるかのいずれかであり、

(iv-2) k、l 及び  $n'$  がすべて炭素原子であるときは、 $R^8$  はフェニルまたはピリジルであり、

- 25 (iv-3) k が窒素原子であり、かつ l および  $n'$  が共に炭素原子であるときは、①  $R^8$  はフェニルまたはニトロであるか、あるいは②  $R^9$  はシアノであるかのいずれかであり、

(iv-4) l が窒素原子であるときは、k または  $n'$  のいずれか 1 個が窒素原子

であり、

(v) 式 (V I) 中、 $p$  は、窒素原子または炭素原子であり、

$R^{11}$  は、水素原子、フェニルまたはピリジルであり (ただし、 $p$  が窒素原子であるとき、 $R^{11}$  はフェニルまたはピリジルである)、

- 5  $R^{12}$  は、水素原子またはアルキルであり (ただし、 $p$  が窒素原子のときは  $R^{12}$  は存在しない)、

$R^{13}$  及び  $R^{14}$  は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか 1 個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、

- 10 (vi) 式 (V I I) 中、 $r$  及び  $s$  は、1 個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり、

$R^{15}$  は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり (ただし、 $r$  が窒素原子のときは  $R^{15}$  は存在しない)、

$R^{16}$  は、水素原子またはアルキルであり (ただし、 $s$  が窒素原子のときは  $R^{16}$  は存在しない)、

- 15  $R^{17}$  は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(vii) 式 (V I I I) 中、 $r'$  及び  $s'$  は同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは窒素原子であり、

$R^{15a}$  は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり (ただし、 $r'$  が窒素原子のときは  $R^{15a}$  は存在しない)、

- 20  $R^{16a}$  は、水素原子またはアルキルであり (ただし、 $r'$  および  $s'$  が共に窒素原子であるときは、 $R^{16a}$  は水素原子である)、

$R^{17a}$  は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(viii) 式 (I X) 中、 $t$  は、硫黄原子または酸素原子であり、

$u$  は、炭素原子または窒素原子であり、

- 25  $R^{18}$  および  $R^{19}$  は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか 1 個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、ただし、

(viii-1)  $u$  が炭素原子であるときは、 $R^{18}$  および  $R^{19}$  のいずれか 1 個は、シアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、

(viii-2) tが硫黄原子であるときは、式(I-b)中のAは炭素原子であり、 $R^{19}$ は水素原子であり、かつ $R^{18}$ はメトキシまたはシアノであり、

(viii-3) 式(I-b)中のAが窒素原子であり、tが酸素原子であり、 $R^{19}$ が水素原子であり、かつuが炭素原子であるときは、 $R^{18}$ はアルコキシまたはハ  
5 ロゲンであり、

(viii-4) 式(I-b)中のAが炭素原子であり、 $R^{19}$ が水素原子であり、uが炭素原子であり、かつtが酸素原子のときは、 $R^{18}$ はハロゲンであり、

(ix) 式(X)中、v、w、x及びyは、同じでも異なってもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくとも2つは炭素原子であり、

10  $R^{20}$ 、 $R^{21}$ 、 $R^{22}$ 、 $R^{23}$ 、 $R^{24}$ 、 $R^{25}$ 及び $R^{26}$ は、同じでも異なってもよく、1~3個がハロアルキル、メトキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメトキシ、2, 2, 2-トリフルオロエトキシ、ヒドロキシ、シアノまたはハロゲンであり、残りが水素原子であり(ただし、vが窒素原子のときは $R^{20}$ は存在せず、wが窒素原子のときは $R^{22}$ は存在せず、xが窒素原子のときは $R^{23}$ は  
15 存在せず、yが窒素原子のときは $R^{25}$ は存在しない)、ただし、

(ix-1) vが窒素原子であり、かつw、x及びyがすべて炭素原子のときは、 $R^{22}$ はハロアルキルであり、

(ix-2) vおよびwが共に窒素原子であり、かつxおよびyが共に炭素原子のときは、 $R^{21}$ はシアノであり、

20 (ix-3) wが窒素原子であり、かつv、x及びyがすべて炭素原子のときは、  
① $R^{21}$ は水素原子であり、かつ $R^{20}$ はシアノであるか、② $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{23}$ はヒドロキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメトキシまたは2, 2, 2-トリフルオロエトキシであるか、③ $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{23}$ および $R^{25}$ は共にメトキシであるか、④ $R^{21}$ はハロアルキル  
25 であり、かつ $R^{24}$ はヒドロキシ、クロロまたはトリフルオロメチルであるか、⑤ $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{25}$ はヒドロキシまたはトリフルオロメトキシであるか、⑥ $R^{21}$ はハロアルキルであり、かつ $R^{26}$ はメトキシであるか、あるいは⑦ $R^{21}$ はシアノであり、かつ $R^{23}$ はメトキシであるかのいずれかであり、

(x) 式 (XI) 中、 $R^{27}$  及び  $R^{28}$  は、同じでも異なってもよく、それぞれハロアルキルまたはアルコキシである。] から選ばれる置換基であり、  
Y はメチレン、ヒドロキシメチレン、硫黄原子、スルフィニル又はスルホニルを示し、

5 Z は水素原子又はシアノを示す；

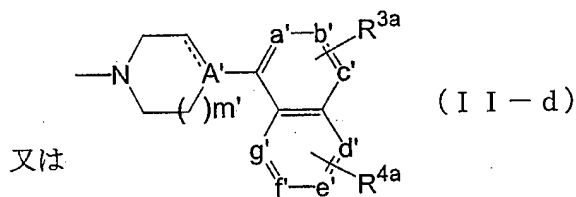
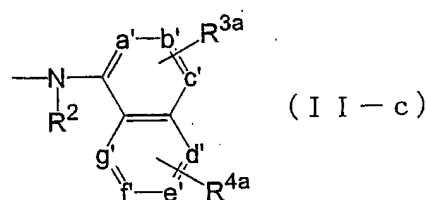
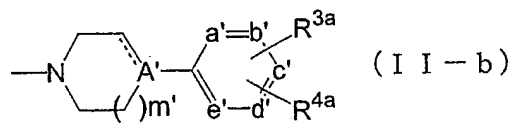
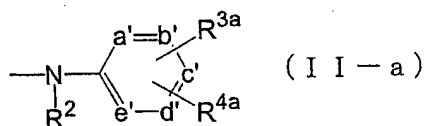
ただし、X が式 (I-a) で表される置換基である場合は、Z は水素原子である。] で表されるチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

2. 一般式 (I-a) の  $Y'$  が、 $-NR^1R^2$  [ $R^1$  は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、 $R^2$  は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、1~2 個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。] である請求項 1 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

3. 一般式 (I) の X が式 (I-a) で表される置換基であり、かつ Z が水素原子である請求項 1 または 2 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

20 4. 一般式 (I) の X が式 (I-b) で表される置換基である請求項 1 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

5. 一般式 (I-a) の  $Y'$  が下式



又は

[式中、

-----

は、単結合又は二重結合を示し、

$R^2$ は請求項1と同義であり、

$R^{3a}$ 及び $R^{4a}$ は同一又は異なっているとしてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換

5 基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、 $-NR^{5a}R^{6a}$ 、 $-NH\text{SO}_2R^{7a}$ 、 $-OR^{8b}$ 、 $-COOR^{9a}$ 、 $-CONH\text{SO}_2R^{10a}$ 、 $-SO_2OR^{11a}$ 、 $-SO_2R^{12a}$ 又は $-CONR^{13a}R^{14a}$  (式中、 $R^{5a}$ 、

10  $R^{6a}$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8b}$ 、 $R^{9a}$ 、 $R^{10a}$ 、 $R^{11a}$ 、 $R^{12a}$ 、 $R^{13a}$ 及び $R^{14a}$ は同一又は異なっているとしてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、 $R^{5a}$ と $R^{6a}$ 、 $R^{13a}$ と $R^{14a}$ はそれぞれ互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有しているとしてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有しているとしてもよい芳香環が置換又は縮合しているとしてもよい。)を示し、

20  $a'$ 、 $b'$ 、 $c'$ 、 $d'$ 、 $e'$ 、 $f'$  および  $g'$  は全て炭素原子であるか、あるいはいずれか1つ又は2つが窒素原子であり、かつ残りが炭素原子を示し、

$m'$  は0、1、2又は3を示し、

$A'$  は炭素原子または窒素原子を示し、

ただし、i)  $A'$  が炭素原子を示す場合、 $A'$  は水酸基、カルボキシル又はアル

25 コキシカルボニルで置換されていてもよく、ii)  $A'$  が窒素原子を示す場合、

-----

は、単結合を示す。] から選ばれる置換基である請求項3に記載のチアゾリジン

誘導体又はその医薬上許容される塩。

6. 一般式 (I I - a)、(I I - b)、(I I - c) および (I I - d) の  $R^{3a}$  及び  $R^{4a}$  が、同一又は異なっているとしてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、 $-NR^{5a}R^{6a}$ 、 $-NH\text{SO}_2R^{7a}$ 、 $-OR^{8b}$ 、 $-COOR^{9a}$ 、 $-CONH\text{SO}_2R^{10a}$ 、 $-\text{SO}_2OR^{11a}$ 、 $-\text{SO}_2R^{12a}$  又は  $-\text{CONR}^{13a}R^{14a}$  (式中、 $R^{5a}$ 、 $R^{6a}$ 、 $R^{7a}$ 、 $R^{8b}$ 、 $R^{9a}$ 、 $R^{10a}$ 、 $R^{11a}$ 、 $R^{12a}$ 、 $R^{13a}$  及び  $R^{14a}$  は同一又は異なっているとしてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、 $R^{5a}$  と  $R^{6a}$ 、 $R^{13a}$  と  $R^{14a}$  はそれぞれ互いに結合して 1 ~ 2 個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。) である請求項 5 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
- 10
- 15

7. Y が硫黄原子であり、かつ X' が水素原子である請求項 3 に記載のチアゾリジン誘導体誘導体又はその医薬上許容される塩。
- 20

8. Y が硫黄原子であり、X' が水素原子であり、かつ Y' が置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2-ピリジルアミノ又は 4-(1-イソキノリル)-1-ピペラジニルである請求項 3 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 25 9. 請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩と薬理学上許容しうる担体とを含有する医薬組成物。

10. 請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩を含有する DPP-IV 阻害剤。



11. 請求項1～8のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩を有効成分とするDPP-IVが関与する疾患の治療剤。

12. DPP-IVが関与する疾患が糖尿病又は肥満である請求項11に記載の治療剤。

# INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/09419

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl<sup>7</sup> C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 31/454,  
A61P3/04, 3/10, 43/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>7</sup> C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 31/454,  
A61P3/04, 3/10, 43/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CAPLUS (STN), CAOLD (STN), REGISTRY (STN), WPI/L (DIALOG)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P, X P, Y	EP 1245568 A1 (Les Laboratoires Servier), 02 October, 2002 (02.10.02), Par. Nos. [0003], [0018]; example 73 & FR 2822826 A	1-3, 9-12 5-8
P, X P, Y	JP 2002-265439 A (Mitsubishi Pharma Corp.), 18 September, 2002 (18.09.02), Claims; examples 1 to 24 (Family: none)	1-2, 9-12 3, 5-8
P, X P, Y	WO 02/14271 A1 (Welfide Corp.), 21 February, 2002 (21.02.02), Claims; examples (Family: none)	1, 4, 9-12 1, 4, 9-12

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier document but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search 21 November, 2002 (21.11.02)	Date of mailing of the international search report 24 December, 2002 (24.12.02)
---	--

Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office	Authorized officer
--	--------------------

Facsimile No.	Telephone No.
---------------	---------------

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP02/09419

## C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P,X P,Y	WO 02/068420 A1 (Boehringer Ingelheim Pharma KG), 06 September, 2002 (06.09.02), Page 2; compound (142); Claims (Family: none)	1-3,9-12 5-8
P,X	WO 01/81337 A1 (Ferring B.V.), 01 November, 2001 (01.11.01), Page 2; examples 9 to 11, 116 to 118; Claims & AU 5053701 A	1-3,5-12
Y	DE 19826972 A1 (OTTO-VON-GUERICKE-UNIVERSITAT MAGDEBURG; MARTIN-LUTHER-UNIVERSITAT HALLE- WITTENBERG), 23 December, 1999 (23.12.99), All pages (Family: none)	1-3,7,9-12
Y	EP 450352 A1 (Poli Industria Chimica S.p.A.), 09 October, 1991 (09.10.91), All pages (Family: none)	1-3,7,9-12
Y	US 5462928 A (New England Medical Center Hospitals, Inc.), 31 October, 1995 (31.10.95), Compounds stated in Fig. 2 & WO 91/16339 A1 & EP 610317 A1 & JP 7-504158 A	1-3,7,9-12
Y	WO 95/15309 A1 (Ferring B.V.), 08 June, 1995 (08.06.95), All pages & EP 731789 A1 & JP 9-509921 A & US 5939560 A	1-3,7,9-12

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 31/454, A61P3/04, 3/10, 43/00

## B. 調査を行った分野

## 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 31/454, A61P3/04, 3/10, 43/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

## 国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS (STN), CAOLD (STN), REGISTRY (STN), WPI/L (DIALOG)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
PX PY	EP 1245568 A1 (LES LABORATORIES SERVIER) 2002. 10. 02 [0003]、[0018] 段落、EXAMPLE 73 等を参照。 &FR 2822826 A	1-3, 9-12 5-8
PX PY	JP 2002-265439 A (三菱ウェルファーマ株式会社) 2002. 09. 18 請求の範囲、実施例 1-24 等を参照。 (ファミリーなし)	1-2, 9-12 3, 5-8

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

21. 11. 02

国際調査報告の発送日

24.12.02

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

榊原 貴子



4P

3040

電話番号 03-3581-1101 内線 3450

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
PX PY	WO 02/14271 A1 (ウェルファイド株式会社) 2002.02.21 請求の範囲、実施例等を参照。 (ファミリーなし)	1, 4, 9-12 1, 4, 9-12
PX PY	WO 02/068420 A1 (BOEHRINGER INGELHEIM PHARMA KG) 2002.09.06 第2頁、化合物(142)、請求の範囲等を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 9-12 5-8
PX	WO 01/81337 A1 (FERRING B. V.) 2001.11.01 第2頁、EXAMPLE 9-11, 116-118、請求の範囲等を参照。 &AU 5053701 A	1-3, 5-12
Y	DE 19826972 A1 (OTTO-VON-GUERICKE-UNIVERSITAT MAGDEBURG; MARTIN-LUTHER-UNIVERSITAT HALLE-WITTENBERG) 1999.12.23 全頁を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 7, 9-12
Y	EP 450352 A1 (POLI INDUSTRIA CHIMICA S. P. A.) 1991.10.09 全頁を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 7, 9-12
Y	US 5462928 A (NEW ENGLAND MEDICAL CENTER HOSPITALS, INC.) 1995.10.31 FIG. 2に記載の化合物等を参照。 &WO 91/16339 A1 &EP 610317 A1 &JP 7-504158 A	1-3, 7, 9-12
Y	WO 95/15309 A1 (FERRING B. V.) 1995.06.08 全頁を参照。 &EP 731789 A1 &JP 9-509921 A &US 5939560 A	1-3, 7, 9-12